

龍谷大学国際学部

設置の趣旨等を記載した書類

平成 26(2014)年 6 月

■ 目 次 ■

ア 設置の趣旨および必要性	1
1. 龍谷大学国際学部設置の趣旨	
2. 龍谷大学国際学部の設置の必要性	
3. 龍谷大学国際学部において育成する人材像	
イ 学部、学科等の特色	3
1. 教育の特色	
2. 教育内容の特色	
ウ 学部、学科等の名称および学位の名称	6
1. 学部の名称	
2. 学科の名称	
3. 学位の名称	
エ 教育課程の編成の考え方および特色	7
1. 教育課程編成の基本方針および履修順序（配当年次）の実施方針	
2. 科目区分の設定および科目構成とその理由	
3. 設置の趣旨、学部の特色を実現するためのコース編成および科目領域編成	
4. 必修科目・選択科目・自由科目の構成とその理由	
オ 教員組織の編成の考え方および特色	13
1. 教員配置の基本的考え方	
2. 中核となる科目や必修科目における教員配置	
3. 実務経験のある専任教員の配置	
4. 教員組織の研究分野と研究体制	
5. 教員組織の年齢構成	
カ 教育方法、履修指導方法および卒業要件	15
1. 授業の方法、学生数、配当年次の設定	
2. 卒業要件	
3. 履修モデル	
4. 履修科目の登録上限	
キ 施設、設備等の整備計画	20
1. 校地、運動場の整備計画	
2. 校舎等施設の整備計画	
3. 図書館の資料および図書館の整備計画	

ク 入学者選抜の概要	22
1. 国際学部のアドミッションポリシー	
2. 国際学部の選抜方法	
3. 国際学部の選抜体制	
4. 国際学部の編入学・転入学制度	
ケ 資格取得	25
サ 企業実習や海外語学研修など学外実習の実施	25
ス 編入学定員	27
1. 編入学制度	
セ 2つ以上の校地における教育	28
タ 多様なメディアの利用	28
ツ 管理運営	28
テ 自己点検・評価	29
ト 情報の公表	30
ナ 授業内容方法の改善を図るための組織的な取組	34
ニ 社会的・職業的自立に関する指導等および体制	35
1. 教育課程内の取組	
2. 教育課程外の取組	
3. 適切な体制の整備	

ア 設置の趣旨および必要性

1. 龍谷大学国際学部設置の趣旨

龍谷大学は、寛永16（1639）年に浄土真宗本願寺派の教育機関「学寮」として創立して以来、浄土真宗の精神（親鸞精神）を建学の理念とし、人間性豊かで深い学識と教養を備え、社会の発展向上に貢献する人間を養成することを目的において発展を遂げてきた。

現在は、文学部、経済学部、経営学部、法学部、理工学部、社会学部、国際文化学部、政策学部の8学部、文学研究科、経済学研究科、経営学研究科、法学研究科、理工学研究科、社会学研究科、国際文化学研究科、政策学研究科、実践真宗学研究科の9研究科、法務研究科（法科大学院）および短期大学部を含めて、8学部9研究科1専門職大学院1短期大学部を擁する総合大学に発展している。

今般、新たに設置する「国際学部」の母体となる国際文化学部は、平成8（1996）年に開設され、本学全体の国際化を推進する学部として位置づけられてきた。少人数での語学教育や多様な世界の文化の理解に力を入れ、学生の多くが在学中に長期または短期の留学を体験している。また、専任教員の半数近くを外国籍の教員が占めるとともに、留学生や海外の大学からの短期研修の受け入れも積極的にこなう等、学部内で多様な言語・文化環境を体験できることが特色である。

平成27（2015）年度には、国際文化学部を現在の瀬田キャンパス（滋賀県大津市）から深草キャンパス（京都市伏見区）に移転するとともに、国際文化学科とグローバルスタディーズ学科（新設）から成る国際学部へ改組することで、急速にグローバル化する世界の情勢に合わせた教育を展開し、かつ大学の方針である深草キャンパスの多文化共生キャンパス化を推進する。なお、瀬田キャンパスには新たに農学部を設置（設置認可申請中）する計画である。

このうち、現「国際文化学部」の教育研究における蓄積を継承する国際文化学科では、「多文化共生」、「世界と日本」、「芸術・メディア」の3つのコースを設け、日本を含む世界の多様な言語と文化の理解を基礎に、世界と日本をつなぐ人材に求められる種々の知識と能力の修得に重点を置いた教育を展開する。

一方、新設するグローバルスタディーズ学科では、複眼的な視点を以て世界の情勢に総合的かつ大局的にアプローチするとともに、多様な価値観をグローバルな視点から捉え直し、あらゆる事象を複眼的に分析するための知識・方法・倫理観の修得に重点を置いた教育を展開する。また、国際社会でリーダーシップを発揮する上で求められる英語能力の習得を目指し、授業のほとんどを英語または英語・日本語併用で実施するとともに、半年以上の留学を必修とする。

2. 龍谷大学国際学部の設置の必要性

20世紀終盤から顕著となったグローバル化は、21世紀になってさらに加速し、人と情報の流れは言語や国境を越えてボーダーレスに展開している。こうしたグローバル化の時代の大学教育には、多様な価値観の存在を尊重しつつ、その差異を乗り越えて未来を志向する社会の担い手の育成が求められている。また、このような時代を生き抜くためには、

複眼的な観点から物事を捉え、多様な見解を持つ他者との対話を通じて、自らの考えを深めていく学修と実践が必要となる。国際学部は、大学教育のあり方が問われている現状を踏まえ、社会的ニーズに応える本学の姿勢として、現「国際文化学部」のこれまでの教育研究資源をもとに、京都の地で新たな教学展開を図るものである。

経済や企業活動のグローバル化に伴い、今後は先進諸国だけでなく、新興国を含めて優秀な人材の獲得競争が激化していくことは想像に難くない。「学生の確保の見通し等を記載した書類」にも記載しているとおり、我が国におけるグローバル人材の需要拡大の状況を見ると、「大学におけるグローバル人材育成のための指標調査」報告書（平成 24（2012）年 3 月 みずほ情報総研株式会社）では、平成 18（2006）年事業所企業統計調査（調査日：平成 18（2006）年 10 月 1 日）から平成 21（2009）年経済センサス基礎調査（調査日：平成 21（2009）年 7 月 1 日）にかけての会社企業の常用雇用者数の変化率を延長して、平成 29（2017）年におけるグローバル人材の需要量（人数）を推計している。それによると、グローバル人材量（人数）は、平成 24（2012）年の 1,687,871 人から平成 29（2017）年には 4,118,562 人に上ると推計されており、約 2.4 倍となっている。グローバル人材率においては、4.3%から 8.7%へと 4.4 ポイント上昇すると推計されており、企業の国際展開を担うグローバル人材の需要はますます増大している。

グローバル化の進展とともに、ボーダーレスで活躍する人材が必要とされていることは論を俟たない。その一方で、日本国内にあって世界とつながる仕事や機会が増加している。こうした状況にあって、学生の志向にも、2つの方向性が見られる。すなわち、国内に生活基盤を置きつつ、世界と日本のつながりに関心を示し、異なる文化間に生じる問題を調整しようとするファシリテーター型と、地球規模の課題に関心を示し、活躍の場を海外に求めようとするリーダーシップ発揮型である。

これらの2つの方向性は明確に区分できるとは限らない。しかしながら、前者を志向する人材には、日本文化の理解を基礎に、世界と日本をつなぐ柔軟な姿勢が求められるのに対して、後者を志向する人材には、実践的な英語運用能力と国際社会で挑戦し続ける精神的強さ、および揺るぎない倫理観が要求されるなど、一定の違いが存在する。このことを踏まえ、国際学部では、世界と日本をつなぐ役割を果たす人材を育成する国際文化学科と、世界でリーダーシップを発揮できる人材を育成するグローバルスタディーズ学科の2学科体制により、グローバル化の時代に求められる大学教育を展開しようとするものである。

3. 龍谷大学国際学部において育成する人材像

国際学部では、建学の精神にもとづき、異文化への理解と敬意を深めるとともに、自文化についての発信力を養い、優れたコミュニケーション能力と問題解決能力を備えた人材を育成することを目的とする。

国際文化学科では、自己の文化的背景を活かしながら他者の立場に配慮し、外国語とその背景となる文化を学ぶことで、各地域のローカルな視点を尊重しつつ、それらを結ぶファシリテーターとして活躍できる人材を育成する。このため、世界の文化の多様性とその背景を学び、そうした多様な文化を日本および自己との連携の中で捉え直し、文化間に発生する諸問題を調整できる知識と能力の修得を目指す。

グローバルスタディーズ学科では、「グローバルスタディーズ」の概念を以下のように定義する。すなわち、地球上で発生するあらゆる事柄は地域や国境を超えた関係性をもっていと認識し、グローバルな視点からの知識と思考力、文化や習慣の異なる人々と協働するための能力、および人類共通の価値を希求する倫理観をもって、急速に進展するグローバルな現象の解明やグローバル化に伴う問題に取り組む学問である。このグローバルスタディーズの学修を通して、柔軟性と批判的精神を併せ持ちながら、「グローバル言語としての英語（English as a Global Language）」という認識のもと、卓越した英語力をもって国際舞台でリーダーシップを発揮できる人材を育成する。このため、体系的な英語教育と併せて、世界の諸事象を複眼的に分析するための知識と方法の修得を目指す。また、思想や宗教、様々な価値観を学ぶことによる揺るぎない倫理観の形成、置かれた環境に関係なく発揮できるチャレンジ精神と精神的な強さの涵養を目指す。

イ 学部、学科等の特色

1. 教育の特色

中央教育審議会答申（「我が国の高等教育の将来像」）の提言する「高等教育の多様な機能と個性・特色の明確化」では、大学の機能別分化の重要性が指摘されている。それによれば、大学は7つの機能（①世界的研究・教育拠点、②高度専門職業人養成、③幅広い職業人養成、④総合的教養教育、⑤特定の専門的分野（芸術、体育等）の教育・研究、⑥地域の生涯学習機会の拠点、⑦社会貢献機能（地域貢献、産学官連携、国際交流等））のうち、保有する幾つかの機能の比重の置き方で個性・特色を表していくことが理想とされている。

国際学部については、本学の建学の精神、高等教育機関としてのこれまでの歴史や社会的な位置づけなどを踏まえ、上記の機能群のうち、主として【③幅広い職業人養成】、【④総合的教養教育】、【⑦社会貢献機能（特に国際交流）】を特色として社会に訴求する。

【③幅広い職業人養成】については、ユニバーサル段階を迎えた我が国の高等教育を踏まえ、実社会が求める「独創性」、「即戦力」、「基礎学力」などを満たした人材を育成する役割を積極的に志向する。特にグローバル化が著しい現代にあつて、課題探究能力の育成は重要であり、教育に重点を置く大学として、本学において高等教育を受けることによる付加価値を引き続き社会に訴求する。

【④総合的教養教育】は、上記【③幅広い職業人養成】と密接に関連する。文系7学部を擁する本学にあつて、唯一リベラル・アーツ・カレッジ型教育を実践してきた国際文化学部を母体とする国際学部は、総合的な教養教育を提供できる学部として、引き続き高い存在意義を示すことになる。教養教育の重要性が再評価されている近年の傾向を踏まえ、国際学部では、グローバル化の時代に求められる総合的な教養教育を展開する。

【⑦社会貢献機能】において、国際学部は特に「国際交流」に関する役割を担うことになる。2020年までに日本人留学生を倍増させることが「日本再興戦略」（平成25（2013）年6月閣議決定）で掲げられたが、国際学部では、留学を必修とするグローバルスタディーズ学科を設置することで、これまで以上に多くの日本人学生の海外留学を促進する。その一方で、総務省の統計によれば、在留外国人数は長期的かつ着実に増加しているため（日

本の総人口に占める外国人の割合は平成 23 (2011) 年末で 1.63%であり、平成元 (1989) 年の 0.80%から倍増)、国際文化学科を中心に、日本の地域社会や企業等で国際交流の一端を担う人材を育成する必要がある。

2. 教育内容の特色

(1) 国際文化学科

国際文化学科では、「世界を学び、日本を知る」という理念を掲げ、世界の多様な言語と文化を学び、世界と日本をつなぐことのできる人材を育成する。そのため、日本を軸としながら、様々な国や地域における文化的な多様性を学び、異なる文化間で生じる問題を調整する知識と能力を修得できるよう、以下のような特色ある教育を展開する。

①3 コース制による専門知識や能力の修得

すべての学生が 2 年次から、「多文化共生」、「世界と日本」、「芸術・メディア」のいずれかのコースに所属し、各コースが指定する科目を中心に、自身の興味や関心に応じた学びを追求できるようにする。また、3 年次からは、原則としてコース所属教員の演習を選択し、自らテーマを設定して卒業論文を完成させていく。

②すべての学年で演習型の少人数教育を導入

1 年次の「基礎演習 A」および「基礎演習 B」、2 年次の「国際文化実践プログラムⅠ」および「国際文化実践プログラムⅡ」、そして 3 年次以降の「演習Ⅰ」～「演習Ⅳ」により、学生は 1 年次から 4 年次まで、一貫して専任教員のもとで少人数教育を受けることになる。

③京都学舎における学内外の教育資源の活用

他学部と連携した教養教育を展開し、多様な教育資源の活用を図る。例えば、深草町家キャンパス（京都市伏見区）や龍谷ミュージアム（京都市下京区）などの学内施設のほか、京都の地の利を活かし、伝統文化等を積極的に活用した授業を展開する。

④グレードナンバー制の導入と活用

すべての授業科目に統一された基準にもとづく番号（グレードナンバー）を付することで、年次ごとに履修すべき科目を明確化し、また、類似系統に属する科目群内部において、科目の性質や科目相互の関連性を可視化し、学生の体系的な学びを支援する。

⑤充実した留学支援制度にもとづく海外留学の促進

多くの海外留学者を輩出してきた現「国際文化学部」の諸制度（留学希望者へのサポート活動、留学中の学費免除措置など）を継承しつつ、海外留学をさらに促進すべく、選択必修外国語に指定している英語圏・フランス語圏・中国語圏・コリア語圏について留学先の一層の開拓と多様化を図る。また、これら以外の言語圏への留学も推奨する。さらに、留学中の学生に対しては、専任教員が学部独自のソーシャルネットワーキングシステムを活用し、留学先での実践的な学びを支援する体制をとる。

⑥正規留学生の受け入れ

現「国際文化学部」では、入学定員に正規留学生枠を設けてきたが、国際文化学科では

この形式を踏襲し、30名の正規留学生定員を設け、また、外国語科目として「日本語」を提供することで、国際学部における正規留学生の主たる受け入れ先としての役割を果たす。さらに、これまで以上に日本人学生との協働の機会を確保し、課外活動等を通じて地域社会と触れ合う機会も学科として拡充する。

（２）グローバルスタディーズ学科

現代では、英語が共通語として用いられる傾向が強まっており、国際社会で発言力をもって活躍するためには、一定の英語運用能力の修得が必須条件となる。とはいえ、英語学習自体を最終目的とするのではなく、英語を通じて情報を取得し、批判的分析にもとづく議論を提示し、行動に移すことが重要である。そこでグローバルスタディーズ学科では、海外の提携大学への半年以上の留学を義務づけ、また、学科専攻科目のほとんどを英語または英語・日本語併用にて受講できるカリキュラムとする。さらにTOEIC®730点、TOEFL®(550-PBT,80-iBT)、IELTS™6.0のいずれかを取得することを卒業要件に含める。併せて、グローバル社会で求められる見識や他者に対する敬意と理解力を修得できるよう、以下のような特色ある教育を展開する。

① すべての学期に英語による講義科目を配置

すべての学期に英語による講義科目を配置する。特に2年次から受講する学科専攻科目は英語のみ、または英語・日本語併用による講義を充実させ、専門知識を複数の言語で理解し議論できる能力を養成する。ただし教育効果の観点から、日本語による講義科目も提供する。

② グレードナンバー制の活用と GPA 制度の厳格化

すべての授業科目に統一された基準にもとづく番号（グレードナンバー）を付することで、年次ごとに履修すべき科目を明確化し、また、類似系統に属する科目群内部において、科目の性質や科目相互の関連性を可視化し、学生の体系的な学びを支援する。また、留学許可に一定の GPA 基準を設けるなど、GPA 制度の厳格化を図る。

③ スーパーバイザー制度・メンター制度の導入

全学生に対して、演習担当教員とは異なる教員がスーパーバイザーとなる制度を導入し、留学中も含めて在学期間を通じた個別指導をおこなう。また、メンター（先輩指導者）制度を導入し、上級生や卒業生からも助言を受けられる体制とする。

④ 正規専門科目の受講を視野に入れた留学制度

英語を使った仕事に就き、活躍する人材を育成するため、半年以上の留学を必修とする。留学先では基本的に現地の学生対象の正規専門科目を受講させ、専門知識の修得を促す。また、語学力向上を目的とした語学研修プログラム（短期留学）も併せて準備する。

⑤ 3つの領域から複眼的視野を涵養

国際社会でリーダーシップを発揮して活躍する上で求められる、広い視野と現代的教養を涵養すべく、学科専攻科目に関しては「グローバルイゼーション」、「コミュニケーション」および「エシックス」から成る3つの領域を設定し、体系的な履修を促す。

ウ 学部、学科等の名称および学位の名称

学部、学科の名称および学位の名称については以下のとおりとする。

学部名称	学科名称	学位名称
国際学部 [Faculty of International Studies]	国際文化学科 [Department of Intercultural Communication]	学士（国際文化学） [Bachelor of Intercultural Communication]
	グローバルスタディーズ学科 [Department of Global Studies]	学士（グローバルスタディーズ） [Bachelor of Global Studies]

1. 学部の名称

国際学部は、日本社会の「内なる国際化」に対応できるファシリテーター型人材の育成と、国際舞台で活躍できるリーダーシップ発揮型人材の育成を、2学科で連携して進めていく。学部名称は各学科の特色を包摂しうる上位概念が望ましいことから、「国際学部」とする。また、学部の英訳名称については、諸外国の類似の教育内容を有する大学・部局でも一般的な「Faculty of International Studies」とする。

2. 学科の名称

（1）国際文化学科

国際文化学科は、現「国際文化学部」の設置趣旨を受け継ぐ学科であることから、その名称を「国際文化学科」とする。国際社会や地域社会での対立や摩擦の多くが文化的差異に由来する現実、自己の文化的背景を活かしながら寛容に他者の立場に配慮し、国内外の多様な文化を結ぶファシリテーターとなる人材育成の重要性を示唆している。このことを踏まえ、「国際」と「文化」を学科名称に冠することで、その教育課程や人材育成方針を表すものである。英訳名称については、「異なる文化間のコミュニケーション」という概念を強調し、また、現「国際文化学部」の英訳名称を継承する観点から、「Department of Intercultural Communication」とする。

（2）グローバルスタディーズ学科

グローバルスタディーズ学科は、①人文学の視座を中心に、理論的かつ実践的な見地からグローバル・イシューに関する幅広い知識の修得を目指すこと、②グローバル化した現代社会にあつては、国家を基礎単位とする学びだけでは十分ではないこと、③「グローバルスタディーズ」という概念自体が新しく、適切な日本語訳が確立していないことを踏まえ、敢えてカタカナ表記で「グローバルスタディーズ学科」とする。これにより、「グローバルスタディーズ」の概念およびその意義を広く社会に訴求する。英訳名称は、日本語名称との整合性、また、グローバルスタディーズの概念が世界的には広く認知されつつあることから、「Department of Global Studies」とする。

3. 学位の名称

設置趣旨や育成する人材像などを反映し、国際文化学科卒業者は「学士（国際文化学）」、グローバルスタディーズ学科卒業者は「学士（グローバルスタディーズ）」とする。英訳名称については、国際的な通用性も担保するため、米国の大学等でも広く用いられるものとし、「学士（国際文化学）」を「Bachelor of Intercultural Communication」、「学士（グローバルスタディーズ）」を「Bachelor of Global Studies」とする。

エ 教育課程の編成の考え方および特色

1. 教育課程編成の基本方針および履修順序（配当年次）の実施方針

（1）国際文化学科

国際文化学科では、「世界を学び、日本を知る」という理念を掲げ、世界の多様な言語・文化を学び、それぞれの地域社会における問題を自分自身の立ち位置と結びつけて理解することのできる教育課程とするため、コース制を導入し、また、第二・第三外国語の履修を促し、それらを専門教育と連動させていく。具体的には次のような教育課程編成とする。

1 年次には、基礎的な学修能力の確立と外国語学習への動機を促すべく、基礎演習ならびに外国語科目の履修（1 言語集中型または 2 言語型）を必修とする。2 年次以降は、引き続き外国語科目を履修するとともに、3 つのコース（「多文化共生」、「世界と日本」、「芸術・メディア」）から 1 つを選択し、グレードナンバー制で表された専攻科目内の階層を追って、興味や関心に応じて科目を履修する。また、2 年次では「国際文化実践プログラム」の履修を必修とし、1 年次の基礎演習と 3 年次以降の演習を架橋するとともに、プロジェクト型学習の機会を通じて、「社会人基礎力」（「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」）を涵養する。

また、3 年次からは演習を選択し、専任教員の指導を受けながら、より専門に特化した学修を進める。その集大成として 4 年次に「卒業論文」を履修し、卒業論文の執筆に取り組む。また、引き続き外国語学習を希望する学生のため、3 年次以降も学科専攻科目として外国語を配置し、異なる文化間の諸問題を調整する上で必須となる、実践的かつ高度な外国語運用能力をさらに高められるよう配慮する。

（2）グローバルスタディーズ学科

冷戦終焉後の世界で急速に進展するグローバル化は、それまでに比して格段に多様化・流動化し、より密接に相互に関連する兆候を示している。このような国際状況は、国家や特定の地域に視点を集中させる局地的な分析、また複数の国や地域を比較分析するだけでは十分に把握できない。ゆえに複眼的な視点をを用いて世界の情勢に総合的かつ大局的にアプローチする「グローバルスタディーズ」の概念を用いて、このような国際情勢を批判的に捉え直すことが求められる。

以上を踏まえ、グローバルスタディーズ学科では、1 年次に外国語科目（英語）のほか、「IT リテラシー」、「リサーチ方法論」などの大学での学びの基礎となる科目を履修しつつ、

2 年次以降の専攻科目の柱となる 3 つの学問領域の基礎を学ぶ教育課程編成とする。同時に、2 年次以降は半年以上の留学に加えて、「グローバル化」「コミュニケーション」「エシックス」という 3 つの領域で構成される講義型およびプロジェクト型の専攻科目を履修し、理論と実践の融合を図る。なお、一学年の定員規模が少ない利点を活かし、授業は可能な限り少人数のクラス編成とする。また、学科に所属する全専任教員の担当授業科目を、各学生が卒業までに一度は履修する環境を整える。

2. 科目区分の設定および科目構成とその理由

国際学部は 2 学科は、それぞれの設置趣旨と育成する人材像に応じて、以下のような教育課程を編成する。

(1) 国際文化学科

国際文化学科の科目区分の設定および科目構成は下表のとおりである。

(国際文化学科の科目区分一覧)

科目区分	卒業要件単位	備 考
①学科外国語科目	20 単位以上	1 年次：英語週 5 回または初修外国語週 3 回＋英語週 2 回 2 年次：英語週 3 回または初修外国語週 3 回
②教養教育科目	18 単位以上	必修 4 単位（「仏教の思想 A」、「仏教の思想 B」）を含む
③学科基礎科目	16 単位以上	必修 4 単位（「基礎演習 A」「基礎演習 B」）を含む
④学科専攻科目	46 単位以上	（「演習 I」～「演習 IV」、「卒業論文」を含む）
⑤国際文化実践プログラム	4 単位以上	必修 2 単位（「国際文化実践プログラム I」）を含む
⑥フリーゾーン※	20 単位以上	グローバルスタディーズ学科からの提供科目を含む
合 計	124 単位以上	

※フリーゾーンとは各学生の関心により、学科外国語科目・教養教育科目・学科基礎科目・学科専攻科目・国際文化実践プログラムのいずれを選択してもよい領域。

① 学科外国語科目（20 単位以上）

異なる文化間の諸問題を調整する上で重要な役割を果たす外国語運用能力を修得するため、1・2 年次に学科外国語科目を履修する。1 年次は英語週 5 回（1 言語集中型）または初修外国語週 3 回＋英語週 2 回（2 言語型）のいずれかを選択し、2 年次は、1 言語集中型は英語週 3 回、2 言語型は初修外国語週 3 回を履修する。初修外国語は、フランス語、中国語、韓国語の中からいずれか 1 言語を選択する。なお、留学生は日本語科目を 2 年間学ぶこととし、原則として 1 年次は週 5 回、2 年次は週 3 回履修する。

② 教養教育科目（18 単位以上）

教養教育科目のうち、「仏教の思想 A」（2 単位）および「仏教の思想 B」（2 単位）は、本学の建学の精神を学ぶために位置づけられた全学必修科目である。この科目を含む教養教育科目は、学生が研究テーマをより広い視野から理解するための科目群である。他の文系学部と連携し、人文、社会、自然科学の諸分野にわたる教養教育科目を広く履修できるようにする。

③ 学科基礎科目（16 単位以上）

1 年次の必修科目である「基礎演習 A」（2 単位）と「基礎演習 B」（2 単位）では、大学での学びで求められる基礎的な知識や技術（特にレポート執筆能力とプレゼンテーション能力）の修得を目指す。基礎演習は専任教員が担当することで、責任ある初年次教育を展開する。さらに、2 年次から専攻として選択する 3 つのコースに関する入門科目を配置し、高年次における専門的な学びに必要な基礎知識の修得を目指す。

④ 学科専攻科目（46 単位以上）

学生は 2 年次に 3 つのコース（「多文化共生」、「世界と日本」、「芸術・メディア」）のいずれかに所属し、コースが提供する学科専攻科目を中心に履修する。学科専攻科目は、教養教育科目や学科基礎科目で身につけた基礎的な力を踏まえて、研究対象をさらに深く専門的に学ぶ科目として位置づける。学科専攻科目には、3～4 年次に継続して履修する「演習Ⅰ」～「演習Ⅳ」（計 8 単位）と、演習担当教員の指導を受けて卒業論文を執筆する「卒業論文」（6 単位）を含む。なお、演習の指導教員は原則として 2 年間同一とする。

⑤ 国際文化実践プログラム（4 単位以上）

1 年次の基礎演習と 3 年次以降の演習を架橋する科目であり、2 年次以降に履修する。授業の形態はプロジェクト型学習を基本とし、学生は教員の助言を受けながら課題を設定し、他の学生との協働によって国際文化に関わる実践的な学びを追求する。必修の「国際文化実践プログラムⅠ」（2 単位）と、複数のメニューから成る「国際文化実践プログラムⅡ A」～「国際文化実践プログラムⅡ G」（各 2 単位）で構成される。

（2）グローバルスタディーズ学科

グローバルスタディーズ学科の科目区分の設定および科目構成は下表のとおりである。

（グローバルスタディーズ学科の科目区分一覧）

科目区分	卒業要件単位	備 考
①学科外国語科目	20 単位以上	必修 16 単位を含む
②教養教育科目	4 単位以上	必修 4 単位（「仏教の思想 A」、「仏教の思想 B」）を含む
③学科基礎科目	14 単位以上	必修 14 単位を含む
④学科専攻科目	44 単位以上	必修 10 単位（「プロジェクト演習」、「演習Ⅰ」～「演習Ⅳ」を含む）
⑤留学認定科目	22 単位以上	
⑥フリーゾーン※	20 単位以上	国際文化学科からの提供科目を含む
合 計	124 単位以上	

※フリーゾーンとは各学生の関心により、学科外国語科目・教養教育科目・学科基礎科目・学科専攻科目のいずれを選択してもよい領域。

① 学科外国語科目（20 単位以上）

1 年次に英語集中プログラムを配置し、「Reading」、「Writing」、「Oral Communication」の基礎スキルを修得する科目と、留学先の日常生活で必要となる実用スキルを修得する

「Study Abroad Preparation」の計4種類を用意し、第1・第2 Semester にそれぞれ週2回配置する。さらに、ビジネスや高度な研究で必要とされる英語の学習機会を提供する「Business English through TOEIC (Basic A)」、「Business English through TOEIC (Basic B)」、「Academic English through IELTS (Basic A)」、「Academic English through IELTS (Basic B)」、「Business English through TOEIC (Advanced A)」、「Business English through TOEIC (Advanced B)」、「Academic English through IELTS (Advanced A)」、「Academic English through IELTS (Advanced B)」等を第1 Semester 以降に配置する。なお、いずれの科目も教育効果を考慮して1クラスの定員を15名程度とし、また、習熟度別にクラスを編成することで、学生が自身の能力に合った授業を受講できるようにする。

② 教養教育科目 (4単位以上)

教養教育科目のうち、「仏教の思想A」(2単位)および「仏教の思想B」(2単位)は、本学の建学の精神を学ぶために位置づけられた全学必修科目である。この科目を含む教養教育科目は、学生が研究テーマをより広い視野から理解するための科目群である。グローバルスタディーズ学科では、卒業要件となる教養教育科目の単位数が国際文化学科に比べて少ないが、これは、後述する学科基礎科目の「グローバルスタディーズA」～「グローバルスタディーズC」(各2単位)が教養教育に相当する役割を担うためである。

③ 学科基礎科目 (14単位以上)

学科所属のすべての学生が履修する「リサーチ方法論A」(2単位)、「リサーチ方法論B」(2単位)、「ITリテラシーA」(2単位)、「ITリテラシーB」(2単位)、「グローバルスタディーズA」～「グローバルスタディーズC」(各2単位)などで構成される。「グローバルスタディーズA」～「グローバルスタディーズC」(各2単位)は、学科で学ぶ学問領域の基礎を幅広く教授する科目であり、総合的な教養教育としての役割も担っている。

④ 学科専攻科目 (44単位以上)

学科専攻科目には講義型科目と演習型科目が含まれ、講義型科目は「グローバリゼーション」、「コミュニケーション」、「エシックス」の3つの領域に分類して配置し、世界の諸事象を総合的かつ実践的な知識にもとづき分析できる能力を身に付けさせ、異なる文化や国・地域の人々と英語を使って意思疎通を図り、信頼関係を構築・維持するために必要なコミュニケーション能力、また、現状の世界を批判的視点から捉え直し、グローバル化する世界で見逃されがちな倫理観を涵養する。

演習型科目としては、第1・第2 Semester に必修の「リサーチ方法論A」および「リサーチ方法論B」(各2単位)を配置し、演習形式で大学の学びに必要なスキルを修得する。また、第3・4 Semester に必修の「プロジェクト演習」を配置し、プロジェクト型学習を通じた学びを促す。3年次以降は「演習Ⅰ」～「演習Ⅳ」(各2単位)を必修科目として配置し、1・2年次に修得した各領域の知識と、それらの領域をまたぐグローバル・イシューについての見識を、学生それぞれの問題意識にもとづき深化させる。加えて、「卒業論文」を選択科目として配置することで、これまでの学びを統合して結実させる機会も提供する。

3. 設置の趣旨、学部の特徴を実現するためのコース編成および科目領域編成

(1) 国際文化学科

国際文化学科では、体系的な教育を展開するため、3 つから成るコース制を採用する。学生は2年次から1つのコースを専攻とし、それぞれのコースが提供する学科専攻科目を中心に履修する。コース選択は1年次後期の必修科目「基礎演習B」内で実施する。

「多文化共生」コースでは、文化間の対話や交流の可能性を追求すべく、コミュニケーション、宗教、政治、環境などをめぐる現代社会の諸課題を学ぶ。現代の世界では、ヒトやモノに加えてさまざまな価値観が交錯し、文化の多様性が浮き彫りになっているが、これは各々の文化の豊かさや魅力を際立たせる一方で、文化間の摩擦や対立も生み出している。本コースでは、人類が多様性を保ちながらいかに共生していくかを追究することを目指す。

「世界と日本」コースでは、世界から見た日本、日本から見た世界の様相を基軸に多面的な文化について学ぶ。特にアジア、環太平洋地域を中心に世界の文化の基層を学び、地域研究の枠組みを超えた多様なカルチュラルルートを解明する。一方、日本文化と密接に関係する中国語・韓国語や日本語の言語文化、移民を含む人々の相互交流による文化伝播、仏教を中心とした宗教文化の学修を通じて、自己と自文化の立脚点の正確な理解を目指す。

「芸術・メディア」コースでは、さまざまな表現形式としての芸術と、情報の伝達手段としてのメディアの観点から文化の分析方法を学ぶ。特に、古典・伝統から現代のポップカルチャーに至る時間軸に沿った芸術活動の多様化に着目した文化理解を目指す。また、日本文化を世界に向けて発信していく上で役立つ実践的な知識や技術の獲得を目指す。

(2) グローバルスタディーズ学科

グローバルスタディーズ学科では、育成する人材像に鑑み、伝統的な学問領域や区分にとらわれず、「グローバリゼーション」、「コミュニケーション」、「エシックス」の3つの領域を設定して科目を配置する。また、学年進行に応じて、異なる2領域が重なる科目（例えば「グローバリゼーション＋コミュニケーション」など）、さらに3領域が重なる総合的科目を配置する。これにより、低年次から複合的な視点での思考や分析に習熟できるようにする（【資料①：「グローバルスタディーズ学科 学問領域構成図」】参照）。

「グローバリゼーション」領域では、「グローバル・ヒストリー入門」、「国際関係入門」「国際法入門」などの科目を配置し、現代のグローバル化を多様な視点から考察するための基礎知識を養う。また、「コミュニケーション」領域では、「会話分析入門A」、「会話分析入門B」、「Discussion & Debate」、「English for Global Studies」などの科目を配置し、言語とコミュニケーションに関わる基礎的な知識と実践的スキルを修得する。さらに「エシックス」領域では、「政治思想概論」、「Postcolonialism」などの科目を配置し、多様な価値観と倫理観を歴史的、国際的な観点から考察するための基礎知識を養う。

「グローバリゼーション＋コミュニケーション」領域では、「通訳・翻訳研究A」、「通訳・翻訳研究B」、「Globalization of Education」などの科目を配置し、グローバル化する世界で適切なコミュニケーションをどのように構築していくかを考察・実践する。「グローバリゼーション＋エシックス」領域では、「グローバル市民社会論」、「国際開発協力論」などの科目を配置し、グローバル化がもたらす諸課題を倫理的な視点を重視して考察・実践する。「コミュニケーション＋エシックス」領域では、「Introduction to Sociolinguistics」、

「Introduction to Cultural Anthropology」などの科目を配置し、多様な価値観や倫理観を生み出す文化的背景やそれに伴う齟齬、また、円滑なコミュニケーションの方法を考察・実践する。

そして全領域が重なる「グローバリゼーション＋コミュニケーション＋エシックス」領域では、「異文化間コミュニケーション論」、「Applied Global Studies」などの科目を配置し、3つの領域を束ねる観点から世界が直面する諸問題や、グローバル化した社会の諸側面を総合的かつ実践的な見地から考察する。

4. 必修科目・選択科目・自由科目の構成とその理由

(1) 国際文化学科

学科所属の全学生にとって必修となる科目は、「仏教の思想A」、「仏教の思想B」、「基礎演習A」、「基礎演習B」、「国際文化実践プログラムⅠ」（各2単位）である。

学科外国語科目は、世界中に話者が比較的多く、また、国際機関の公用語でもある英語・フランス語・中国語、そして日本に最も近い外国であり、歴史的・社会的に密接なつながりをもつ韓国語が重要と考えられることから、英語および初修外国語（フランス語・中国語・韓国語）を選択必修科目として配置する。学生は「英語」または「英語＋いずれかの初修外国語」の履修パターンを選択し、合計20単位以上を履修する。外国人留学生はこれらに代えて「日本語」を20単位以上履修する。なお、ペルシア語、アラビア語、トルコ語、ロシア語、ドイツ語、ポルトガル語、スペイン語については「学科専攻科目」の選択科目として配置し、2年次以降、興味のある学生が履修できるようにする。

「国際文化実践プログラムⅠ」は2年次以降で必修とし、「国際文化実践プログラムⅡA」～「国際文化実践プログラムⅡG」は選択必修とする。また、3年次以降の「演習Ⅰ」～「演習Ⅳ」ならびに「卒業論文」は、学科として履修を強く推奨する。他の学科基礎科目や学科専攻科目、ならびにすべての年次で履修可能な教養教育科目については選択科目として位置づけ、すべての学生が必要な知識と能力を学修できるようにする。

(2) グローバルスタディーズ学科

国際文化学科同様、教養教育科目のうち、「仏教の思想A」と「仏教の思想B」（各2単位）を必修とする。また、学科基礎科目のうち、「リサーチ方法論A」、「リサーチ方法論B」、「ITリテラシーA」、「ITリテラシーB」、「グローバルスタディーズA」～「グローバルスタディーズC」（各2単位）、学科専攻科目のうち、「プロジェクト演習」と「演習Ⅰ」～「演習Ⅳ」（各2単位）を必修とする。

学科外国語科目については、「英語（Reading）Ⅰ」、「英語（Writing）Ⅰ」、「英語（Oral Communication）Ⅰ」、「英語（Reading）Ⅱ」、「英語（Writing）Ⅱ」、「英語（Oral Communication）Ⅱ」、「Study Abroad PreparationⅠ」、「Study Abroad PreparationⅡ」（各2単位）を必修とする。

グローバルスタディーズ学科では、必修・選択の別を問わずカリキュラム全体を「グローバルな教養教育」と捉え、世界に通用する人材を育成することを目指す。ただし、学科専攻科目は一部を除き選択科目とすることで、学生の幅広いニーズに対応できるようにす

る。なお、国際文化学科からの提供科目やその他の教養教育科目についても、フリーゾーンを活用し、幅広い学びを求める学生の選択を妨げないよう配慮する。

オ 教員組織の編成の考え方および特色

1. 教員配置の基本的考え方

国際学部の教員配置に関する基本的な考え方として、現「国際文化学部」のそれを受け継ぎ、専任教員に占める高い外国人比率を維持することがある。2015年4月時点での専任教員に占める外国人教員比率は、国際学部全体で約33%であり（国際文化学科が約36%、グローバルスタディーズ学科が約27%）、その国籍は8ヶ国1地域（アメリカ、イギリス、オーストラリア、ニュージーランド、フランス、ベルギー、中国、韓国、台湾）におよぶ。

国際学部の設置理念および我が国高等教育機関における外国人教員の増加の必要性が指摘される状況に鑑み、このような教員配置は大きな強みである。なお、現「国際文化学部」国際文化学科から、24名が新「国際文化学科」に、10名がグローバルスタディーズ学科にそれぞれ異動する。

2. 中核となる科目や必修科目における教員配置

（1）国際文化学科

国内外の多様な文化を結ぶファシリテーターとして活躍できる人材を育成する国際文化学科にとって、国際社会の縮図のような教育環境は理想的である。それゆえ専任教員における高い外国人教員比率、また外国人教員内の多様性を軸にした教員配置とする。

国際文化学科の中核的科目の一つが外国語である。概して外国語科目は非常勤教員の割合が高くなるが、国際文化学科では、いずれの学生も毎週必ず専任教員担当の授業を受講できるようにする。特に1・2年次で履修する英語・フランス語・中国語・コリア語については、専任教員を軸とした教育体制とし、その他の言語（学科専攻科目に配置する7ヶ国語）も専任教員が担当するか、専任教員をコーディネーターとして配置する。

2年次に配置する必修の「国際文化実践プログラムⅠ」も、国際文化学科の特色となる中核的科目であるため専任教員が担当する（授業内容の性質上、芸術家等の外部の専門家の関与が必要な場合は、専任教員をコーディネーターとして配置する）。また、大学生活の基盤を形成し、学生同士のつながりを醸成する重要な科目である「基礎演習A」、3～4年次に履修する「演習Ⅰ」～「演習Ⅳ」も中核的科目と位置づけ、専任教員が担当する。

さらに、各コースが提供するオムニバス方式の入門科目（「多文化共生入門」、「『世界と日本』入門」、「芸術・メディア入門」）も、今後の学修の全体像や指針を提供する点で重要であり、専任教員の担当とする。また、その他の学科専攻科目についても、非常勤教員による授業は必要最小限とする。

（２）グローバルスタディーズ学科

グローバルスタディーズ学科では、人材育成方針を実現するため、専任教員による充実した個別指導につながる教員配置とする。具体的には、１年次に必修となる「リサーチ方法論Ａ」、「リサーチ方法論Ｂ」はその大半を専任教員の担当とする。また、学科外国語科目は、学生の能力や関心に応じたきめ細かな対応をとる必要があることから、専任教員の管理・責任のもと、外部リソースを活用した教育体制をとる。

学科専攻科目については、学生がすべての全専任教員の授業を、少なくとも一度は履修するカリキュラム編成ならびに教員配置とする。また、専任教員が指導や助言を効果的にこなうため、学生の学修履歴等の情報を管理できる「ポートフォリオ」システムを導入する。加えて、演習科目もすべて専任教員が担当することで、基礎から応用・発展に至る学修に専任教員が主体的に関与していく。

さらに、卒業要件の一つである英語運用能力試験のスコア取得を実現するため、教員が担当学生の個別相談等に応じる「スーパーバイザー制度」、上級生が下級生の英語学習や学科専攻科目等の学習をサポートする「メンター制度」など、体系的な学修支援体制を適切な教員配置と併せて準備する。

１年次の「リサーチ方法論Ａ」、「リサーチ方法論Ｂ」に始まり、長期留学を経て、「プロジェクト演習」および「演習Ⅰ」～「演習Ⅳ」に至る主要科目の多くを専任教員が担当し、同時に種々の支援体制も活用することで、体系的な教育の展開と学修の質を担保する。

３．実務経験のある専任教員の配置

国際学部では、国連開発計画（UNDP）プログラムオフィサー、在外日本大使館職員、外務省専門分析員、会議通訳者・翻訳者、日本放送協会職員といった多様な実務経験を有する専任教員を配置する。実務経験を有する専任教員の配置は、国際学部の教育目的を実現する上で有用であり、実務と理論の有機的連携を促すことになる。

４．教員組織の研究分野と研究体制

（１）国際文化学科

国際文化学科が研究対象とする学問分野は、人文学を主領域とし、部分的に社会科学を包摂した「国際文化学」である。国際文化学科所属の専任教員の多くは、学術団体である「日本国際文化学会」、および学内組織「龍谷大学国際文化学会」に所属し、国際文化学に関する研究に取り組んできた。国際学部への改組後も龍谷大学国際文化学会は存続させ、これまで同様の研究体制を維持し、学生も貴重な研究主体と捉えた積極的な研究を推進する。

（２）グローバルスタディーズ学科

グローバルスタディーズ学科が研究対象とする学問分野は、人文学を主領域とし、「コミュニケーション・言語学・外国語教育系」、「国際関係論系」など幅広い専門領域の上に成り立つ「グローバルスタディーズ」である。専任教員 11 名のうち 7 名が海外の大学で博士号（Ph.D）を取得し、すべての教員が第 2 言語、第 3 言語を用いて国際的な研究活動をするなど、グローバルな観点と基準で研究を推進している。

5. 教員組織の年齢構成

(1) 国際文化学科

国際文化学科の教員組織構成は、教授 18 名、准教授 4 名、講師 2 名の計 24 名である。また、完成年度の 3 月 31 日時点における年齢構成は、40 歳代 3 名、50 歳代 13 名、60 歳代 8 名である。本学の「職員定年規程」では、教授は満 68 歳、准教授・講師・助教・助手は満 65 歳が定年である（【資料②：「職員定年規程」】参照）。

年齢層の平準化を図るため、2014 年度には既に開設時点（平成 27（2015）年 4 月 1 日現在）で 30 歳代 1 名、40 歳代 1 名の専任教員を採用している。今後の退職教員の補充に関しても、当該教員の専門領域等を勘案しながら、経験豊富な教員と若い世代の教員をバランスよく採用し、年齢層に著しい偏りが生じないように調整していく予定である。

(2) グローバルスタディーズ学科

グローバルスタディーズ学科の教員組織構成は、教授 6 名、准教授 3 名、講師 2 名の計 11 名である。また、完成年度の 3 月 31 日時点における年齢構成は、30 歳代 1 名、40 歳代 5 名、50 歳代 3 名、60 歳代 2 名と均衡が保たれ、教育研究水準の維持向上に大きな影響はない。また、定年については、国際文化学科と同様である（【資料②：「職員定年規程」】参照）。

カ 教育方法、履修指導方法および卒業要件

1. 授業の方法、学生数、配当年次の設定

(1) 国際文化学科

①学科外国語科目（20 単位以上）

学科外国語科目は原則として 1 単位である（科目名に「セミナー」を冠したものは 2 単位）。1 年次の学科外国語科目では、基本的に 1 クラス 20 名程度の少人数で教育をおこなう。現在、英語 4 名、フランス語 1 名、中国語 2 名、コリア語 1 名の専任教員（うち母語話者 6 名）を擁しており、これらの教員が学科外国語科目の運営に責任をもつ。

②教養教育科目（18 単位以上）

教養教育科目のうち、本学の建学の精神を学ぶために位置づけられた「仏教の思想 A」、「仏教の思想 B」（各 2 単位）を必修とする。また、全学で展開している教養教育科目を 14 単位以上修得することで、世界と日本をつなぐ上で求められる豊かな教養を身につけられるようにする。教養教育科目では、原則として人数制限を設けない。

③学科基礎科目（16 単位以上）

必修の「基礎演習 A」、「基礎演習 B」（各 2 単位）のうち、第 1 セメスターに配置する「基礎演習 A」は 1 クラス 20 名程度の少人数教育とする。第 2 セメスターに配置する「基礎演習 B」は 80 名程度の授業とする。また、学科基礎科目群では専攻科目の導入教育として、各コースの入門科目を第 1・第 2 セメスターに複数配置し、その後の専門的な学修に円滑に移行できるようにする。各コースの入門科目は原則として受講者数を制限しない。

④学科専攻科目（46 単位以上）

学科専攻科目（各 2 単位または 4 単位）は国際文化学科の骨格となる重要な科目群であり、第 3 セメスター以降に履修可能とする。受講者数の制限は一部の科目（教育効果の観点から人数制限が必要と認められるもの）を除いて設定しない。学科専攻科目については国際文化学科の 3 コース（各コースの定員は 110 名程度）がそれぞれ主体となって運営するが、定期的に合同コース会議をおこない、学科専攻科目群の改善や関連する講演会・シンポジウム等を企画・開催するなど、教育・研究活動において幅広い分野にわたって協力する体制を構築する。

⑤国際文化実践プログラム（4 単位以上）

第 3 セメスター開講の「国際文化実践プログラムⅠ」（2 単位）は、第 4 セメスター以降開講の「国際文化実践プログラムⅡA」～「国際文化実践プログラムⅡG」（各 2 単位）の事前学修として配置する。「国際文化実践プログラムⅡ」は、長期留学型、短期語学研修型、短期国外文化研修型、短期国内文化研修型、集中講義型、インターンシップ型、自己応募型の 7 種類で構成され、内容に応じて 10～20 名程度の定員を設け、教育効果の向上を図る。

（2）グローバルスタディーズ学科

①学科外国語科目（英語）（20 単位以上）

1 年次に英語集中プログラムを配置する。このプログラムは少人数制（15 名程度）の英語授業で構成され、第 3 セメスター以降の長期留学、また、英語を講義言語とする科目で求められる高度な英語力を学生に修得させることを目的とする。

②教養教育科目（4 単位以上）

教養教育科目のうち、本学の建学の精神を学ぶために位置づけられた「仏教の思想A」、「仏教の思想B」（各 2 単位）を必修とする。また、全学で展開している教養教育科目を履修することができる。

③学科基礎科目（14 単位以上）

10～15 名程度の少人数クラスで実施する「リサーチ方法論A」、「リサーチ方法論B」（各 2 単位）を配置し、大学での学びに不可欠な知識と能力（レポートの書き方、効果的なプレゼンテーション方法など）を修得させる。また、1 クラス 40 名程度で実施する「IT リテラシーA」、「IT リテラシーB」（各 2 単位）では、必要な学術関連情報の収集能力を修得させる。また、教養教育科目に相当する役割を担うグローバルスタディーズの導入科目として、「グローバルスタディーズA」～「グローバルスタディーズC」（各 2 単位）を配置する。

④学科専攻科目（44 単位以上）

講義型科目と演習型科目から成る学科専攻科目（各 2 単位または 4 単位）は、グローバルスタディーズ学科の骨格となる重要な科目群であり、第 3 セメスター以降に履修可能とする。講義型科目は原則として受講者数を制限せず、「グローバリゼーション」、「コミュニケーション」、「エシックス」の 3 つの領域から専門的な学びを深める。第 3・第 4 セメスタ

一では領域別の科目を中心としつつ、領域をまたぐ総合的科目も配置する。第5 Semester以降、3 領域が重なるものを含めて総合的科目をより多く配置する。なお、学科専攻科目の多くが、英語のみの、または英語・日本語を併用の科目となる。

演習型科目は、第4 Semesterに「プロジェクト演習」(2 単位)を配置し、少人数のグループでリサーチ・フィールドワーク、研究報告などを経験させる。第5 Semester以降は、専任教員が担当する「演習Ⅰ」～「演習Ⅳ」(各 2 単位)を履修し、専門的知識と適切な方法を用いた調査研究を実践する。各演習ではリサーチ・ペーパーの提出とプレゼンテーションを課し、学生の理解度や成長の過程を把握する。

2. 卒業要件

(1) 国際文化学科

国際文化学科の卒業要件は、4 年以上在学し、学科外国語科目から 20 単位以上、教養教育科目から 18 単位以上(「仏教の思想A」「仏教の思想B」を含む)、学科基礎科目から 16 単位以上(「基礎演習A」「基礎演習B」を含む)、学科専攻科目から 46 単位以上、国際文化実践プログラムから 4 単位以上を修得し、合計で 124 単位以上を修得することとする。

(国際文化学科の科目区分一覧)

科目区分	卒業要件単位	備 考
①学科外国語科目	20 単位以上	1 年次：英語週 5 回または初修外国語週 3 回＋英語週 2 回 2 年次：英語週 3 回または初修外国語週 3 回
②教養教育科目	18 単位以上	必修 4 単位(「仏教の思想A」「仏教の思想B」を含む)
③学科基礎科目	16 単位以上	必修 4 単位(「基礎演習A」「基礎演習B」を含む)
④学科専攻科目	46 単位以上	(「演習Ⅰ」～「演習Ⅳ」,「卒業論文」を含む)
⑤国際文化実践プログラム	4 単位以上	必修 2 単位(「国際文化実践プログラムⅠ」)を含む
⑥フリーゾーン※	20 単位以上	グローバルスタディーズ学科からの提供科目を含む
合 計	124 単位以上	

※フリーゾーンとは各学生の関心により、学科外国語科目・教養教育科目・学科基礎科目・学科専攻科目・国際文化実践プログラムのいずれを選択してもよい領域。

(2) グローバルスタディーズ学科

グローバルスタディーズ学科の卒業要件は、4 年以上在学し、学科外国語科目から 20 単位以上(必修 16 単位を含む)、かつ TOEIC®730 以上、TOEFL® (550-PBT, 80-iBT)以上、IELTS™6.0 以上のいずれかを取得し、教養教育科目から 4 単位以上(「仏教の思想A」「仏教の思想B」を含む)、学科基礎科目から 14 単位以上(必修 14 単位を含む)、学科専攻科目から 44 単位以上(「プロジェクト演習」,「演習Ⅰ」～「演習Ⅳ」を含む)、留学として認定する科目群から 22 単位以上を修得し、合計 124 単位以上を修得することとする。

このうち、英語運用能力試験において一定以上のスコア取得を卒業要件とするのは、育成する人材像に掲げた「卓越した英語力」を保証するためである。前述したように、この目標の達成に向けて、初年次からの体系的な英語プログラム、正規留学、英語を講義言語

として用いる学科専攻科目、スーパーバイザー制度などを整える（【資料③：「グローバルスタディーズ学科 英語運用能力向上のためのサポート体制 概念図」】参照）。

（グローバルスタディーズ学科の科目区分一覧）

科目区分	卒業要件単位	備 考
①学科外国語科目	20 単位以上	必修 16 単位を含む
②教養教育科目	4 単位以上	必修 4 単位（「仏教の思想A」、「仏教の思想B」）を含む
③学科基礎科目	14 単位以上	必修 14 単位を含む
④学科専攻科目	44 単位以上	必修 10 単位（「プロジェクト演習」、「演習Ⅰ」～「演習Ⅳ」を含む）
⑤留学認定科目	22 単位以上	
⑥フリーゾーン※	20 単位以上	国際文化学科からの提供科目を含む
合 計	124 単位以上	

※フリーゾーンとは各学生の関心により、学科外国語科目・教養教育科目・学科基礎科目・学科専攻科目のいずれを選択してもよい領域。

3. 履修モデル

「ア 設置の趣旨および必要性」で記載した教育目標を踏まえ、各学科の特徴を活かした履修による学修ならびに進路のモデルを示す（【資料④：「国際文化学科 履修モデル」】、【資料⑤：「グローバルスタディーズ学科 履修モデル」】参照）。

（1）国際文化学科

①「多文化共生」コース

学科基礎科目を通じて、宗教、芸術、言語から社会、生活環境に至る諸分野における多文化共生と異文化理解の必要性を学ぶ。次いで学科専攻科目において、より専門的な文化理解のため、存在感を強めるアジアやイスラーム世界の文化・社会について学ぶ。また、「国際文化実践プログラム」を通じて、当該地域の研修に参加するなどし、多文化社会の実践的理解を深める。また、世界三大宗教について現代的理解を深め、宗教の相違を一因とする摩擦・対立といった諸問題の解決方法を探求する。

外国語については、国際共通語としての英語に加えて、トルコ語、ペルシア語、アラビア語などの中東諸言語も学ぶことができる。外国語科目を通じて修得した実践的なコミュニケーション能力を基盤に、観光学、芸術・博物館関係、NGO/NPO 活動などの応用的諸分野の関連科目群を履修する。また、学修の総括となる卒業論文の執筆を目指す。

想定される進路としては、観光業、商社、製造業など、特に顧客や構成員が多様な文化的背景を持つ企業、地方自治体の多文化共生施策担当者、また、中学校・高等学校教員（英語科）、浄土真宗本願寺派開教使、大学院進学などが考えられる。

②「世界と日本」コース

学科基礎科目を通じて、世界と日本の関わり、世界の中における日本の位置づけなどを把握する。また、フィールドワークなど調査分析方法の基礎などを学ぶ。次いで学科専攻科目を通じて、より専門的に世界と日本の関わりについて学ぶ。また、「国際文化実践プログラム」を通じてそれらの具体的様相を実体験し、一つの国や地域の歴史や文化を学ぶだけでは見えてこない、「世界と日本」を結ぶカルチュラルルートの視座を修得する。

外国語については、国際共通語としての英語に加えて、例えば中国語を履修し、同時にアジア・日本文化に関する学科専攻科目を履修することで、東アジアの影響を強く受けた日本社会・文化の諸側面を多角的に理解することが期待される。

想定される進路としては、世界に日本文化を発信するような業界・職種であり、具体的には旅行会社を含む観光業、海外における日本語教員、通訳・翻訳者、アジアに進出している各種製造業、中学校・高等学校教員（英語科）、博物館学芸員、浄土真宗本願寺派開教使、大学院進学などが考えられる。

③「芸術・メディア」コース

学科基礎科目を通じて、多様な芸術のジャンルとメディアの広がりについて学び、また、その分析方法に関する基礎的知識を得る。次いで学科専攻科目を通じて、興味や関心に応じて専門的な学びを深める。また、「国際文化実践プログラム」を通じて、例えば欧州での演劇・博物館体験を中心とした短期研修、映像作品の制作などを実践し、文化の分析と創作のための知識や技術を修得する。

外国語については、国際共通語としての英語に加えて、中国語やフランス語など、関心に応じた様々な選択肢が考えられる。

想定される進路としては、一般企業・団体等での業務を通じて芸術・文化に携わる職種が考えられる。具体的には地方自治体の文化振興施策担当者、一般企業のメセナ活動担当者、博物館学芸員、マスメディア、情報通信ならびにコンテンツ関連産業、旅行会社を含む観光業、中学校・高等学校教員（英語科）、浄土真宗本願寺派開教使、大学院進学などが考えられる。

（２）グローバルスタディーズ学科

①「グローバル化」「コミュニケーション」「エシックス」の各領域を幅広く履修するモデル

3つの領域の科目を履修することで、優れたコミュニケーション能力を基礎に、多様な価値観を尊重し、国際舞台でリーダーシップを発揮できる素養や能力を身につける。具体的には、学科外国語科目の履修を通じて英語能力の基盤を形成し、また、「Discussion & Debate」「Career English」などの履修を通じて、実践的なコミュニケーション能力を高める。さらに、「グローバル化と東アジア」、「グローバル化とヨーロッパ」、「グローバル化とアフリカ」、「グローバル化とラテンアメリカ」などの履修を通じて、多様な地域の実態を理解すると同時に、「政治思想概論」や「グローバル市民社会論」といった科目の履修を通じて、グローバル化した現代社会に求められる倫理観を学ぶ。

想定される進路としては、グローバルに展開する企業（企業の国際部門）、国際機関職員のほか、教職課程を併せて履修することで、中学校・高等学校教員（英語科）、海外における日本語教員などが考えられる。

②英語で開講される科目を重視して履修するモデル

英語を講義言語に用いる専門科目を集中的に履修し、英語をツールにグローバル社会の諸問題を考察し、議論できる能力を身につける。具体的には、「Discussion & Debate」、「Critical Reading」などの履修を通じて高度な英語運用能力を養い、また、「Globalization of Education」「Postcolonialism」、「Introduction to Cultural Anthropology」などの履修を通じて、英語による学術的知識を修得し、そうした知識を批判的に考察できる能力を身につける。

想定される進路としては、グローバル企業、国際 NGO/NPO、通訳・翻訳者、国際機関職員、中学校・高等学校教員（英語科）などが考えられる。

なお、グローバルスタディーズ学科では、より高度な次元での学修基盤を形成できるよう教育課程を配置しており、海外大学院への進学も推奨する。

4. 履修科目の登録上限

（1）履修科目の登録上限

国際学部では、各セメスターにおける履修登録制限単位数を以下のとおり定め、学生が4年間にわたって計画的に授業科目を履修するよう指導する。

<履修登録制限単位数>

第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター
22	22	22	22	22	22	48	

キ 施設、設備等の整備計画

1. 校地、運動場の整備計画

国際学部を設置予定の深草キャンパスは、149,694.85㎡の校地面積に5学部1短期大学部4研究科1専門職大学院（法務研究科）を設置し、約9,800名の学生が在籍している。教室、図書館、保健管理センター、こころの相談室、学生食堂等の施設のほか、福利厚生施設を含む各種施設について、既存学部と十分に共用できるだけの校地・校舎を有している。また、運動場については、近隣に南大日グラウンド（スクールバス利用で約15分程度）を有するほか、キャンパス内に体育館およびテニスコートを設けている。学生の休息・談話スペースについては、主に3号館、4号館、22号館の地階に食堂を設けるとともに、図書館前のテラス席、中央広場にベンチなどを配置するほか、教室棟のホールなどに適宜机・椅子を設置する等、オープンな空間の確保に留意している。

2. 校舎等施設の整備計画

校舎等施設については、深草キャンパスの現有施設で設置基準上の校舎面積を充足している。現在、既に講義室76室、演習室60室、情報処理室13室、セルフラーニング室3室（パソコン750 台設置）が整備されている。加えて、国際学部を設置にあわせて新1号館（仮称）を建設中である（2015年1月末竣工予定）。新1号館（仮称）には、国際学部をはじめ既存学部が共同で使用する講義室（22室）・演習室（28室）、国際学部教員の個人研究室、図書館新館、学生の主体的な学習を支援するグローバルコモンズ（仮称）ならびに自律型言語学習支援施設を整備し、さらなる教育・研究環境の充実を図る。

（1）グローバルコモンズ（仮称）との協力体制の確立

現「国際文化学部」では、これまで「語学・留学サポートデスク」を配置し、長期・短期留学に関する学生支援業務を実施してきたが、平成 27（2015）年度以降はその役割を、グローバル人材の育成にかかる施策の全学的推進組織として設置予定の「グローバルコモンズ（仮称）」に移行する。国際学部では、本学の国際化推進拠点となる同コモンズのスタッフと協力しながら、留学希望者の一層のサポートに努める。また、現「国際文化学部」では多くの交換留学生を受け入れてきたが、これら留学生へのサポートについても同コモンズと連携しながら、総合的な支援を充実させていく。

（2）自律型言語学習支援施設の積極的な活用

国際学部を開設する深草キャンパスでは、平成 27（2015）年度から学生の自律的な言語学習や国際交流活動を支援する全学的施設として、自律型言語学習支援施設を設置予定である。これにより、外国語学習の自律的な学習環境を整備し、専門スタッフを配置することで、言語学習に関する助言や正課外の語学学習プログラムを展開する。国際学部は、外国語教育を教育課程の一つの柱とすることから、同施設の積極的な活用を図る。特にグローバルスタディーズ学科では、TOEIC®等での所定のスコア取得を卒業要件とすることから、教員と同施設スタッフとが協力して外国語学習のサポートに当たる。

（3）交流スペースの活用

建設中の新1号館（仮称）では、日本人学生と留学生との交流や諸活動ができる公共空間を整備する。国際学部ではこれらを充分活用し、学生・教職員が近い距離でともに学び、交流する雰囲気を醸成する。また、英語その他の外国語による交流機会を積極的に展開し、国際学部生のみならず、他学部生との交流も促進する。

3. 図書等の資料および図書館の整備計画

本学は京都府と滋賀県に3つのキャンパスを有しており、各キャンパスにそれぞれ図書館を設置している。3図書館の合計所蔵資料数は、平成 25（2013）年度末で約 206 万冊である。雑誌約 1 万 7 千種類、視聴覚資料約 5 万点、電子ジャーナル・データベース 76 種類を整備しており、今後も積極的な導入を計画している。

各図書館は、各キャンパスの学部構成に応じた蔵書構成をとっており、国際学部が開設

される深草キャンパスの深草図書館（蔵書数約 90 万冊）には、瀬田図書館から主として国際文化学部が使用していた資料を移転させるほか、既存の 4 学部（経済学部、経営学部、法学部、政策学部）に対応した社会科学系の教育・研究用図書、雑誌等のほか、教養教育にかかる豊富な図書・資料等を所蔵している。なお、瀬田図書館および大宮図書館が所蔵する資料については、学内相互貸借により、深草キャンパスで受け取ることが可能である。学外からの資料取り寄せについても、オンラインで申込みが可能である。

深草図書館は、既存 8 号館（地下 2 階地上 4 階建て、延床面積 4,300 m²）と 2015 年 4 月開館予定の新館（地下 2 階地上 3 階部分、延床面積約 5,700 m²）から成り、両館を一体的に運用する。8 号館は、事務室をはじめとする管理スペース、雑誌閲覧室、書庫（研究用図書収蔵）等を有し、新館は書庫、閲覧室、閲覧カウンター、視聴覚コーナーのほか、グループ学習の空間等を配置予定である。深草図書館の座席数は、8 号館と新館の閲覧席を併せて約 1,456 席を予定しており、これらの閲覧席には、インターネット端末も 40 台設置し、学修環境の充実を実現している。開館時間については、授業期間中の平日は 21 時 45 分、土曜・日曜についても 17 時まで開館している。

国際文化学科ならびにグローバルスタディーズ学科の設置にかかわる図書、資料図書等については、上述した本学図書館保有の蔵書、雑誌、電子ジャーナル・データベースの活用を基本とする一方、既に本学で所蔵している国際学関連分野の約 23 万冊の活用に加え、国際文化学科では、宗教・文化・文学・地域研究などの領域を中心に、各コースの教育研究に応じた人文学系の資料を充実させていく。グローバルスタディーズ学科では、教育内容に関連する英語文献の充実を図るとともに、電子ジャーナル・データベースの拡張を進め、最新の国際的な学術知識を参照できるよう、両学科とも 2014 年度以降、段階的に整備をおこなう（【資料⑥：「学術雑誌等」一覧】）。

ク 入学者選抜の概要

1. 国際学部のアドミッションポリシー

国際学部では、建学の精神にもとづき、異文化への理解と敬意を深めるとともに、自文化についての発信力を養い、優れたコミュニケーション能力と問題解決能力を兼ね備えた人材の育成を目指す。そのため、次のような者が入学することを求める。

- ①グローバル化が加速する時代の動向に関心と好奇心を有し、また、本学ならびに国際学部の教育理念に共感し、強い意欲を持って学んでいこうとする人
- ②異文化に対して寛容かつ柔軟に対応でき、国際社会が直面する諸問題の解決に貢献したい、地域社会の多文化共生に貢献したいという明確な目的意識をもつ人
- ③英語をはじめとする外国語の能力が高く、また、世界の多様な言語や文化に関心があり、さらなる外国語能力や知識の向上を図りたいと考える人

2. 国際学部の選抜方法

国際学部の入学定員は 450 名（国際文化学科 330 名、グローバルスタディーズ学科 120 名）である。入学者の選抜は学科ごとに以下の入学試験を実施予定である。なお、各入試類型については、一部を除き、国際文化学科およびグローバルスタディーズ学科の双方で実施する。

（１）一般入学試験

一般入試は、A 日程・B 日程・C 日程において実施する。

（２）大学入試センター試験を利用する入学試験

大学入試センター試験を利用する入試は、前期・中期・後期の 3 期に分けて実施する。

（３）公募推薦入学試験

公募推薦入試は、2 教科型公募推薦入試を実施する。また、学部独自型の推薦入試として、英語型推薦入試のほか、専門高校、専門学科・総合学科対象の推薦入試も実施する。英語型推薦入試は、英検や TOEIC®等の英語能力試験に関して基準を設け、基準を満たした者に出願資格を与える。専門高校、専門学科・総合学科対象の推薦入試は、英語科等専門教育を主とする学科等で学ぶ高校生を対象に実施する。

（４）スポーツ活動選抜入学試験、文化・芸術・社会活動選抜入学試験

スポーツの振興や国際的なスポーツ交流を目的として、スポーツの分野において優れた能力と実績を有するとともに、国際学部の教育理念に共感できる者を選抜する入試を実施する。また、文化活動・芸能活動・ボランティア等の社会活動、各種検定等の面において顕著な実績を有するとともに、国際学部の教育理念に共感できる者を選抜する入試を実施する。

（５）帰国生徒特別入学試験、中国引揚者等子女特別入学試験、外国人留学生入学試験、外国人留学生推薦入学試験

保護者の海外勤務その他の事情により、外国の教育を受けて帰国した者、または中国引揚者等の子女であり、海外における体験や経験を有し、国際学部の教育理念に共感できる者を受け入れるための入試を実施する。また、多様な文化を背景にした者で、国際学部の教育理念に共感できる者を受け入れるため、外国人留学生（正規留学生および特別留学生）のための入試を実施する。併せて、本学「留学生別科」修了見込みの成績優秀者を対象とした推薦入試も実施する。

（６）龍谷大学付属平安高校推薦入学試験、教育連携校推薦入学試験、関係校推薦入学試験、指定校推薦入学試験、高大連携協定校推薦入学試験

龍谷大学付属平安高校、教育連携校、関係校、指定校、高大連携協定校からの推薦入試では、これら付属高校などとの信頼関係にもとづき、それぞれ一定の受け入れ入学枠を設定し、実施する。

(7) 伝道者推薦入学試験

国際文化学科においてのみ、本学の建学の精神にもとづき、仏教思想の具現化のために、僧侶として伝道を志す者を受け入れるための入試を実施する。

(8) 社会人推薦入学試験

入学年度の4月1日現在において、満23歳に達している者で、かつ、就業者（就業予定者を含む）、過去2年以内に就業経験のある者、主婦（主婦およびその他の家事従事者）、寺院関係者のいずれかに該当する者を社会人とし、これを対象として社会人推薦入試を実施する。

3. 国際学部を選抜体制

一般入試、大学入試センター試験を利用する入試および公募推薦入試（2教科型）は、入試部を中心として全学体制で実施し、国際学部が合否を判定する。

英語型公募推薦入試は、国際文化学科では、公募推薦入試（2教科型）と同一の英語試験の結果と併せ、与えられたテーマに関する英語による面接試験を実施する。グローバルスタディーズ学科では、公募推薦入試（2教科型）と同一の英語試験の結果と併せ、志望動機および与えられたテーマに関して英語でのプレゼンテーションによる試験を実施する。いずれも国際学部が合否を判定する。

専門高校、専門学科・総合学科対象入試は、小論文試験と面接試験の結果をもとに、国際学部が合否を判定する。

スポーツ活動選抜入試および文化・芸術・社会活動選抜入試は、書類審査による予備選考を行い、予備選考を通過し本選考に出願した者を対象に実施する。出願書類、小論文試験・面接試験の結果などを総合して、国際学部が合否を判定する。

帰国生徒特別入試および中国引揚者等子女特別入試は、小論文試験と面接試験の結果をもとに、国際学部が合否を判定する。

外国人留学生は、書類審査、筆記試験および面接試験の結果をもとに、国際学部が合否を判定する。本学留学生別科からの推薦入試は、国際学部が入学枠を設定し、面接試験により入学を許可する。なお、本学では、外国人留学生の経済的困難を緩和するため、私費外国人留学生の授業料の40%を留学生学費援助奨学金として給付し、経済面から留学生の大学生活を支援している。

伝道者推薦入試および社会人推薦入試は、小論文試験と面接試験の結果をもとに、国際学部が合否を判定する。

4. 国際学部の編入学・転入学制度

国際文化学科では、3年次に編入学・転入学制度を設ける。グローバルスタディーズ学科では、2年次に転入学制度と3年次に編入学・転入学制度を設ける。ただし、2年次は平成28（2016）年度入試、3年次は平成29（2017）年度入試から実施する。

国際文化学科の3年次編入学・転入学定員は20名とし、国際文化学科の専門課程の履修に必要な素養について試験を課し、国際学部が合否を判定する。グローバルスタディー

ズ学科の2年次転入学定員は若干名とし、グローバルスタディーズ学科の履修に必要な基礎的素養について試験を課し、国際学部が可否を判定する。3年次編入学・転入学定員は10名とし、グローバルスタディーズ学科の専門課程の履修に必要な素養について試験を課し、国際学部が可否を判定する。

このほか、科目等履修生の受け入れをおこなう。国際学部の科目等履修生の定員は、若干名とし、一般学生の学修環境に支障が出ない範囲で受け入れることとする。

ケ 資格取得

国際文化学科およびグローバルスタディーズ学科では、卒業要件単位に含まれる科目に加えて、教職関連科目を履修することで、中学校教諭一種免許（英語）および高等学校教諭一種免許（英語）の取得を可能とする。

また、国際文化学科およびグローバルスタディーズ学科では、卒業要件単位に含まれる科目に加えて、博物館学芸員課程関連科目を履修することで、博物館学芸員資格の取得を可能とする。博物館学芸員教育については、京都の立地を活かして、また、博物館学芸員課程をもつ他学部（文学部および理工学部）とも連携し、さらなる拡充を図る予定である。

同様に、国際文化学科およびグローバルスタディーズ学科では、卒業要件単位に含まれる科目に加えて、浄土真宗本願寺派教師資格科目を履修することで、民間資格である浄土真宗本願寺派教師資格の取得を可能とする。

【国際学部で取得可能な資格一覧】

資格の名称	国家資格	民間資格
中学校教諭一種免許状（英語）	○	
高等学校教諭一種免許状（英語）	○	
博物館学芸員	○	
浄土真宗本願寺派教師		○

サ 企業実習や海外語学研修など学外実習の実施

国際文化学科およびグローバルスタディーズ学科に共通する学外(国内)実習としては、全学で実施している短期体験型の「協定型インターンシップ・プログラム」があり、実習先は本学インターンシップ支援オフィスが確保する。また、各学科が独自に展開するものについては、以下に記述する。いずれの場合も海外での実習等に関しては大学が指定する海外傷害保険への加入を義務付け、病気・怪我等の事態に迅速に対応できる体制をとる。なお、出発前にはオリエンテーションを実施する（【資料⑦】：「国際学部 実習施設一覧」参照）。

(1) 国際文化学科

国際文化学科では、2 年次以降に履修する「国際文化実践プログラムⅠ」および「国際文化実践プログラムⅡ A」～「国際文化実践プログラムⅡ G」により、異なる文化間をつなぐ実践的能力の獲得を目指す。

「国際文化実践プログラムⅠ」は事前学習に充て、「国際文化実践プログラムⅡ A」～「国際文化実践プログラムⅡ G」では、種々のプロジェクト型学習プログラム（長期留学型、短期語学研修型、短期国外文化研修型、短期国内文化研修型、集中講義型、インターンシップ型、自己応募型の 7 類型）を準備し、学生が希望するものを選択する。このうち、実習先を確保する必要があるものについては、十分な準備期間をもって担当教員が年度ごとに企画・選定をおこなう。

本科目の評価および単位認定は、それぞれの授業担当教員がおこなう。具体的には、学生が提出するプロジェクト計画書、計画書の履行状況、目標達成程度のほか、レポートや口頭発表を通じて、学生本人の学びや気づきといった定性的側面も含めて総合的に評価する。なお、現「国際文化学部」でも、学外実習先の確保、実習先や受入先との連携、評価と単位認定などは、国内外での文化研修プログラム等を通じて幅広く行われている。

(2) グローバルスタディーズ学科

グローバルスタディーズ学科では半年以上の長期留学を必修とし、留学を支援するため以下のプログラムを用意する。

①語学研修プログラム（短期留学：任意）

必修となる長期留学は、原則として現地大学での正規専門科目を受講させることから、留学先の受入条件（TOEIC®・TOEFL®・IELTS™等のスコア）を満たす自信のない学生に対し、夏期休暇期間等を利用した語学研修プログラムを用意し、任意での参加を促す。この留学は海外経験のない学生にとっては、長期留学前に異なる文化や生活を体験する貴重な機会ともなる。成績評価については、留学先機関による成績表を学科で厳正に審査する。

②長期留学（半年以上：必修）

長期留学については、カリフォルニア大学バークレー校（米国）、カリフォルニア州立大学フラトン校（米国）、ワイカト大学（ニュージーランド）、ディーキン大学（オーストラリア）、モナッシュ大学（オーストラリア）の 5 校（以下「提携校」）から学生の受入について了承を得ており、既に覚書を交わしている。なお、提携校 5 校でグローバルスタディーズ学科の入学定員 120 名を満たす受入数を確保している（【資料⑧：「グローバルスタディーズ学科 提携留学受入承諾文書（複写）」】参照）。

留学先で取得した単位については、留学先機関による成績表や学修内容等を学科で審査し、グローバルスタディーズ学科の開設科目に読み替えて単位を認定する。また、留学中は学科開講科目「SNS を活用した異文化交流実践」の受講を必修とし、留学生が主体的に異文化ネットワークを構築し、海外でしか経験できないような異文化理解を促す。上記の留学プログラムに加えて、学科独自のインターンシップ・プログラムとして、「インターンシップ・アブロードⅠ」（2 単位）と「インターンシップ・アブロードⅡ」（4 単位）を学科専攻科目として配置する。これらの科目を通じて海外でインターンシップ

を経験し、国際舞台で活躍できる人材として求められるビジョン、マナー、自信、実践的語学力などを養う。インターンシップに際しては、必要に応じて学生と受入団体間で事前に誓約書を交わし、受入先の求める守秘義務等を遵守させる。

留学受入先ならびにインターンシップ受入先との連携については、学科教員と専任事務職員が連携し、必要に応じて受入先に赴き、継続的に協議する体制をとる。また、緊急事態等が発生した際には、担当者間で連携しながら必要な対応をとる。

ス 編入学定員

1. 編入学制度

(1) 2 年次転入学

グローバルスタディーズ学科では、平成 28 (2016) 年度より本学学生を対象に、2 年次に転入学生を若干名受け入れる。転入学生の既修得単位は、入学時に国際学部国際文化学科および本学他学部において修得した単位のうち、42 単位を超えない範囲で認定する。ただし、学科外国語科目は 12 単位を認定の上限とし、その他は既修得科目に応じて決定する。

教育上の配慮として、入学時にオリエンテーションを実施し、本学科所定の要件をすべて満たし、転入後 3 年間での卒業が可能となるよう、適正な履修指導をおこなう。必修となる半年以上の留学は、原則として 2 年次の前期または後期に配置するが、2 年次転入学生は 2 年次後期を基本とする。

また、1 年次に配置する留学準備科目「Study Abroad Preparation I」および「Study Abroad Preparation II」を 2 年次前期に受講させ、2 年次後期からの留学に備えられるようにする（【資料⑨：「グローバルスタディーズ学科 2 年次転入学生履修モデル」】、【資料⑩：「2 年次転入学生の既修得単位読替表（グローバルスタディーズ学科）」】、【資料⑪：「グローバルスタディーズ学科における 2 年次転入学生の単位認定とカリキュラムの相関図」】参照）。

(2) 3 年次編入学

国際文化学科およびグローバルスタディーズ学科では、平成 29 (2017) 年度より編入学生を受け入れる。編入学定員は国際文化学科 20 名、グローバルスタディーズ学科 10 名とする。編入学生の既修得単位は、入学時に他大学・短期大学・高等専門学校において修得した単位のうち、62 単位を超えない範囲で認定する。

教育上の配慮として、入学時にオリエンテーションを実施し、本学の教育全般について理解促進を図るとともに、編入後の 2 年間での卒業が可能となるよう、適正な履修指導をおこなう。（【資料⑫：「国際文化学科 3 年次編入生履修モデル」】、【資料⑬：「編転入学生の既修得単位読替表（国際文化学科）」】、【資料⑭：「国際文化学科における編転入学生の単位認定とカリキュラムの相関図」】、【資料⑮：「グローバルスタディーズ学科 3 年次編入生履修モデル」】、【資料⑯：「編転入学生の既修得単位読替表（グローバルスタディーズ学科）」】、【資料⑰：「グローバルスタディーズ学科における編転入学生の単位認定とカリキュラムの相関図」】参照）。

セ 2つ以上の校地における教育

本学は、大学本部がある深草キャンパス（京都市伏見区）以外に、大宮キャンパス（京都市下京区）、瀬田キャンパス（滋賀県大津市）を有しており、国際学部 of 学生に対しては深草キャンパスで教育をおこなう。ただし、博物館学芸員課程を履修する学生のみ、2 年次以上において大宮キャンパスで 2 科目、瀬田キャンパスで 1 科目を開講する。これは、同課程を有する文学部（深草および大宮キャンパス）および理工学部（瀬田キャンパス）と共同で科目を開講しているためである。国際学部では、博物館学芸員課程の履修を希望する学生に対応できるよう、上述のキャンパス間の移動時間も勘案した時間割を編成する。なお、深草キャンパスから大宮キャンパスへはスクールバス利用により約 20 分、深草キャンパスから瀬田キャンパスへもスクールバス利用により約 30 分で移動可能である。

また、国際学部の専任教員は、原則として深草キャンパスで開講される授業科目のみを担当することから、キャンパス間の移動を伴わず、教育・研究上の支障は生じない。

タ 多様なメディアの利用

大学設置基準第 25 条第 2 項および第 3 項に該当するものとしては、「SNS を活用した異文化交流実践」（2 単位）があり、国際文化学科およびグローバルスタディーズ学科の双方で、半年以上の長期留学者にこの科目を履修させる。なお、大学設置基準第 25 条第 2 項にかかる授業は本科目だけであることから、大学設置基準第 32 条第 5 項には抵触しない。

本科目は、現「国際文化学部」が開発したソーシャルネットワーキングシステム（SNS）「TNGnet (Total Net for Global Personnel ツナグネット)」を活用し、学生が留学先で準備された課題に取り組み、TNGnet 上でレポートの公開や担当教員によるフィードバックをおこなうものである。SNS の特性を活かし、学生は他者のレポートに意見等を投稿し、そのままオンラインで議論等ができる点が特長である。なお TNGnet は、平成 23（2011）年度から平成 24（2012）年度にかけて既に運用をおこなっており、必要なノウハウを蓄積している。なお、本科目の受講対象者には事前にオリエンテーションを実施し、メディアリテラシーに関する指導を受けることを義務化する。

ツ 管理運営

国際学部では、龍谷大学学則第 63 条にもとづき教授会を設置する。本教授会は、国際学部教授会規程にもとづき専任の教授、准教授、講師を構成員とする。また、教授会における審議・決定事項として、①教育職員の人事に関する事項、②学部長および評議員の選挙に関する事項、③研究および教授に関する事項、④学科課程の編成、履修の方法および試験に関する事項、⑤学業評価に関する事項、⑥学生の入学、退学、休学、復学および卒業に関する事項、⑦学生の補導更生に関する事項、⑧学部内諸規程の制定改廃に関する事項、⑨学位称号に関する事項、⑩その他学部における重要な事項、が規程上定められている。

本教授会は学部長が招集し議長となり、構成員の 3 分の 2 以上の出席により成立するこ

とし、月 2 回程度の開催を予定している。なお、教授会の円滑な運営のため、学部長、教務主任、研究主任、キャリア主任、学生生活主任からなる執行部会議を設け、教授会審議事項等の調整を図る予定である。

テ 自己点検・評価

本学では、建学の精神にもとづく特色ある教育研究活動等を展開し、私立大学としての自主性、自律性を重んじつつ、有為の人間を育成するとともに、学術文化の向上や社会の発展に貢献することを目指している。その実現のため、教育・研究の向上を図り、自らの活動を点検・評価し、独自の方法で教育研究の質を自ら保証すること（内部質保証）を重視する。

こうした認識のもと、龍谷大学学則第 1 条の 2 に、「本学は教育研究の向上をはかり、前条の目的を達成するため、自らの点検・評価をおこなう」と定めるとともに、内部質保証に関する方針として、「龍谷大学内部質保証のあり方について」を定め、「機関としての自己点検・評価」と本学の教育研究等を支える「教員個人の諸活動に対する自己点検」という 2 つの視点から内部質保証システムを確立し、教育研究水準の維持・向上に努めている。

内部質保証に関する方針にもとづき、平成 23（2011）年度から新たに実施している自己点検・評価制度においては、その目的として①「質保証のための改革・改善マネジメント（内部質保証システム）の確立」、②「大学活動の重点化と大学業務の改善を推進」、③「自己点検・評価を通じた社会に対する説明責任の遂行」を掲げている。

実施体制は、「大学評価に関する規程」にもとづき、全学的な自己点検・評価の体制を整備している。具体的には、大学評価に関する重要事項を審議・決定するため、大学執行部である部局長会の下に全学大学評価会議を設置し、そのもとに、大学評価に関する具体的な業務を審議する大学評価委員会を設置している。さらに、すべての学部等に自己点検・評価委員会を設置し、日常的な評価・改善活動をおこなう体制を整えている。点検・評価項目については、基本的には公益財団法人大学基準協会の点検・評価項目に準拠しつつ、本学独自の点検・評価項目も加えている。

制度の内容としては、毎年度、すべての学内機関（組織）が自らの判断と責任においてその諸活動について点検・評価をおこない、その結果を「自己点検・評価シート」にまとめ、大学評価委員会による点検・評価を経て、全学大学評価会議が評価結果を決定し、学内各機関（組織）にフィードバックし、改善および向上を図るものである。

以上のような機関（組織）としての自己点検・評価とともに、教員個人の諸活動に対する自己点検として、各教員が、教育、研究、社会貢献、大学管理運営の 4 領域において、年度初めに基本方針を定め、年度末に諸活動について自己点検を行い、改善および向上を図る「教員活動自己点検」も実施している。

自己点検・評価の結果公表については、本学の内部質保証の方針、自己点検・評価の実施体制、関連規程、制度概要とともに、大学全体に係る自己点検・評価シートと自己点検・評価によって顕在化した全学的課題の一覧をホームページ内に掲載している。また、認証評価の評価結果、点検・評価報告書についてもホームページで公表している。

なお、平成 26（2014）年 3 月には、公益財団法人大学基準協会から大学基準に適合し

ていると認定された。現在、努力課題等の指摘事項および特記すべき長所について、改善とさらなる充実に取り組んでいるところである。

本学国際学部では、上述のような全学的な自己点検・評価システムを活用し、本学国際学部が掲げる理念や目標に照らして、学部全体の課題共有の機会として自主的・継続的な自己点検活動をおこなう。また全学大学評価会議が出す評価結果のフィードバックに対して、学部内に設ける国際学部自己点検・評価委員会が改善・改革の方針を検討し、国際学部執行部の責任により改善策・改革策を実施する。

ト 情報の公表

本学では、在学生・保護者・卒業生・受験生等に向けて、大学の情報（大学の使命、目的、大学の運営状況、教育・研究活動等）を積極的に発信している。特に大学の基本情報については、平成 23（2011）年 4 月 1 日施行の学校教育法施行規則等の一部改正（教育情報の公表の義務化）を踏まえ、情報の公表に関する規程を整備し、また、これにもとづき「情報公表（基礎データ）」のページを本学ホームページ内に新たに設置し、法人ならびに教育情報の積極的な公表に努めている。具体的な内容は以下のとおりである。

（１）大学の教育研究上の目的に関すること

本学の「寄附行為」、「建学の精神、使命および理念」に関する情報をホームページ内に掲載し、本学の教育研究上の目的に関する情報を公表している。

①「学校法人龍谷大学寄附行為」

HOME > 大学紹介 > 情報公表（基礎データ）> 学則・諸規程等に関する情報
http://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/rules/reiki_honbun/ai60000011.html

②「建学の精神、使命および理念」

HOME > 大学紹介 > 大学概要・理念 > 建学の精神
<http://www.ryukoku.ac.jp/about/spirit.html>

（２）教育研究上の基本組織に関すること

法人運営をおこなう役員・評議員のほか、本学の役職者、教育研究組織、研究関連組織、事務組織等に関する情報をホームページ内に掲載している。

①「役員・役職者一覧」

HOME > 大学紹介 > 大学概要・理念 > 組織 > 役員・役職一覧（理事・法人評議員、学長・副学長・学部長・研究科長等）
http://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/organaization/office_list.html

②「教育研究組織」

HOME > 大学紹介 > 大学概要・理念 > 組織 > 教育研究組織図
<http://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/organaization/education.html>

③「研究関連組織」

HOME > 大学紹介 > 大学概要・理念 > 組織 > 研究関連組織図
<http://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/organaization/research.html>

④「事務組織」

HOME > 大学紹介 > 大学概要・理念 > 組織 > 事務組織図
<http://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/organaization/office.html>

(3) 教員組織、教員の数ならびに各教員が有する学位および業績に関すること

教員データベース内に、教員組織や各教員が有する学位・業績等の情報を掲載している。
また、教員数については、職階・男女・年齢別の情報をホームページ内に掲載している。

①「教員データベース『WHO'S WHO』」

HOME > 教員データベース/WHO'S WHO（教育・研究業績・教員組織等）
<http://www.ryukoku.ac.jp/who/>

②「教員数（職階別・男女別数）」

HOME > 大学紹介 > 情報公表（基礎データ）> 教員数（職階別・男女別数）
http://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/info_disclosure/information/faculty_1.html

③「教員数（年齢別数）」

HOME > 大学紹介 > 情報公表（基礎データ）> 教員数（年齢別数）
http://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/info_disclosure/information/faculty_2.html

(4) 入学者に関する受入方針および入学者の数、収容定員および在学する学生の数、卒業又は修了した者の数ならびに進学者数および就職者数その他進学および就職等の状況に関すること

学部ごとに定める入学者受け入れの方針（アドミッションポリシー）をホームページ内の「教育活動に関する情報」に、入学者数・収容定員・在学生数等をホームページ内の「学部・学科・専攻、大学院研究科等の入学者数・編入学者数」にそれぞれ掲載している。また、卒業生数・修了生数をホームページ内の「学位授与数」に、就職者や進学者数等、就職に関する情報をホームページ内の「就職・進路決定率」にそれぞれ掲載している。

①「教育活動に関する情報」

HOME > 大学紹介 > 情報公表（基礎データ）> 教育活動に関する情報
http://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/info_disclosure/information/info_03.html

②「学部・学科・専攻、大学院研究科等の入学者数・編入学者数」

HOME > 大学紹介 > 情報公表（基礎データ）> 学生数・入学定員・入学者数・収容定員等
<http://www.ryukoku.ac.jp/about/factbook.html>

③「学位授与数」

HOME > 大学紹介 > 情報公表（基礎データ）> 学位授与数
http://www.ryukoku.ac.jp/about/factbook_09.html

④「就職・進路決定率」

HOME > 就職支援 > 就職関連統計資料 > 就職・進路決定率
<http://career.ryukoku.ac.jp/statistical/index.html#gyoshu>

（５）授業科目、授業の方法および内容ならびに年間の授業の計画に関すること

授業科目ごとに、その授業方法、内容、年間（半期）の授業計画等に関する情報をホームページ内の「シラバス」に掲載している。

①「シラバス」

HOME > 学部・大学院・短大 > web シラバス
<https://capella.ws.ryukoku.ac.jp/RSW/SYLD110Init.do>

（６）学修の成果に係る評価および卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

成績評価の方法・基準等に関する情報をホームページ内の「学修の成果に係る評価」に掲載している。

①「学修の成果に係る評価」

HOME > 大学紹介 > 情報公表（基礎データ）> 学修の成果に係る評価
http://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/info_disclosure/information/record.html

②「各学部の卒業要件単位数（平成 26（2014）年度入学生対象）」

HOME > 大学紹介 > 情報公表（基礎データ）> 教育活動に関する情報 > 各学部の卒業要件単位数
http://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/info_disclosure/information/img/data/info03/2014_credit_01.pdf

③「各研究科の修了要件単位数（平成 26（2014）年度入学生対象）」

HOME > 大学紹介 > 情報公表（基礎データ）> 教育活動に関する情報 > 各研究科の修了要件単位数
http://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/info_disclosure/information/img/data/info03/2014_credit_02.pdf

（７）校地・校舎等の施設および設備その他の学生の教育研究環境に関すること

ホームページ内の「校地・校舎等の施設・設備に関する情報」に、関連する情報を掲載している。

①「校地・校舎等の施設・設備に関する情報」

HOME > 大学紹介 > 情報公表（基礎データ）> 校地・校舎等の施設・設備に関する情報
http://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/info_disclosure/information/info_08.html

(8) 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること

授業料・施設費・入学金等の学費、ならびにその他諸会費に関する情報をホームページ内に掲載している。さらに次年度の学費について保護者向けに通知することなどにより、学生から徴収する費用についての情報を公表している。

①「学費」

HOME > 学生生活 > 奨学金・学費について > 学費

http://www.ryukoku.ac.jp/campus_career/expense/school.html

(9) 大学がおこなう学生の修学、進路選択および心身の健康等に係る支援に関すること

本学が実施している学生生活全般に関する情報をホームページ内の「学生生活・課外活動に関する情報」に、就職支援や進路選択に関する情報をホームページ内の「進路・就職に関する情報」にそれぞれ掲載している。

①「学生生活・課外活動に関する情報」

HOME > 大学紹介 > 情報公表（基礎データ）> 学生生活・課外活動に関する情報

http://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/info_disclosure/information/info_05.html

②「進路・就職に関する情報」

HOME > 大学紹介 > 情報公表（基礎データ）> 進路・就職支援に関する情報

http://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/info_disclosure/information/info_07.html

(10) その他

①「認証評価結果」

HOME > 大学紹介 > 大学評価 > 認証評価

http://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/info_disclosure/appraisal.html

②「自己点検・評価」

HOME > 大学紹介 > 自己点検・評価（内部質保証）

<http://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/evaluation/evaluation.html>

③「学則・諸規程等」

HOME > 大学紹介 > 情報公表（基礎データ）> 学則・諸規程等に関する情報

http://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/info_disclosure/information/info_11.html

対外的な情報発信については、大学の広報機能の強化・充実を目的として策定した「広報基本戦略」にもとづき、マスメディア等に対して積極的な情報発信をおこなっている。また、受験生向けの大学案内誌、本学学生・教職員の活躍や特色ある取り組みを紹介する広報誌『龍谷』、学生広報スタッフによるメールマガジンの配信などにより、幅広いステークホルダーに対する情報発信を展開している。

ナ 授業内容方法の改善を図るための組織的な取組

本学では、大学教育開発センターおよび各学部・研究科が連携しながら、全学的な FD 活動と学部独自の FD 活動を推進し、教育における問題点とその改善方法の検討をおこない、積極的かつ組織的な教育改善を目的とした FD 活動を展開している。

本学では、各部局の教学責任主体および個人の FD 活動を支援し、個々の FD 活動の成果を全学にフィードバックすることを目的として、平成 13（2001）年 4 月に大学教育開発センター（以下「センター」）を設置した。また、その運営に関する重要事項を審議・決定するため、各学部の教務主任を中心とする「大学教育開発センター会議」および「大学教育開発センター運営委員会」を設置した。さらに平成 20（2008）年 11 月には、すべての学部 FD 委員会を設置することとした。

また、平成 22（2010）年度からスタートした第 5 次長期計画にもとづき、優れた研究を基盤とした「教育を重視する大学」の実現を目指すべく、平成 24（2012）年度に運営体制の見直しをおこない、FD 活動における企画立案機能の強化と効率化を図るため、「FD 企画推進委員会」を設置するとともに、各学部・研究科において実施される FD 活動との全学的な連携を図るため「学部 FD 協議会」、「大学院 FD 協議会」を設けた。なお、センターにおける全学的な FD にかかる現在の取り組みとして以下が挙げられる。

①FD・教材等研究開発検討プロジェクト

大学がテーマを指定し FD 研究をおこなう指定研究プロジェクトを平成 16（2004）年度から、教職員が自らテーマを設定して取り組む自己応募研究プロジェクトを平成 10（1998）年度から開始し、FD 研究への支援をおこなっている。研究活動を通じて得られた成果については、ポスター発表や報告会等を通じ広く学内で公開・共有することで、全学的な FD 活動の波及を図っている。

②教育活動支援プロジェクト

平成 7（1995）年度より授業アンケートを導入し、現在は「学生による授業アンケート」を毎学期末に実施し、教育職員へ個別集計結果を配付し、授業改善に役立てている。同アンケートの集計結果は報告書として学内外に配付し、本学関係者にはホームページを通じて公表している。また、平成 22（2010）年度からは、「学期半ばに実施する授業アンケート（記述式）」（年 2 回）も併せて実施している。

③交流研修・教育活動研究開発機能プロジェクト

本学の教育理念、また、本学の教育研究活動支援サービスの利用方法等の理解を目的に、「教育職員新任者就任時研修会」ならびに「フォローアップ研修」を実施している。また、教職員の FD 活動に関する啓発と交流を図るため、「FD サロン」、「FD フォーラム」、「FD 報告会」、「FD 研修会」などを開催している。

④情報収集・広報事業

学部 FD 協議会および大学院 FD 協議会を通じ、各学部・研究科の取り組みに関する情報交換・共有を図っている。また、定期刊行物として「大学教育開発センター通信」、「大学教育開発センターNEWS」、「FD サロンレポート」、「FD フォーラム報告書」などを発行し、

広く学内外に発信している。また、これらについては本学ホームページでも公開している。

また、学外との交流連携を推進するため、全国私立大学 FD 連携フォーラム、関西 FD 連絡協議会、大学コンソーシアム京都、私立大学連盟、全国高等教育研究所等へ加盟し、FD ネットワークの構築や研究、情報収集に努める。

⑤国際学部独自の取組

国際学部では前述の大学全体の活動に加え、現「国際文化学部」における種々の FD 活動を継承し、国際学部 FD 委員会を中心に、学部独自の活動を企画・推進する。具体的には、公開授業とその後の講評会を通じた教員相互の交流、初年次教育に関する講義内容の統一、副読本などの教材開発、講演会・短期研修の企画などを予定している。

二 社会的・職業的自立に関する指導等および体制

1. 教育課程内の取組

(1) 国際文化学科

国際文化学科では、第 1 セメスターから第 8 セメスターまでキャリアに関する科目を配置し、社会的・職業的自立につながる教育課程とする。具体的には、入学直後に全員が履修する「基礎演習 A」において、全学組織であるキャリアセンターと協力し、社会的・職業的自立に向けた啓発のための授業機会を設け、4 年間の学修に対する動機付けをおこなう。また、第 1 セメスターから履修可能な学科基礎科目「キャリア・ガイダンス」を配置し、希望者が早い段階からキャリア設計について考えられる機会を提供する。

次いで第 3 セメスターで必修の「国際文化実践プログラムⅠ」では、将来のキャリア計画を学生に提出させ、第 4 セメスターの「国際文化実践プログラムⅡ A」～「国際文化実践プログラムⅡ G」での実践的な学びに結びつけるよう指導する。また、第 3 セメスターから履修可能な学科専攻科目として、「グローバル時代のキャリア設計」を配置し、より現実的な観点からキャリア設計を考える機会を提供する。さらに第 5～第 8 セメスターの「演習Ⅰ」～「演習Ⅳ」を通じ、担当教員が進路選択について綿密な指導をおこなう。

(2) グローバルスタディーズ学科

グローバルスタディーズ学科では、総合的なコミュニケーション能力の醸成を重視した教育課程とするため、第 1 セメスターと第 2 セメスターでは集中的な英語教育を優先し、社会的・職業的自立に資する科目は第 3 セメスター以降に配置する。

第 3 セメスター以降に履修可能な「グローバル化とキャリア形成」では、既に国際舞台で活躍している人材を講師として招聘し、グローバルな時代におけるキャリア形成に関して、自発的な学びにつながる動機づけをおこなう。第 5 セメスター以降では、「インターンシップ・アブロードⅠ」および「インターンシップ・アブロードⅡ」、「Career English」を配置し、より実践的なキャリア教育を展開する。「インターンシップ・アブロードⅠ」および「インターンシップ・アブロードⅡ」では、企業・国際機関・非営利組織など、多様な就業体験の機会を提供する。また、「Career English」では、英語による履歴書の作成や

英語による模擬面接等、グローバルな就職活動で必要となる実践的なスキルの獲得を促す。さらに第 5～第 8 セメスターの「演習Ⅰ」～「演習Ⅳ」を通じ、担当教員が海外の大学院進学も含めた進路選択についてきめ細かな指導をおこなう。

2. 教育課程外の取組

国際学部ではキャリアセンターと協力し、学生のキャリア形成に資する種々の取り組みを実施する。具体的には、1、2 年次では明確な職業観・勤労観を育むためのプログラム、3、4 年次では就職活動に合わせてガイダンス・セミナー・説明会などを開催する。また、資格取得を目指した「キャリア支援講座」も開設する。こうした取り組みのほか、キャリアカウンセラーの資格を有する職員による個別相談等を適宜おこない、総合的な就職支援策を展開する。特にグローバルスタディーズ学科を新たに設置することから、日本企業だけでなく、グローバル企業（日本国外に本社を置き、世界的に事業を展開する企業）の情報収集も充実させ、世界で活躍できる人材の育成に見合った進路を開拓する。

また、本学では「face to face 面談強化による就活リスタート支援」プログラム（平成 21（2009）年度文部科学省「大学教育・学生支援推進事業【テーマ B】学生支援推進プログラム」採択）を通じて、企業の採用活動ピーク時に内定を得られなかった学生が、再び目標を掲げ、主体的に将来を切り開けるよう多様な支援策を展開している（【資料⑩：「平成 21 年 文部科学省『大学教育・学生支援推進事業【テーマ B】学生支援推進プログラム』、『きめ細やかなフォロー体制』】参照）。

3. 適切な体制の整備

（1）学内の支援組織

本学では、各学部にキャリア主任を置き、キャリア主任がキャリアセンターと学部を繋ぐ役割を果たすことで、教育課程内で体系的なキャリア教育を展開できるようにしている。学内の支援組織については、「全学キャリア会議」、「キャリア主任会議」、「学部キャリア委員会」がその任に当たる。

全学キャリア会議は、本学におけるキャリア開発支援の基本方針、実施大綱、その他重要事項を審議・決定する。学長を議長とする本会議には各学部長が委員として参加し、学部と大学全体との有機的な連携を図っている。

キャリア主任会議は、キャリア開発支援上の諸課題について全学的に協議・調整をおこない、キャリア開発支援の円滑な推進を図るための組織である。本会議には、学部キャリア主任が委員として参加し、学部と大学全体との有機的かつ緊密な連携を図っている。

学部キャリア委員会は、学部のキャリア教育および就職支援を推進するため、学部ごとに設置された組織である。キャリア主任をはじめ、学部教務委員等が委員として参加し、キャリア教育と就職支援の有機的な連携・推進を図っている。

（2）学生への支援内容

本学では、履修登録システムと連動した「就職状況把握システム」を運用しており、全卒業年次生のデータを集積し、就職活動が進展していない学生を把握できるようにしてお

り、学生の就職活動状況に応じた適切な支援をおこなうよう努めている。

留学生に対しては、日本人学生と同様に個別の就職説明会を開催している。日本での就職を希望する留学生と留学生の採用に積極的な企業を把握し、両者のマッチングに努めている。併せて自己分析や面接対策等、日本人と同様の就職支援プログラムを実施している。また、障がいを持つ学生に対しても同様に、個別就職説明会の開催、企業とのマッチングなど、総合的な支援を展開している。

本学を卒業した既卒者に対しては、専門性を持つ民間企業と業務委託契約を締結し、カウンセリングを中心とした就職・転職支援を実施している。また、既卒者対象の求人情報の収集、求人開拓を積極的に進め、既卒求職者と求人企業のマッチングに努めている。

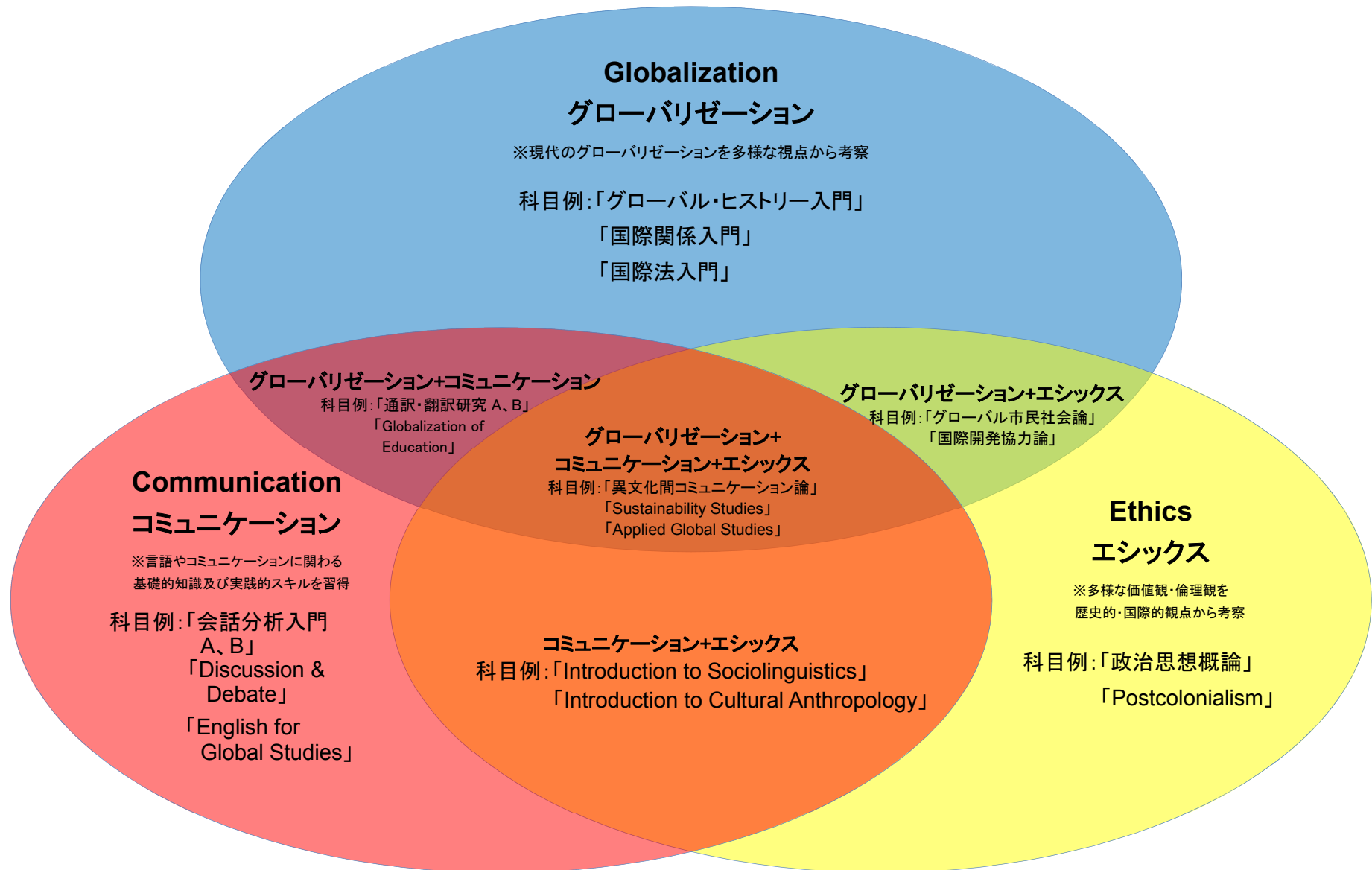
以上

龍谷大学国際学部 設置の趣旨等を記載した書類

【資料目次】

- | | |
|-------|---|
| 資料 1 | 「グローバルスタディーズ学科 学問領域構成図」 |
| 資料 2 | 「職員定年規程」 |
| 資料 3 | 「グローバルスタディーズ学科 英語運用能力向上のためのサポート体制 概念図」 |
| 資料 4 | 「国際文化学科 履修モデル」 |
| 資料 5 | 「グローバルスタディーズ学科 履修モデル」 |
| 資料 6 | 「学術雑誌等」一覧 |
| 資料 7 | 「国際学部 実習施設一覧」 |
| 資料 8 | 「グローバルスタディーズ学科 提携留学受入承諾文書（複写）」 |
| 資料 9 | 「グローバルスタディーズ学科 2 年次転入学生履修モデル」 |
| 資料 10 | 「2 年次転入学生の既修得単位読替表（グローバルスタディーズ学科）」 |
| 資料 11 | 「グローバルスタディーズ学科における 2 年次転入学生の単位認定とカリキュラムの相関図」 |
| 資料 12 | 「国際文化学科 3 年次編入生履修モデル」 |
| 資料 13 | 「編転入学生の既修得単位読替表（国際文化学科）」 |
| 資料 14 | 「国際文化学科における編転入学生の単位認定とカリキュラムの相関図」 |
| 資料 15 | 「グローバルスタディーズ学科 3 年次編入生履修モデル」 |
| 資料 16 | 「編転入学生の既修得単位読替表（グローバルスタディーズ学科）」 |
| 資料 17 | 「グローバルスタディーズ学科における編転入学生の単位認定とカリキュラムの相関図」 |
| 資料 18 | 「平成 21 年度 文部科学省『大学教育・学生支援推進事業【テーマ B】学生支援推進プログラム』『きめ細やかなフォロー体制』」 |
| 資料 19 | 「国際学部「履修要項」(案)」 一抜粋一 |

■グローバルスタディーズ学科 学問領域構成図



○職員定年規程

昭和 54 年 2 月 9 日

第1条 この規程は、「学校法人龍谷大学就業規則」第40条に基づき、本学専任職員の定年について規定する。

第2条 教育職員の定年は、教授については満68歳とし、准教授・講師・助教・助手については満65歳とする。

2 事務職員の定年は、満65歳とする。

第3条 定年による退職期日は、定年に達した当該年度末とする。

第4条 退職手当の支給については、別に定める。

付 則

- 1 この規程は、昭和54年4月1日から施行する。ただし、将来の情勢の推移を考慮して、施行の年度から10年以内に再検討するものとする。
- 2 「文学部・短期大学部教育職員停年規程」及び「事務職員停年規程」は廃止する。

付 則(昭和62年5月19日第2条第2項、第3項改正・追加)
この規程は、昭和62年5月19日から施行する。

付 則(昭和63年1月13日第2条改正)
この規程は、昭和63年1月13日から施行する。

付 則(平成4年1月16日題名改正)
この規程は、平成4年1月16日から施行する。

<参考>

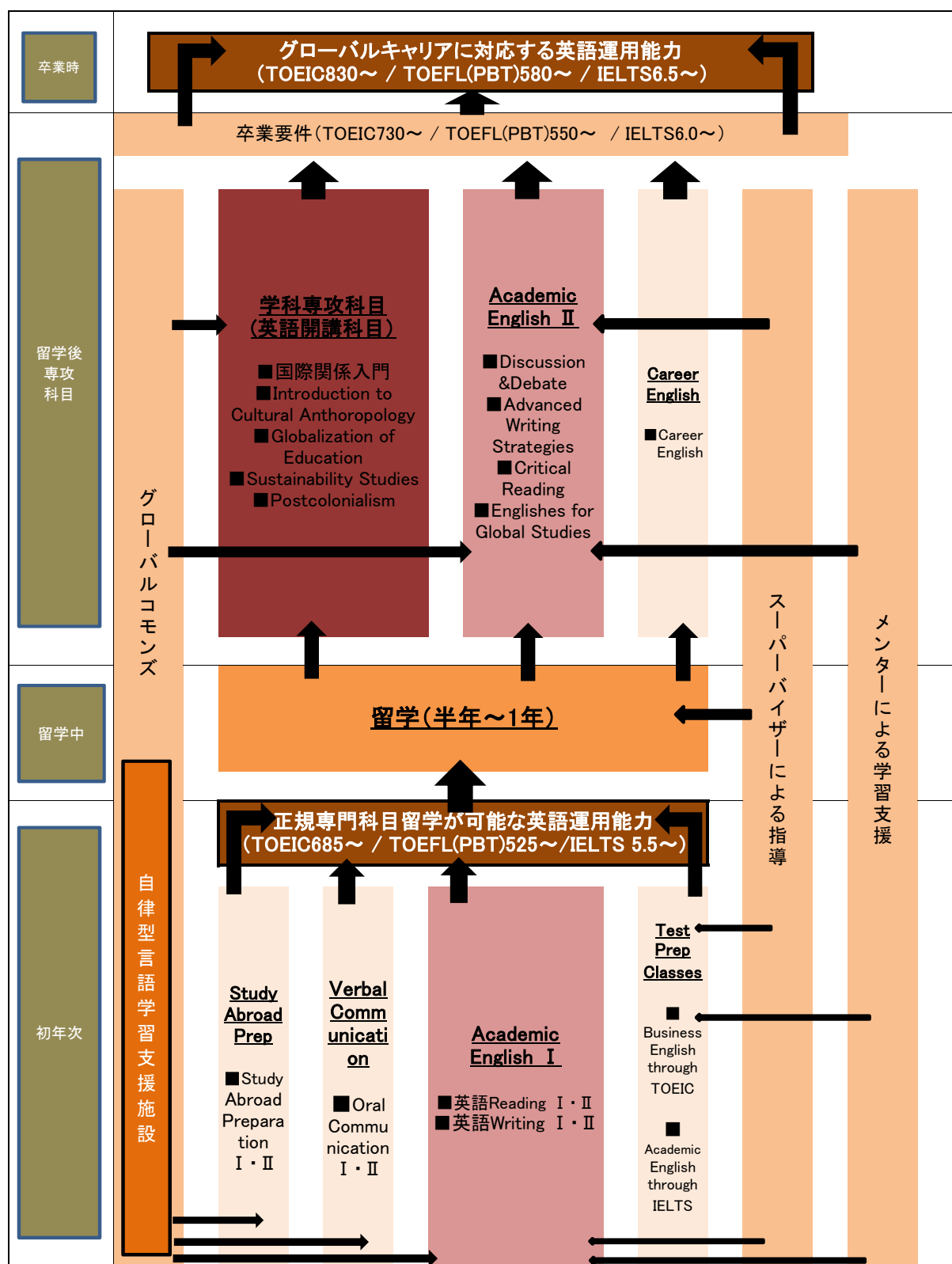
(評議会議事録に次の事項を記載する)

龍谷大学職員定年規程の一部を改正する規程(制定昭和62年5月19日)に規定する「教育研究上の特別な事情」とは、新学部の設置を意味するものとする。また、第2条第2項は、昭和70年3月31日に廃止するものとする。

付 則(平成16年3月25日第2条改正)
この規程は、平成16年3月25日から施行する。

付 則(平成19年2月22日第2条改正)
この規程は、平成19年4月1日から施行する。

グローバルスタディーズ学科 英語運用能力向上のためのサポート体制 概念図



◆ 国際文化学科 多文化共生コース「履修モデル」

〔卒業後の進路〕 宗教を含む多文化環境の中で国際的に活躍できる業界・職種。観光業、商社、製造業など顧客や構成員が多様な文化的背景を持つ企業、地方自治体の多文化共生施策担当者など。また中学校・高等学校教員（英語科）、浄土真宗本願寺派開教使、大学院進学など。

科目区分		1年次		2年次		3年次		4年次		修得 単位数		
		第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター			
教養教育科目		仏教の思想A ＜必修＞	2 仏教の思想B ＜必修＞	2 ジェンダー論	2 情報社会論	2					18	
		世界の宗教A	2 世界の宗教B	2	哲学思想	2						
		アジアの歴史	2 言語と文化	2								
専攻科目	学科外国語科目	English Communication I - Speaking	1 English Communication II - Speaking	1 English Communication III - Speaking	1 English Communication IV - Speaking	1					20	
		English Communication I - Writing	1 English Communication II - Writing	1 English Communication III - Writing	1 English Communication IV - Writing	1						
		English Communication I - Reading	1 English Communication II - Reading	1 English Communication III - Reading	1 English Communication IV - Reading	1						
		English Communication I - Seminar A	2 English Communication II - Seminar A	2								
	学科基礎科目	English Communication I - Seminar B	2 English Communication II - Seminar B	2								16
		基礎演習A ＜必修＞	2 基礎演習B ＜必修＞	2								
		調査分析の基礎A	2 調査分析の基礎B	2								
		多文化共生入門	2 社会心理学	2								
	学科専攻科目	キャリア・ガイダンス	2 多文化交流入門	2								52
				多文化交流論A	2 多文化交流論B	2 国際政治学入門	2 イスラームの社会B	2 キリスト教の文化A	2 キリスト教の文化B	2		
				NGO/NPO論	2 多文化共生と宗教	2 比較宗教思想	2 イスラームの文化B	2 グローバリゼーションとアフリカ	2 観光文化論	2		
				イスラームの社会A	2 中東政治論	2 イスラームの文化A	2 Exploring Cultures	2 社会調査法	2			
				世界の宗教と日本	2 観光行動論	2 グローバリゼーションと南アジア	2 観光経営論	2				
				映像文化論A	2 グローバリゼーションとヨーロッパ	2						
				国際人口移動	2 アラビア語セミナーⅡ	2						
				アラビア語セミナーⅠ	2							
	演習					演習Ⅰ ＜必修＞	2 演習Ⅱ ＜必修＞	2 演習Ⅲ ＜必修＞	2 演習Ⅳ ＜必修＞	2	14	
									卒業論文	6		
	国際文化実践プログラム				国際文化実践プログラムⅠ ＜必修＞	2 国際文化実践プログラムⅡ C ＜必修＞	2				4	
	修得単位数		21	21	21	21	10	10	8	12	124	

◆ 国際文化学科 世界と日本コース「履修モデル」

〔卒業後の進路〕 世界に日本文化を発信する業界・職種。旅行会社を含む観光業、海外における日本語教員、通訳・翻訳者、アジアに進出している各種製造業のほか、中学校・高等学校教員（英語科）、博物館学芸員など。また浄土真宗本願寺派開教使、大学院進学など。

科目区分		1年次		2年次		3年次		4年次		修得 単位数
		第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター	
教養教育科目		仏教の思想A ＜必修＞	2 仏教の思想B ＜必修＞	2 日本の文学	2 日本の文化	2				18
		アジアの歴史	2 日本の歴史	2 ジェンダー論	2 スポーツと人権・平和	2				
			言語と文化	2						
専攻科目	学科外国語科目	中国語Ⅰ	3 中国語Ⅱ	3 中国語Ⅲ	3 中国語Ⅳ	3				20
		English CommunicationⅠ - Seminar A	2 English CommunicationⅡ - Seminar A	2						
		English CommunicationⅠ - Seminar B	2 English CommunicationⅡ - Seminar B	2						
	学科基礎科目	基礎演習A ＜必修＞	2 基礎演習B ＜必修＞	2						18
		調査分析の基礎A	2 調査分析の基礎B	2						
		「世界と日本」入門	2 現代経済と文化	2						
		文化人類学入門	2 東アジアの地域交流	2						
		キャリア・ガイダンス	2							
	学科専攻科目			世界の宗教と日本	2 京ことばと京文化	2 日本の仏教文化	2 比較言語学	2 日本語からみた歴史と文化	2 イスラームの文化B	2
				日本の宗教	2 世界と日本の文学	2 東アジアの古代文化	2 伝統芸能論	2 比較宗教思想	2 Comparative Culture	2
				アジアの仏教文化	2 観光経営論	2 中央アジアと日本	2 キリスト教の文化B	2 国際人口移動	2	
				アジアの文化遺産	2 日本の近代化と国際関係	2 メディア文化論D	2 観光文化論	2		
				オセアニアと日本	2 多文化共生と宗教	2				
				海外における日本観	2 アジアの美術	2				
	演習					演習Ⅰ ＜必修＞	2 演習Ⅱ ＜必修＞	2 演習Ⅲ ＜必修＞	2 演習Ⅳ ＜必修＞	2
									卒業論文	6
	国際文化実践プログラム			国際文化実践プログラムⅠ ＜必修＞	2 国際文化実践プログラムⅡB ＜必修＞	2				4
修得単位数		21	21	21	21	10	10	8	12	124

◆ 国際文化学科 芸術・メディアコース「履修モデル」

〔卒業後の進路〕 一般企業や団体等、その業務を通じて芸術・文化に携わる業界や職種。一般企業のメセナ活動担当者、博物館学芸員、マスメディア、情報通信、コンテンツ産業、日本文化の紹介と深く関わる旅行業など。また中学校・高等学校教員（英語科）、浄土真宗本願寺派開教使、大学院進学など。

科目区分		1年次		2年次		3年次		4年次		修得 単位数
		第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター	
教養教育科目		仏教の思想A ＜必修＞	2 仏教の思想B ＜必修＞	2 ヨーロッパの歴史B	2 メディア論	2				18
		ヨーロッパの歴史A	2 言語と文化	2 欧米の文学芸術	2					
		スポーツ技術学演習	2 日本の歴史	2						
専攻科目	学科外国語科目	フランス語Ⅰ	3 フランス語Ⅱ	3 フランス語Ⅲ	3 フランス語Ⅳ	3				20
		English CommunicationⅠ - Seminar A	2 English CommunicationⅡ - Seminar A	2						
		English CommunicationⅠ - Seminar B	2 English CommunicationⅡ - Seminar B	2						
	学科基礎科目	基礎演習A ＜必修＞	2 基礎演習B ＜必修＞	2						16
		キャリア・ガイダンス	2 メディア文化入門	2						
		芸術・メディア入門	2 映像文化入門	2						
		大衆文化入門	2 物語と文学	2						
	学科専攻科目			映像文化論A	2 映像文化論B	2 メディア文化論B	2 映像文化論E	2 Advanced English A	2 Advanced English C	2
				大衆文化論A	2 大衆文化論C	2 芸術表現法C	2 欧米の演劇	2 メディア文化論D	2 大衆文化論E	2
				メディア文化論A	2 芸術表現法B	2 アートマネジメント	2 多文化交流論B	2 多文化交流論A	2	
				芸術表現法A	2 アジアの美術	2 イスラームの文化A	2 観光文化論	2		
				異文化間コミュニケーション論	2 西洋の美術	2				
				グローバル時代のキャリア設計	2 多文化共生と宗教	2				
					グローバリゼーションと東アジア	2				
	演習					演習Ⅰ ＜必修＞	2 演習Ⅱ ＜必修＞	2 演習Ⅲ ＜必修＞	2 演習Ⅳ ＜必修＞	2
									卒業論文	6
	国際文化実践プログラム			国際文化実践プログラムⅠ ＜必修＞	2 国際文化実践プログラムⅡ E ＜必修＞	2				4
修得単位数		21	21	21	21	10	10	8	12	124

◆ グローバルスタディーズ学科「履修モデルA」＜「グローバリゼーション」「コミュニケーション」「エシックス」の各領域を幅広く学ぶモデル＞

〔卒業後の進路〕 グローバルに展開する企業、企業の国際部門、中学校・高等学校教員（英語科）、海外における日本語教員、国内外の大学院への進学など

科目区分		1年次			2年次			3年次			4年次			修得 単位数	
		第1セメスター		第2セメスター	第3セメスター		第4セメスター	第5セメスター		第6セメスター	第7セメスター		第8セメスター		
教養教育科目		仏教の思想A ＜必修＞	2	仏教の思想B ＜必修＞	2									8	
		人権論A	2	人権論B	2										
専攻科目	学科外国語科目	英語(Reading) I ＜必修＞	2	英語(Reading) II ＜必修＞	2			Career English	2					22	
		英語(Writing) I ＜必修＞	2	英語(Writing) II ＜必修＞	2										
		英語(Oral Communication) I ＜必修＞	2	英語(Oral Communication) II ＜必修＞	2										
		Study Abroad Preparation I ＜必修＞	2	Study Abroad Preparation II ＜必修＞	2										
		Business English through TOEIC (Basic A)	2	Business English through TOEIC (Basic B)	2										
	学科基礎科目	リサーチ方法論A ＜必修＞	2	リサーチ方法論B ＜必修＞	2									14	
		ITリテラシーA ＜必修＞	2	ITリテラシーB ＜必修＞	2										
		グローバルスタディーズA ＜必修＞	2	グローバルスタディーズC ＜必修＞	2										
		グローバルスタディーズB ＜必修＞	2												
	学科専攻科目						会話分析入門B	2	通訳・翻訳研究A	2	多国籍企業論	2	Applied Global Studies	2	44
							国際法入門	2	国際関係入門	2	通訳・翻訳研究B	2	グローバリゼーションとラテンアメリカ	2	
							Discussion & Debate	2	国際人権論	2	グローバル化とキャリア形成	2	グローバリゼーションとエシックス	2	
							グローバリゼーションと東アジア	2	English for Global Studies	2	グローバル市民社会論	2			
							グローバリゼーションとヨーロッパ	2	グローバリゼーションとアフリカ	2	Advanced Writing Strategies	2			
							政治思想概論	2			国際開発協力論	2			
	演習						プロジェクト演習 ＜必修＞	2	演習 I ＜必修＞	2	演習 II ＜必修＞	2	演習Ⅲ ＜必修＞	2	14
												卒業論文	4		
留学					留学読替認定	20								22	
					SNSを活用した異文化交流実践	2									
修得単位数		22	20	22	14	14	14	8	10	124					

◆ グローバルスタディーズ学科「履修モデルB」＜英語で開講される科目を重視して学ぶモデル＞

〔卒業後の進路〕 グローバル企業、国際NGO/NPO団体、翻訳・通訳者、国際機関職員、中学校・高等学校教員(英語科)、国内外の大学院への進学など

科目区分		1年次		2年次			3年次			4年次			修得 単位数		
		第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター						
教養教育科目		仏教の思想A ＜必修＞	2 仏教の思想B ＜必修＞	2									4		
専攻科目	学科外国語科目	英語(Reading) I ＜必修＞	2 英語(Reading) II ＜必修＞	2			Career English	2					26		
		英語(Writing) I ＜必修＞	2 英語(Writing) II ＜必修＞	2											
		英語(Oral Communication) I ＜必修＞	2 英語(Oral Communication) II ＜必修＞	2											
		Study Abroad Preparation I ＜必修＞	2 Study Abroad Preparation II ＜必修＞	2											
		Business English through TOEIC (Basic A)	2 Business English through TOEIC (Basic B)	2											
		Academic English through IELTS (Basic A)	2 Academic English through IELTS (Basic B)	2											
	学科基礎科目	リサーチ方法論A ＜必修＞	2 リサーチ方法論B ＜必修＞	2									14		
		ITリテラシーA ＜必修＞	2 ITリテラシーB ＜必修＞	2											
		グローバルスタディーズA ＜必修＞	2 グローバルスタディーズC ＜必修＞	2											
		グローバルスタディーズB ＜必修＞	2												
	学科専攻科目			Discussion & Debate	2		通訳・翻訳研究A	2	グローバル化とキャリア形成	2	Applied Global Studies	2	Sustainability Studies	2	44
				Advanced Writing Strategies	2		異文化間コミュニケーション論	2	通訳・翻訳研究B	2	Contemporary Literature	2	Postcolonialism	2	
				Critical Reading	2		Globalization of Education	2	Introduction to Cultural Anthropology	2					
				Introduction to Sociolinguistics	2		English for Global Studies	2	インターンシップ・アブロードⅡ	4					
				国際関係入門	2		インターンシップ・アブロードⅠ	2	グローバルイノベーションと東アジア	2					
				会話分析入門A	2										
				南アジアの言語	2										
	演習			プロジェクト演習 ＜必修＞	2		演習Ⅰ ＜必修＞	2	演習Ⅱ ＜必修＞	2	演習Ⅲ ＜必修＞	2	演習Ⅳ ＜必修＞	2	14
													卒業論文	4	
留学				留学読替認定	20									22	
				SNSを活用した異文化交流実践	2										
修得単位数		22	20	16	22	14	14	6	10	124					

「学術雑誌等」一覧

タイトル等	
1	Africa
2	Agricultural and forest meteorology
3	Alternatives : a journal of world policy
4	Amerasia journal : a joint quarterly publication of the UCLA Asian American Studies Center and the Yale Asian American Students Association / Asian American Studies Center, University of California, Los Angeles
5	The American historical review / American Historical Association
6	The analysis of verbal behavior
7	Annual review of applied linguistics
8	Anthropological linguistics / Anthropological Dept., Indiana University
9	Anthropology today
10	Applied linguistics
11	Ars Islamica / Research Seminary in Islamic Art, Division of Fine Arts. University of Michigan
12	Ars orientalis : the art of Islam and the East
13	Arts of Asia
14	Asian ethnology
15	Asian survey / Institute of International Studies, University of California
16	Asian theatre journal : ATJ
17	L'Assiette au beurre
18	The Australian and New Zealand journal of sociology / Sociological Association of Australia & New Zealand
19	Australian journal of international affairs
20	AUSTRALIAN MACWORLD
21	The Australian outlook : the journal of the Australian Institute of International Affairs / Australian Institute of International Affairs
22	British journal of educational technology
23	British journal of international studies
24	Business week
25	CALICO journal
26	Canadian journal of forest research
27	Car & maintenance = 自動車と整備
28	Central Asian survey
29	Change
30	Change in higher education
31	The Chronicle of higher education
32	Cognitive linguistics
33	Communication education
34	Communication theory : CT : a journal of the International Communication Association
35	Comparative politics / the Political Science Program of the City University of New York
36	Computer assisted language learning

タイトル等	
37	Cooperation and conflict : Nordic studies in international politics
38	Cooperation and conflict : Nordic studies in international politics / Nordic Committee for the Study of International Politics
39	Courrier international
40	Critical studies in media communication : CSMC
41	Critique : revue générale des publications françaises et étrangères
42	Critique of anthropology
43	Cross currents : a quarterly review to explore the implication of christianity for our times
44	Cultural critique
45	Deutschland = ドイツチュラント : 政治・文化・経済・科学の雑誌
46	Development and change / Institute of Social Studies
47	Development policy review : the journal of the Overseas Development Institute
48	The drama review : TDR / New York University, School of Arts
49	Economic botany
50	The economist : or the political, commercial, agricultural, and free-trade journal
51	Educational researcher / American Educational Research Association
52	Educational Resources Information Center [CD-ROM]
53	ELT journal / Oxford University Press in association with the British Council
54	Energy policy
55	English language teaching : a periodical devoted to the teaching of English as a foreign language / British Council
56	English language teaching journal
57	English today
58	Esprit : revue internationale
59	Essential teacher : ET
60	Études internationales
61	Euromoney : the journal of the international money and bond markets
62	Europe-Asia studies
63	European human rights reports
64	Farming Japan
65	Finance and development / International Monetary Fund and International Bank for Reconstruction and Development
66	Financial times
67	Foreign affairs : an American quarterly review
68	Foreign language annals / American Council on the Teaching of Foreign Languages
69	Fortune
70	Le Français dans le monde : revue de l'enseignement du français hors de France
71	Francophonies du sud : le français dans le monde supplément
72	GA

タイトル等	
73	GA document
74	GA houses : global architecture
75	GA Japan : environmental design
76	Harvard business review / Graduate School of Business Administration, Harvard University
77	Harvard educational review
78	Harvard human rights journal
79	Harvard international law journal
80	History of the human sciences
81	Human communication research / International Communication Association
82	Human rights law journal : HRLJ
83	Human rights quarterly
84	IDC forum : 国際開発問題実務者のための理論情報誌 / 国際開発センター
85	IDCJ forum : 国際開発問題実務者のための理論情報誌 / 国際開発センター [編]
86	International documents review : the weekly newsletter on the United Nations
87	International herald tribune
88	International journal of applied linguistics
89	International journal of cultural studies
90	International journal of educational telecommunications
91	International journal of intercultural relations : IJIR / the Society for Intercultural Education, Training and Research
92	International journal of refugee law
93	International journal of testing
94	International journal on e-learning : corporate, government, healthcare, & higher education
95	International law reports
96	International legal materials : current documents / American Society of International Law
97	International review of industrial and organizational psychology
98	IRAL : international review of applied linguistics in language teaching
99	Iran : journal of the British Institute of Persian Studies
100	Japan forum / British Association for Japanese Studies
101	Japan quarterly
102	The journal of American history
103	Journal of Asian history
104	Journal of communication
105	Journal of cross-cultural psychology
106	Journal of development economics
107	Journal of educational multimedia and hypermedia
108	Journal of management information systems : JMIS

タイトル等	
109	Journal of personality and social psychology / American Psychological Association
110	Journal of popular culture / Popular Culture Association
111	Journal of pragmatics : an interdisciplinary quarterly of language studies
112	Journal of social studies research
113	Journal of sociology : the journal of the Australian Sociological Association / Australian Sociological Association
114	The journal of the Royal Anthropological Institute : incorporating man
115	Journal of women's history
116	Journalism = ジャーナリズム
117	Kyoto journal
118	Labor history
119	Language and education
120	Language assessment quarterly : an international journal
121	The language educator
122	Language in society
123	Language international : the magazine for the language professions
124	Language learning : a quarterly journal of applied linguistics
125	Language teaching research : LTR
126	Language testing
127	Linguistics and education
128	Macworld : the Macintosh magazine
129	Media culture & society
130	Millennium : journal of international studies / London School of Economics
131	Mini-world
132	Modern Asian studies
133	The Modern language journal / National Federation of Modern Language Teachers Associations
134	Le Monde
135	Le Monde diplomatique : journal des cercles diplomatiques et des grandes organisations internationales / Hubert Beuve-Mery
136	Monetary and economic studies / Institute for Monetary and Economic Studies, Bank of Japan
137	Monthly bulletin / European Central Bank
138	Monthly Jica
139	Monumenta Nipponica : studies on Japanese culture past and present
140	The New Yorker
141	Oriental art. New series
142	Pacific historical review / Pacific Coast Branch of the American Historical Association
143	Petroleum intelligence weekly
144	Popular music and society / Department of Sociology, Bowling Green State University

	タイトル等
145	Program / Organization of American Historians ... Annual Meeting
146	Projet
147	Public administration and development : a journal of the Royal Institute of Public Administration
148	Recall
149	Research on language and social interaction
150	Resurgence
151	The Review / International Commission of Jurists
152	Review of international economics
153	Review of international studies / British International Studies Association
154	Revue française de sociologie / Centre d'études sociologiques
155	Rock Music Studies
156	Russian history = Histoire russe
157	SD : スペースデザイン / 鹿島研究所出版会
158	Second language research
159	Senri ethnological studies / National Museum of Ethnology
160	Shu zhai = Digest
161	Social education
162	The social studies : a periodical for teachers and administrators
163	South Pacific newsletter / Kagoshima University Research Center for the South Pacific
164	Stanford journal of international law / Stanford University School of Law
165	Studia culturae islamicae / Institute for the Study of Languages and Cultures of Asia and Africa
166	Studies in second language acquisition
167	System
168	Teacher education quarterly
169	Teaching history
170	TESL Canada journal / TESL Canada Federation = Revue TESL du Canada / Fédération TESL du Canada
171	TESOL journal : a journal of teaching and classroom research
172	TESOL matters
173	TESOL quarterly : a journal for Teachers of English to Speakers of Other Languages / Teachers of English to Speakers of Other Languages
174	The Han-Kyoreh Shinmun
175	Third world quarterly / Third World Foundation
176	UNdiplomatic times
177	Vesta : 食文化のひろば / 味の素食の文化センター [編]
178	World development / Society for the Promotion of International Law and Order
179	World Englishes : WE : journal of English as an international and intranational language
180	World language English

タイトル等	
181	World politics : a quarterly journal of international relations / Center of International Studies, Princeton University
182	朝日総研レポートAIR21 : asahi inquiry & research
183	アジア経済 / アジア経済研究所
184	アフリカ研究 / 日本アフリカ学会 [編]
185	遺跡 / 遺跡発行会 [編]
186	遺跡学研究 : 日本遺跡学会誌 / 日本遺跡学会 [編]
187	インターカルチュラル : 日本国際文化学会年報 = Intercultural : annual review of the Japan Society for Intercultural Studies / 日本国際文化学会 [編]
188	エコソフィア : 自然と人間をつなぐもの = Ecosophia
189	エネルギー = Energy / 日本工業新聞社 [編]
190	エネルギーフォーラム
191	外語教学と研究
192	上方藝能 / 上方落語をきく会 [編]
193	韓国現代小説理論資料集 / 韓国學振興院
194	甘肅統計年鑑 / 甘肅省統計局編
195	季刊考古学
196	季刊戦争責任研究 / 日本の戦争責任資料センター [編] = The report on Japan's war responsibility
197	季刊文化遺産 = The cultural heritage
198	季刊民族学 / 国立民族学博物館監修
199	玉文化 / 日本玉文化研究会 [編]
200	熊楠研究 / 南方熊楠資料研究会編
201	熊本古墳研究 / 熊本古墳研究会 [編]
202	月刊日本語
203	月刊文化財発掘出土情報 / ジャパン通信社 [編]
204	月刊みんぱく / 国立民族学博物館編集
205	建築設計資料 = Data file of architectural design & detail / 建築思潮研究所 [編集]
206	建築文化 = The architectural culture / 彰国社
207	工藝
208	考古学集刊
209	広告批評
210	江西統計年鑑
211	高麗日報
212	国際開発ジャーナル = International development journal / 国際開発ジャーナル社
213	国際協力 / 国際協力事業団 [編]
214	国際政治 / 日本国際政治学会編
215	国立民族学博物館研究報告 / 国立民族学博物館
216	国立民族学博物館研究報告. 別冊 / 国立民族学博物館 [編]

タイトル等	
217	国立民族学博物館友の会ニュース / 民族学振興会千里事務局 [編]
218	語言科学 = Linguistic sciences
219	語言教学与研究
220	語言文字应用 = Applied linguistics
221	子どもと昔話 = A quarterly children and folktale : 子どもと昔話を愛する人たちの季刊誌
222	語文学习
223	語文教学与研究 / 华中师范大学主办
224	語文世界 / 中国語文報刊協会
225	語文知識 = Yuwen zhishi / 鄭州市大学路鄭州大学
226	史學雜誌
227	四川统计年鉴
228	島根考古学会誌 / 島根考古学会
229	ジュリスト
230	象徴図像研究
231	食の科学
232	食生活研究 / 食生活研究会 [編]
233	女性学 : 日本女性学会学会誌 = Journal of Women's Studies Association of Japan / 日本女性学会学会誌編集委員会編
234	シルクロード
235	新真婦人
236	新建築 / 新建築社 [編]
237	新建築. 住宅特集 = The Japan architect
238	人物と思想
239	西南アジア研究 / 西南アジア研究会 [編]
240	世界漢語教学 = Chinese teaching in the world / 世界漢語教学学会《世界漢語教学》編輯部編
241	世界の日本語教育. 日本語教育論集 / 国際交流基金日本語国際センター編
242	全関西婦人聯合會
243	陝西统计年鉴
244	争鳴
245	ソトコト : sotokoto : 地球と人をながもちさせるエコ・マガジン
246	地域研究 : JCAS review
247	地域研究論集 : JCAS review
248	中帰連 : 戦争の真実を語り継ぐ
249	中國語文
250	中国煤炭工业年鉴 / 煤炭工业部中国煤炭工业年鉴编审委员会编
251	中國婦女
252	中国語文法研究 = Journal of Chinese grammar / 中国語文法研究会編集
253	朝鮮学報 / 朝鮮學會 [編集]
254	テアトロ : 総合演劇雑誌

タイトル等	
255	東欧史研究 / 東欧史研究会 [編]
256	東西交渉
257	当代語学 = Contemporary linguistics
258	東南アジア : 歴史と文化 / 東南アジア史学会 [編] = Southeast Asia : history and culture / Japan Society for Southeast Asian History
259	東南アジア研究 / 京都大学東南アジア研究センター [編]
260	読者 = Readers
261	読書
262	内蒙古統計年鑑 / 内蒙古自治区統計局編
263	日中言語研究と日本語教育 = Journal of Japanese and Chinese Linguistics and Japanese Language Teaching
264	日中言語対照研究論集 / 日中言語対照研究会 [編]
265	日本中東学会年報 = Annals of Japan Association for Middle East Studies / 日本中東学会
266	日本語教育 / 日本語教育学会 [編]
267	日本語教育研究 / 言語文化研究所 [編]
268	日本語教育ジャーナル = The Japanese education journal
269	日本語学 / 明治書院 [編]
270	博物館研究 / 日本博物館協会
271	博物館学雑誌 / 全日本博物館学会 [編]
272	博覧群書
273	埴輪研究会誌 / 埴輪研究会 [編]
274	悲劇喜劇
275	美術史論叢 / 東京大学文学部美術史研究室
276	フォーリン・アフェアーズ = Foreign affairs
277	フォーリン・アフェアーズレポート = Foreign affairs report
278	婦人文藝
279	文化財発掘出土情報 : 歴史・考古の情報誌
280	北京統計年鑑 / 北京市統計局編
281	別冊ジュリスト
282	マス・コミュニケーション研究 / 日本マス・コミュニケーション学会
283	みずほ / 大和弥生文化の会 [編]
284	緑の杖 : ゼリョーナヤ・パーロチカ : 日本トルストイ協会報
285	南アジア研究 : JJASAS / 日本南アジア学会 [編集]
286	ユネスコ世界遺産年報 = The yearbook of the world heritage / 日本ユネスコ協会連盟 [編集]
287	ロシア研究 = Russian studies / ロシア研究センター幹事会
288	ロシア史研究 / ロシア史研究会
289	考古廣場 / 釜山考古學研究會 [編]
290	考古美術 / 韓國美術史學會 [編]

国際学部 実習施設一覧(留学受入先および海外インターンシップ受入先)

No	実習施設名	国	所在地	受入人数	種別	該当学科 (*1)	備考
1	カリフォルニア大学バークレー校 University of California, Berkeley	米国	1995 University Avenue, Suite 130, Berkeley, CA94704-7026	受入語学基準を 満たす限り上限なし (70名程度を想定)	留学・海外研修	GS	留学提携校
2	ワイカト大学 The University of Waikato	ニュージーランド	Private Bag 3105, Hamilton 3240	30名	留学・海外研修	GS	留学提携校
3	ディーキン大学 Deakin University	オーストラリア	Melbourne Burwood Campus, 221 Burwood Highway, Burwood, VIC 3125	20名	留学・海外研修	GS	留学提携校
4	カリフォルニア州立大学フラトン校 California State University, Fullerton	米国	800 N State College Blvd, Fullerton, CA 92831	30名	留学・海外研修	GS	留学提携校
5	モナッシュ大学 Monash University	オーストラリア	Building 73, Wellington Road Monash University Clayton VIC 3800	30名	留学・海外研修	GS	留学提携校兼「インターンシ ップ・アブロード」における海外イ ンターンシップ受入先
6	Ryukoku University Berkeley Center	米国	2410 Durant Avenue, suite 228, Berkeley, CA 94704	半年派遣:年60名 短期派遣:年60名	留学・海外研修	IC	自大学の海外拠点を利用す る独自留学プログラム
7	ランガラ・カレッジ Langara College	カナダ	100 West 49th Avenue Vancouver, BC V5Y 2Z6	年2名	留学・海外研修	IC/GS	交換留学協定校
8	国立台湾師範大学 National Taiwan Normal University	(台湾)	106 台湾 Taipei City, Daan District, 和平 東路一段162號	年2名	留学・海外研修	IC/GS	交換留学協定校
9	アサンブション大学 Assumption University	タイ	Suvarnabhumi Campus Bang Na-Trad Km. 26 Bangsaothong Samuthprakarn	年2名	留学・海外研修	IC/GS	交換留学協定校
10	上海師範大学 Shanghai Normal University	中国	中国上海市桂林路100号	年2名	留学・海外研修	IC/GS	交換留学協定校
11	中国人民大学 Renmin University of China	中国	北京市海淀区海淀路175号	年3名	留学・海外研修	IC/GS	交換留学協定校
12	大連外国語大学 漢学院 School of Dalian University of Foreign Language	中国	遼寧省大連旅順南路西段6号	年3名	留学・海外研修	IC/GS	交換留学協定校
13	同済大学 Tongji University	中国	中国上海市四平路94号	年1名	留学・海外研修	IC/GS	交換留学協定校
14	復旦大学 Fudan University	中国	上海市政通路280号	年1名	留学・海外研修	IC/GS	交換留学協定校
15	東海大学 Tunghai University	(台湾)	No.1727, Sec.4, Taiwan Boulevard, Xitun District, Taichung 40704, Taiwan R.O.C.	年2名	留学・海外研修	IC/GS	交換留学協定校
16	東国大学 Dongguk University	韓国	30, Pil-Dong-ro, Jung-ku Seoul 100-715 Korea(ナウルキャンパス) 707, Seokjang-Dong, Gyeong Ju, Gyeongsangbuk-Do 780-714 Korea(キョンジュ キャンパス)	年3名	留学・海外研修	IC/GS	交換留学協定校
17	東亜大学 Dong-A University	韓国	#840, Hadan 2-dong, Saha-gu, Busan, Korea(スナハクキャンパス)	年2名	留学・海外研修	IC/GS	交換留学協定校
18	チュラロンコン大学 Chulalongkorn University	タイ	Chamchuri 4 Building, 4th Floor Phayathai Road, Pathumwan Bangkok 10330, Thailand	年2名	留学・海外研修	IC/GS	交換留学協定校
19	カリフォルニア州立大学ノースリッジ校 California State University Northridge	米国	18111 Nordhoff Street, Northridge CA 91330-8247, U. S. A.	年2名	留学・海外研修	IC/GS	交換留学協定校
20	南ミズーリ州立大学 Missouri Southern State University	米国	3950 Newman Road Joplin, MO 64801- 1595 U. S. A.	年12名	留学・海外研修	IC/GS	交換留学協定校
21	東テネシー州立大学 East Tennessee State University	米国	122 Yoakley Hall, PO Box 70668 Johnson City, TN 37604 U. S. A.	年5名	留学・海外研修	IC/GS	交換留学協定校
22	米国仏教大学院 The Institute of Buddhist Studies	米国	2140 Durant Avenue, Berkeley, CA 94704-1598, U. S.A.	年2名	留学・海外研修	IC/GS	交換留学協定校
23	カリフォルニア大学デービス校 University of California, Davis	米国	1050 Kemper Hall, Davis, California U. S.A. 95616	年4名	留学・海外研修	IC/GS	交換留学協定校
24	アリゾナ州立大学 Arizona State University	米国	Tempe Center, Suite 150 951 South Mill Avenue Tempe, AZ 85287- 4311, U. S. A.	年3名	留学・海外研修	IC/GS	交換留学協定校
25	ハワイ大学マノア校 University of Hawai'i at Manoa	米国	2600 Campus Road, QLC 206, Honolulu, HI 96822 U. S. A.	年3名	留学・海外研修	IC/GS	交換留学協定校

*1 IC:国際文化学科、GS:グローバルスタディーズ学科

No	実習施設名	国	所在地	受入人数	種別	該当学科 (*1)	備考
26	アイダホ大学 University of Idaho	米国	PO Box 441250 901 Paradise Creek Street, LLC #3 Moscow, Idaho 83844-1250 USA	年1名	留学・海外研修	IC/GS	交換留学協定校
27	マードック大学 Murdoch University	オーストラリア	South Street, Murdoch WA 6150, Australia	年5名	留学・海外研修	IC/GS	交換留学協定校
28	ロイヤル・メルボルン工科大学(RMIT) RMIT University	オーストラリア	124 La Trobe Street, Melbourne VIC 3000, Australia	年2名	留学・海外研修	IC/GS	交換留学協定校
29	セントラル・ランカシャー大学 University of Central Lancashire	英国	Preston, Lancashire, PR1 2HE U. K.	年4名	留学・海外研修	IC/GS	交換留学協定校
30	リバプール・ジョン・ムーアーズ大学 Liverpool John Moores University	英国	98 Mount Pleasant, Liverpool L3 5UZ U. K.	年3名	留学・海外研修	IC/GS	交換留学協定校
31	バルセロナ自治大学 Universitat Autònoma de Barcelona	スペイン	General Plaça Cívica 08193, Bellaterra, Barcelona, Spain	年3名	留学・海外研修	IC/GS	交換留学協定校
32	バレンシア大学 Universitat de València	スペイン	Avda. Blasco Ibañez 13, 46010 Valencia, Spain	年2名	留学・海外研修	IC/GS	交換留学協定校
33	リヨン第3大学 Université Jean Moulin - Lyon 3	フランス	6, cours Albert Thomas, 69008 Lyon, France	年3名	留学・海外研修	IC/GS	交換留学協定校
34	デュースブルグ・エッセン大学 University of Duisburg-Essen	ドイツ	Gebäude LE, Lotharstr 65, D-47048 Duisburg, Germany	年3名	留学・海外研修	IC/GS	交換留学協定校
35	オーフス大学 University of Aarhus	デンマーク	Høegh-Guldbergs Gade 4, DK-8000 Aarhus C, Denmark	年2名	留学・海外研修	IC/GS	交換留学協定校
36	リネウス大学 Linnaeus University	スウェーデン	SE-351 95 Växjö, Sweden	年3名	留学・海外研修	IC/GS	交換留学協定校
37	東フィンランド大学 University of Eastern Finland	フィンランド	P.O. Box 111, 80101 Joensuu, Finland(Joensuu Campus)	年4名	留学・海外研修	IC/GS	交換留学協定校
38	キエフ大学 Taras Shevchenko National University of Kyiv	ウクライナ	6 Volodymyrska Street, Kyiv 01030, Ukraine	年4名	留学・海外研修	IC/GS	交換留学協定校
39	モスクワ大学 アジア・アフリカ学院 M. V. Lomonosov Moscow State University, Institute of Asian and African studies	ロシア	9 Mokhovaya Street, Moscow 125009, Russia	年2名	留学・海外研修	IC/GS	交換留学協定校
40	ワルシャワ経済大学 Warsaw School of Economics	ポーランド	Al. Niepodległości 162, 02-554 Warsaw, Poland	年4名	留学・海外研修	IC/GS	交換留学協定校
41	クワンテン・ポリテクニク大学 Kwantlen Polytechnic University International Programs & Exchanges	カナダ	12666-72nd Ave, Surrey, BC, Canada, V3W 2M8	年2名	留学・海外研修	IC/GS	交換留学協定校
42	ヒューロン・ユニバーシティ・カレッジ Huron University College	カナダ	1349 Western Road, London, ON, Canada N6G 1H3	年2名	留学・海外研修	IC/GS	交換留学協定校
43	カルガリー大学 University of Calgary	カナダ	MSC 275, 2500 University Dr. NW, Calgary, Alberta T2N 1N4 Canada	年3名	留学・海外研修	IC/GS	交換留学協定校
44	キングス・ユニバーシティ・カレッジ King's University College at The University of Western Ontario	カナダ	266 Epworth Avenue, London Ontario, Canada N6A 2M3	年2名	留学・海外研修	IC/GS	交換留学協定校
45	コメンスキーク大学人文学部 Faculty of Philosophy Comenius University	スロバキア	Gondova 2, P.O.BOX 32, 814 99, Bratislava, Slovakia	年2名	留学・海外研修	IC/GS	交換留学協定校
46	ユニバーシティ・カレッジ・コーク University College Cork	アイルランド	Western Road, Cork, Ireland	年2名	留学・海外研修	IC/GS	交換留学協定校
47	ハノイ大学 Hanoi University	ベトナム	Km 9, đường Nguyễn Trãi, quận Thanh Xuân, Hà Nội, Việt Nam	年2名	留学・海外研修	IC/GS	交換留学協定校
48	ベネズエラ・ラ・サクラ自治大学 Benemérita Universidad Autónoma de Puebla	メキシコ	4 sur 104 centro histórico C.P. 72000	年2名	留学・海外研修	IC/GS	交換留学協定校
49	クワズール・ナタール大学 University of KwaZulu-Natal	南アフリカ	4th floor, Rick Turner Student Union Building King George V Ave, Durban 4000, South Africa	年1名	留学・海外研修	IC/GS	交換留学協定校
50	ラジオ ネパール Radio Nepal	ネパール	G.P.O. Box. No. 634 Singha Durbar, Kathmandu, Nepal	年2名	海外 インターンシップ	GS	「インターンシップ・アブロード」における海外インターン シップ受入先

*1 IC:国際文化学科、GS:グローバルスタディーズ学科

No	実習施設名	国	所在地	受入人数	種別	該当学科 (*1)	備考
51	グレートフルデイズ株式会社 Grateful Days Inc.	ベトナム	43D/23 Hồ Văn Huê, quận Phú Nhuận, thành phố Hồ Chí Minh	年2名	海外 インターンシップ	GS	「インターンシップ・アブロード」における海外インターンシップ受入先
52	特定非営利活動法人アクセス	フィリピン	Patayas district, Quezon city Philippines	年1名	海外 インターンシップ	GS	「インターンシップ・アブロード」における海外インターンシップ受入先
53	Duang Prateep Foundation	タイ	Lock6, Art Narong Road, klong Toey Bangkok 10110	年2名	海外 インターンシップ	GS	「インターンシップ・アブロード」における海外インターンシップ受入先
54	Border Crossing Observatory	オーストラリア	Monash University, Clayton campus, Melbourne, Victoria	年2名	海外 インターンシップ	GS	「インターンシップ・アブロード」における海外インターンシップ受入先
55	ワイカト大学 The University of Waikato	ニュージーランド	Private Bag 3105, Hamilton 3240	年5名	海外 インターンシップ	GS	「インターンシップ・アブロード」における海外インターンシップ受入先

*1 IC:国際文化学科、GS:グローバルスタディーズ学科

UNIVERSITY OF CALIFORNIA
BERKELEY

OFFICE OF THE DEAN
SUMMER SESSIONS, STUDY ABROAD &
LIFELONG LEARNING

1995 University Avenue, Suite 130
Berkeley, CA 94704-7026
510 642-5611 tel, 510 642-2877 fax
summer.berkeley.edu
studyabroad.berkeley.edu
olli.berkeley.edu

LETTER OF INTENT

October 16, 2013

To Whom It May Concern,

The University of California, Berkeley, on behalf of its office of Summer Sessions, Study Abroad & Lifelong Learning (SSALL), intends to enter into a contractual agreement to accept those eligible students from Ryukoku University's newly planned Department of Global Studies (DGS).

The students will be able to enroll in all Summer Session courses, particularly in Sessions A, C and D, as these best coincide with your semester dates.

SSALL shall provide assistance with any documents relating to immigration formalities as well as assisting in securing accommodations in the International House or residence halls.

Students from the DGS will be eligible for early enrollment and we will inform you of these dates in advance.

Sincerely,

A handwritten signature in black ink, appearing to read "Rick Russo", written over a horizontal line.

Rick Russo
Dean

Summer Sessions, Study Abroad & Lifelong Learning

Faculty of Education
Waikato Pathways College
Te Huanui
The University of Waikato
Private Bag 3105
Hamilton 3240
New Zealand

Phone ++64 7 858 5600
Fax ++64 7 858 5694
www.waikato.ac.nz/pathways
www.facebook.com/WaikatoPathwaysCollege



THE UNIVERSITY OF
WAIKATO
Te Whare Wānanga o Waikato

14 November 2013

Dr Julian Chapple
Dean, International Centre
Ryukoku University
67 Tsukamoto-cho
Fushimi-ku, Kyoto 6128577
JAPAN

Dear Dr Chapple

We are pleased to confirm that Waikato Pathways College at University of Waikato, Hamilton, New Zealand, is willing and able to host up to thirty (30) students per year for intensive English language classes.

We understand the first cohort of these students will attend from the 2015/6 academic year, the timeframe yet to be decided. The programme will provide diverse opportunities for students to proactively develop, enhance and use their English, explore the city of Hamilton and the region, and learn more about New Zealand culture and society. Precise dates for these periods of study each year will be available approximately four months in advance on the Waikato Pathways College website.

The Ryukoku students will enrol in up to 20 weeks of full time English language study offered under our General English / Academic English programmes. The students will be tested on or prior to their arrival and placed in the appropriate class specific to their individual language learning competency and to maximise their English language learning experiences. The students will be subject to the College's admission requirements and enrolment procedures and policies.

It will be a pleasure to host your students at Waikato Pathways College and we look forward to building a longstanding relationship with Ryukoku University over the coming years.

Yours sincerely

A handwritten signature in cursive script that reads "Chelsea Blickem".

Chelsea Blickem
Director, Waikato Pathways College
Hamilton, New Zealand



08 November 2013

Julian Chapple
Dean
Ryukoku International Center
Kyoto, Japan

Dear Professor Chapple,

I wish to confirm that Deakin University would be delighted to host students from Ryukoku University to undertake a one or two semester long English and University Study Abroad program here in Melbourne, Australia. We would be able to accommodate up to 20 students per semester on this exciting new initiative.

Deakin regards our relationship with Ryukoku University very highly and we are looking forward to welcoming your students to study in Melbourne in the future. Please let me know if there is any additional information or assistance you require prior to confirming the numbers of students coming to Deakin University

Deakin University and look forward to assisting you in the success of this great new program.

Yours Sincerely,

A handwritten signature in black ink, appearing to read "Ben Stubbs".

Ben Stubbs
Director
Deakin University English Language Institute
Deakin University



CALIFORNIA STATE UNIVERSITY, FULLERTON

Academic Affairs

Office of the Associate Vice President, International Programs, UH-244

800 N. State College Blvd., Fullerton, CA 92831 / T 657-278-3400 / F 657-278-1111

April 21, 2014

To Whom It May Concern,

California State University, Fullerton, on behalf of its University Extended Education and International Programs intends to enter in to a contractual agreement to accept those eligible students from Ryukoku University's newly planned Department of Global Studies (DGS).

The students will be able to enroll in all Fall semester university courses as University Study Abroad (USA) students at California State University, Fullerton.

International Gateway Programs (IGP) shall provide assistance with any documents relating to immigration formalities as well as assisting in securing accommodations in University Housing or resident halls. IGP will also assist DGS students in the enrollment process to assure that students will be able to participate in classes which help achieve their goals as DGS students at Ryukoku University.

Sincerely,

Harry L. Norman

Associate Vice President for International Programs

Dean, University Extended Education

THE CALIFORNIA STATE UNIVERSITY

Bakersfield / Channel Islands / Chico / Dominguez Hills / East Bay / Fresno / Fullerton / Humboldt / Long Beach / Los Angeles / Maritime Academy
Monterey Bay / Northridge / Pomona / Sacramento / San Bernardino / San Diego / San Francisco / San Jose / San Luis Obispo / San Marcos / Sonoma / Stanislaus

Tuesday 3 June 2014

Re: Letter of Intent

To whom it may concern,

Monash College Pty Ltd, a not-for-profit and wholly owned subsidiary of Monash University, intends to enter into an agreement with Ryukoku University to deliver a Study Group program for students from Ryukoku University's newly established Faculty of Intercultural Communication.

It is our understanding that Ryukoku University is planning to start the new Study Group program in 2015 and it will include English language training plus internship, and the group size is likely to be around 20-30 students. Program terms and conditions are to be confirmed in a separate program proposal document.

Monash College has proven expertise in delivering tailored study programs for international student cohorts and we look forward to welcoming Ryukoku University students.

Sincerely,



Cynthia Kralik
Director
Monash University English Language Centre

◆ グローバルスタディーズ学科「履修モデルA -2年次転入学生パターン-」＜「グローバルゼーション」「コミュニケーション」「エシックス」の各領域を幅広く学ぶモデル＞

〔卒業後の進路〕 グローバルに展開する企業、企業の国際部門、中学校・高等学校教員（英語科）、海外における日本語教員、国内外の大学院への進学など

科目区分	1年次		2年次		3年次		4年次		修得 単位数
	第1semester	第2semester	第3semester	第4semester	第5semester	第6semester	第7semester	第8semester	
教養教育科目									0
専攻科目	学科外国語科目		Study Abroad Preparation I ＜必修＞	2	Career English	2			10
			Study Abroad Preparation II ＜必修＞	2					
			Business English through TOEIC(Basic A)	2					
			Business English through TOEIC(Basic B)	2					
	学科基礎科目								0
	学科専攻科目		会話分析入門A	2	通訳・翻訳研究A	2	通訳・翻訳研究B	2	48
			異文化間コミュニケーション論	2	国際人権論	2	English for Global Studies	2	
			国際関係入門	2	Globalization of Education	2	多国籍企業論	2	
			Introduction to Sociolinguistics	2	国際政治経済学	2	国際開発協力論	2	
					ナショナリズム研究	2	グローバル市民社会論	2	
					Advanced Writing Strategies	2	グローバル化とキャリア形成	2	
					グローバルゼーションとアフリカ	2	言語教育政策論	2	
						2	政治思想概論	2	
			プロジェクト演習 ＜必修＞	2	演習 I ＜必修＞	2	演習 II ＜必修＞	2	
							演習 III ＜必修＞	2	
演習								演習 IV ＜必修＞	2
								卒業論文	4
留学				留学読替認定	20				22
				SNSを活用した異文化交流実践	2				
修得単位数			18	22	18	18	8	10	94

出身大学・短期大学・高等専門学校における単位修得状況を精査の上、42単位(教養教育科目4単位、学科外国語科目12単位、学科基礎科目14単位、フリーゾーン12単位)を超えない範囲で認定する。

◆ 国際文化学科 芸術・メディアコース「履修モデル」 <編転入学生パターン>

〔卒業後の進路〕 一般企業や団体等、その業務を通じて芸術・文化に携わる業界や職種。一般企業のメセナ活動担当者、博物館学芸員、マスメディア、情報通信、コンテンツ産業、日本文化の紹介と深く関わる旅行業など。また中学校・高等学校教員（英語科）、浄土真宗本願寺派開教使、大学院進学など。

科目区分		1年次			2年次			3年次			4年次			修得 単位数			
		第1セメスター		第2セメスター	第3セメスター		第4セメスター	第5セメスター		第6セメスター	第7セメスター		第8セメスター				
教養教育科目														0			
専攻科目	学科外国語科目													0			
	学科基礎科目	出身大学・短期大学・高等専門学校における単位修得状況を精査の上、62単位(教養教育科目18単位、学科外国語科目20単位、学科基礎科目12単位、学科専攻科目12単位)を超えない範囲で認定する。						大衆文化入門	2	物語と文学	2				4		
	学科専攻科目							映像文化論D	2	映像文化論B	2	映像文化論C	2	大衆文化論E	2		
								大衆文化論B	2	大衆文化論C	2	Advanced English A	2	Advanced English C	2		
								実践フランス語C	2	メディア文化論C	2						
								メディア文化論B	2	実践フランス語A	2						
								芸術表現法C	2	芸術表現法D	2						
								日本の美術	2	西洋の美術	2						
							イスラームの文化A	2	音楽芸術論	2							
							グローバル時代のキャリア設計	2	観光文化論	2							
演習								演習Ⅰ＜必修＞	2	演習Ⅱ＜必修＞	2	演習Ⅲ＜必修＞	2	演習Ⅳ＜必修＞	2		
													卒業論文	6			
国際文化実践プログラム								国際文化実践プログラムⅠ＜必修＞	2	国際文化実践プログラムⅡE＜必修＞	2				4		
修得単位数								22			22			6	12	62	

出身大学・短期大学・高等専門学校における単位修得状況を精査の上、62単位(教養教育科目18単位、学科外国語科目20単位、学科基礎科目12単位、学科専攻科目12単位)を超えない範囲で認定する。

◆ グローバルスタディーズ学科「履修モデルB -2年次転入学生パターン-」＜英語で開講される科目を重視して学ぶモデル＞

〔卒業後の進路〕 グローバル企業、国際NGO/NPO団体、翻訳・通訳者、国際機関職員、中学校・高等学校教員（英語科）、国内外の大学院への進学など

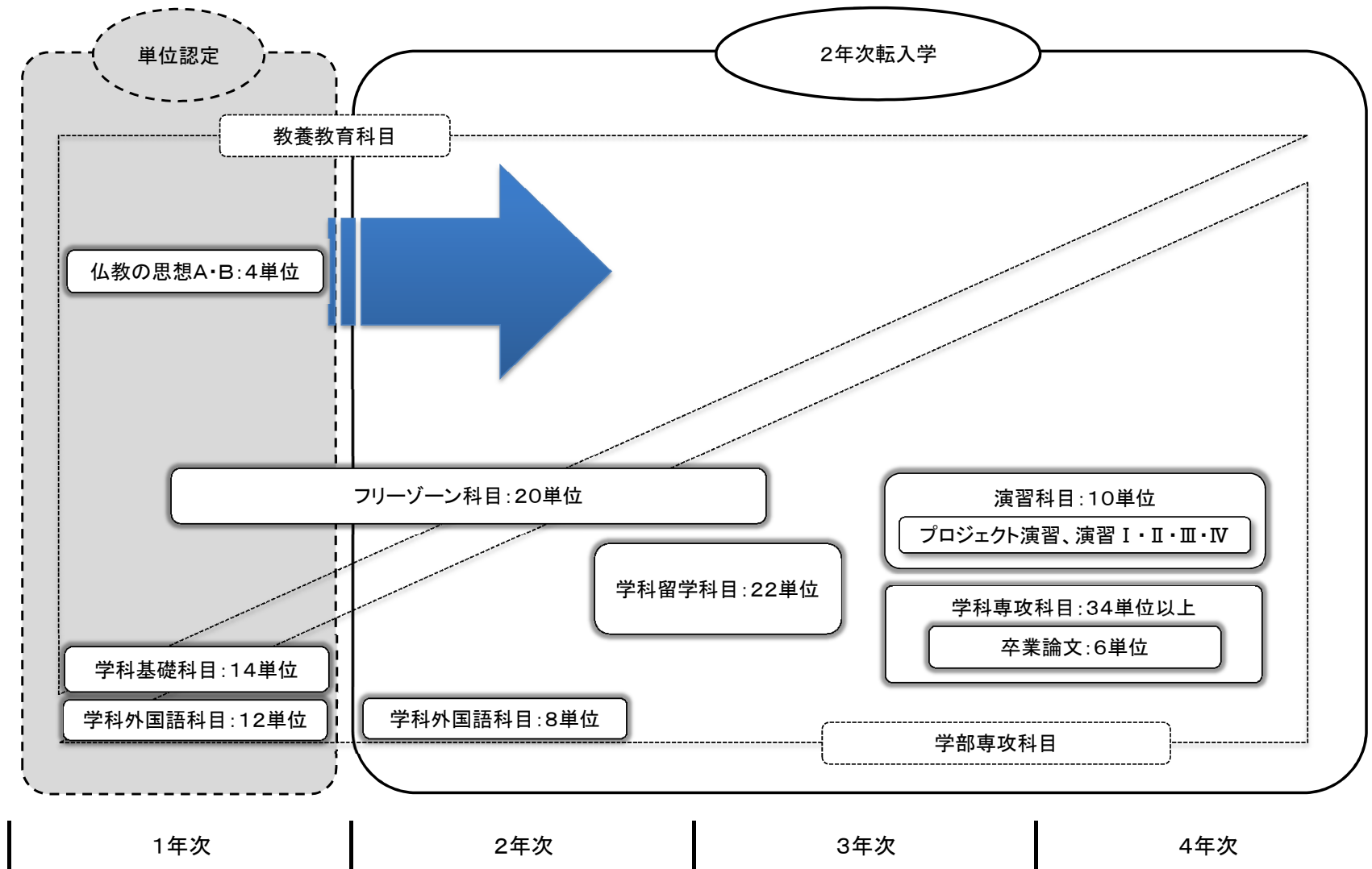
科目区分		1年次		2年次		3年次		4年次		修得 単位数						
		第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター							
教養教育科目										0						
専攻科目	学科外国語科目			Study Abroad Preparation I <必修>	2	Career English	2			10						
				Study Abroad Preparation II <必修>	2											
				Business English through TOEIC(Basic A)	2											
				Business English through TOEIC(Basic B)	2											
	学科基礎科目	出身大学・短期大学・高等専門学校における単位修得状況を精査の上、42単位(教養教育科目4単位、学科外国語科目12単位、学科基礎科目14単位、フリーゾーン12単位)を超えない範囲で認定する。									0					
	学科専攻科目			Contemporary Literature	2	通訳・翻訳研究A	2	通訳・翻訳研究B	2	Applied Global Studies	2	Postcolonialism	2	48		
				会話分析入門A	2		Critical Reading	2	English for Global Studies	2	グローバル化とエシックス	2	Sustainability Studies		2	
				Discussion & Debate	2		Globalization of Education	2	多国籍企業論	2	グローバル化とアフリカ	2				
				Introduction to Sociolinguistics	2		安全保障論	2	グローバル市民社会論	2						
							ナショナリズム研究	2	グローバル化とキャリア形成	2						
							Advanced Writing Strategies	2	Global Englishes and Communication	2						
							グローバル化と南アジア	2	グローバル化とヨーロッパ	2						
								Introduction to Cultural Anthropology	2							
		演習			プロジェクト演習 <必修>	2	演習Ⅰ <必修>	2	演習Ⅱ <必修>	2	演習Ⅲ <必修>	2	演習Ⅳ <必修>		2	14
													卒業論文		4	
	留学				留学読替認定	20							22			
					SNSを活用した異文化交流実践	2										
	修得単位数				18	22	18	18	8	10	94					

■2年次転入学生の既修得単位読替表 (グローバルスタディーズ学科)

科目区分			卒業要件 単位数	認定単位数 (上限)	【転入学生】 必要単位数
教養教育科目		必修 仏教の思想A・B	4	4	0
専攻科目	学科外国語科目	必修 英語 (Reading) I・II、 英語 (Writing) I・II、 英語 (Oral Communication) I・II、 Study Abroad Preparation I・II	20	12	8
	学科基礎科目	必修 リサーチ方法論A・B、 ITリテラシーA・B、 グローバルスタディーズA・B・C	14	14	0
	学科専攻科目	必修 プロジェクト演習、演習 I・II・III・IV	10	0	10
		選択	34	0	34
	留学認定科目	必修	22	0	22
	フリーゾーン	選択	20	12	8
合 計			124	42	82

※ 出身大学・短期大学・高等専門学校における単位修得状況を精査の上、科目区分毎に上記「認定単位数」を上限(合計42単位上限)として単位認定をおこなう。

グローバルスタディーズ学科における2年次転入学生の単位認定とカリキュラムの相關図



◆ 国際文化学科 多文化共生コース「履修モデル」 ＜編転入学生パターン＞

〔卒業後の進路〕 宗教を含む多文化環境の中で国際的に活躍できる業界・職種。観光業、商社、製造業など顧客や構成員が多様な文化的背景を持つ企業、地方自治体の多文化共生施策担当者など。また中学校・高等学校教員（英語科）、浄土真宗本願寺派開教使、大学院進学など。

科目区分		1年次		2年次		3年次		4年次		修得 単位数
		第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター	
教養教育科目										0
専攻科目	学科外国語科目									0
	学科基礎科目					宗教学概論	2 多文化交流入門	2		4
	学科専攻科目					イスラームの文化A	2 多文化交流論B	2 比較宗教思想	2 グローバリゼーションとヨーロッパ	2
						世界の宗教と日本	2 自然と文化	2 キリスト教の文化A	2 都市計画論	2
						イスラームの社会A	2 イスラームの文化B	2		
						環境人類学	2 Exploring Cultures	2		
						ベルシア語セミナーⅠ	4 多文化共生と宗教	2		
						国際人口移動	2 ベルシア語セミナーⅡ	4		
						NGO/NPO論	2 英語外書講読B	2		
	演習					演習Ⅰ＜必修＞	2 演習Ⅱ＜必修＞	2 演習Ⅲ＜必修＞	2 演習Ⅳ＜必修＞	2
									卒業論文	6
国際文化実践プログラム						国際文化実践プログラムⅠ＜必修＞	2 国際文化実践プログラムⅡⅠⅡ＜必修＞	2		4
修得単位数						22	22	6	12	62

出身大学・短期大学・高等専門学校における単位修得状況を精査の上、62単位(教養教育科目18単位、学科外国語科目20単位、学科基礎科目12単位、学科専攻科目12単位)を超えない範囲で認定する。

◆ 国際文化学科 世界と日本コース「履修モデル」 <編転入学生パターン>

〔卒業後の進路〕 世界に日本文化を発信する業界・職種。旅行会社を含む観光業、海外における日本語教員、通訳・翻訳者、アジアに進出している各種製造業のほか、中学校・高等学校教員（英語科）、博物館学芸員など。また浄土真宗本願寺派開教使、大学院進学など。

科目区分		1年次		2年次		3年次		4年次		修得 単位数
		第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター	
教養教育科目										0
専攻科目	学科外国語科目									0
	学科基礎科目					文化人類学入門	2 現代経済と文化	2		4
	学科専攻科目					アジアの仏教文化	2 京ことばと京文化	2 国際経済と日本	2 比較言語学	2
						日本の仏教文化	2 世界と日本の文学	2 日本語からみた歴史と文化	2 観光文化論	2
						実践中国語C	2 パンパシフィックの移民	2		
						中央アジアと日本	2 日本の思想	2		
						日本の社会	2 観光経営論	2		
						日本の言語文化	2 多文化共生と宗教	2		
						大衆文化論B	2 実践中国語A	2		
						メディア文化論D	2 Comparative Culture	2		
	演習					演習Ⅰ<必修>	2 演習Ⅱ<必修>	2 演習Ⅲ<必修>	2 演習Ⅳ<必修>	2
	国際文化実践プログラム					国際文化実践プログラムⅠ<必修>	2 国際文化実践プログラムⅡF<必修>	2		6
修得単位数						22	22	6	12	62

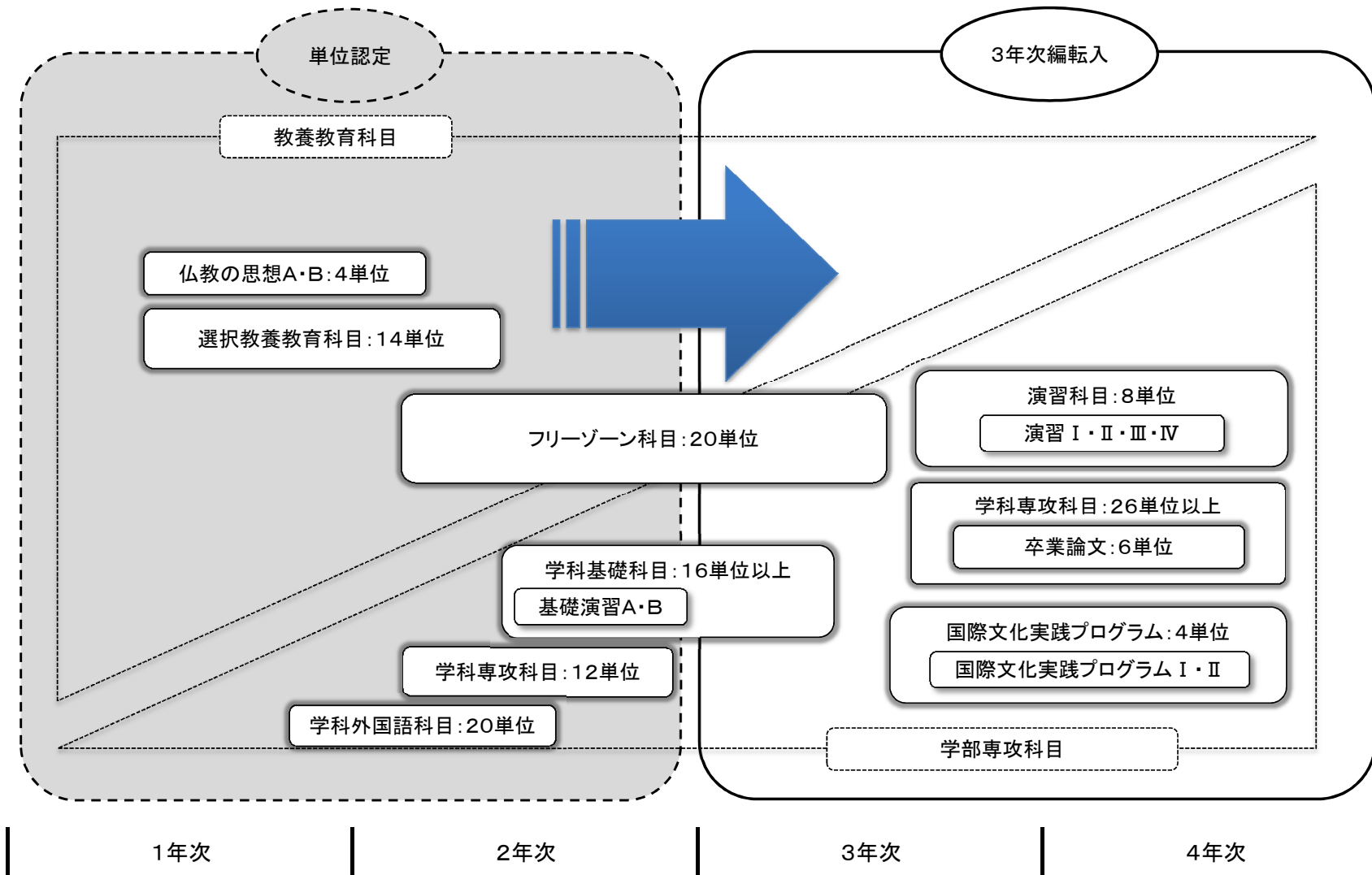
出身大学・短期大学・高等専門学校における単位修得状況を精査の上、62単位(教養教育科目18単位、学科外国語科目20単位、学科基礎科目12単位、学科専攻科目12単位)を超えない範囲で認定する。

■編転入学生の既修得単位読替表（国際文化学科）

科 目 区 分		卒業要件 単位数	認定単位数 (上限)	【編転入学生】 必要単位数	
教養 教育 科目	必修 仏教の思想A・B	4	4	0	
	選択	14	14	0	
専 攻 科 目	学科外国語科目	選択	20	20	0
	学科基礎科目	必修 基礎演習A・B	4	4	0
		選択	12	8	4
	学科専攻科目	必修 演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	8	0	8
		選択	38	12	26
	国際文化実践プログラム	必修 国際文化実践プログラムⅠ・Ⅱ	4	0	4
	フリーゾーン	選択	20	0	20
合 計		124	62	62	

※ 出身大学・短期大学・高等専門学校における単位修得状況を精査の上、科目区分毎に上記「認定単位数」を上限(合計62単位上限)として単位認定をおこなう。

国際文化学科における編転入学生の単位認定とカリキュラムの相関図



◆ グローバルスタディーズ学科「履修モデルA -3年次編入学生パターン-」＜「グローバルゼーション」「コミュニケーション」「エシックス」の各領域を幅広く学ぶモデル＞

〔卒業後の進路〕 グローバルに展開する企業、企業の国際部門、中学校・高等学校教員（英語科）、海外における日本語教員、国内外の大学院への進学など

科目区分		1年次		2年次		3年次		4年次		修得 単位数				
		第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター					
教養教育科目										0				
学科外国語科目						Career English	2			2				
学科基礎科目										0				
専攻科目	学科専攻科目	出身大学・短期大学・高等専門学校における単位修得状況を精査の上、62単位(教養教育科目4単位、学科外国語科目20単位、学科基礎科目14単位、演習科目2単位、学科留学科目22単位)を超えない範囲で認定する。				会話分析入門A	2	通訳・翻訳研究B	2	Applied Global Studies	2	Postcolonialism	2	48
						通訳・翻訳研究A	2	Advanced Writing Strategies	2	グローバルゼーションとエシックス	2	Sustainability Studies	2	
						異文化間コミュニケーション論	2	English for Global Studies	2	Discussion & Debate	2			
						国際関係入門	2	多国籍企業論	2	グローバルゼーションとアフリカ	2			
						国際人権論	2	国際開発協力論	2	グローバルゼーションとラテンアメリカ	2			
						Globalization of Education	2	グローバル市民社会論	2					
						国際政治経済学	2	グローバル化とキャリア形成	2					
						ナショナリズム研究	2	言語教育政策論	2					
								政治思想概論	2					
						演習					演習Ⅰ ＜必修＞	2	演習Ⅱ ＜必修＞	
									卒業論文	4				
留学													0	
修得単位数						20		20		12		10	62	

◆ グローバルスタディーズ学科「履修モデルB -3年次編入学生パターン-」＜英語で開講される科目を重視して学ぶモデル＞

〔卒業後の進路〕 グローバル企業、国際NGO/NPO団体、翻訳・通訳者、国際機関職員、中学校・高等学校教員（英語科）、国内外の大学院への進学など

科目区分		1年次		2年次		3年次		4年次		修得 単位数	
		第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター		
教養教育科目										0	
専攻科目	学科外国語科目					Career English 2	Business English through TOEIC (Advanced B) 2			6	
						Business English through TOEIC (Advanced A) 2					
	学科基礎科目										0
	学科専攻科目						通訳・翻訳研究A 2	通訳・翻訳研究B 2	Advanced Writing Strategies 2	Postcolonialism 2	44
							Critical Reading 2	言語習得論 2	Discussion & Debate 2	グローバリゼーションと東アジア 2	
							English Workshop A 2	English Workshop C 2	Introduction to Sociolinguistics 2		
							English for Global Studies 2	グローバル市民社会論 2	Applied Global Studies 2		
							国際関係入門 2	グローバル化とキャリア形成 2	グローバリゼーションとアフリカ 2		
							Globalization of Education 2	Sustainability Studies 2			
							インターンシップ・アブロード I 2	Introduction to Cultural Anthropology 2			
								Global Englishes and Communication 2			
	演習						演習Ⅰ ＜必修＞ 2	演習Ⅱ ＜必修＞ 2	演習Ⅲ ＜必修＞ 2	演習Ⅳ ＜必修＞ 2	12
										卒業論文 4	
	留学										0
修得単位数						20	20	12	10	62	

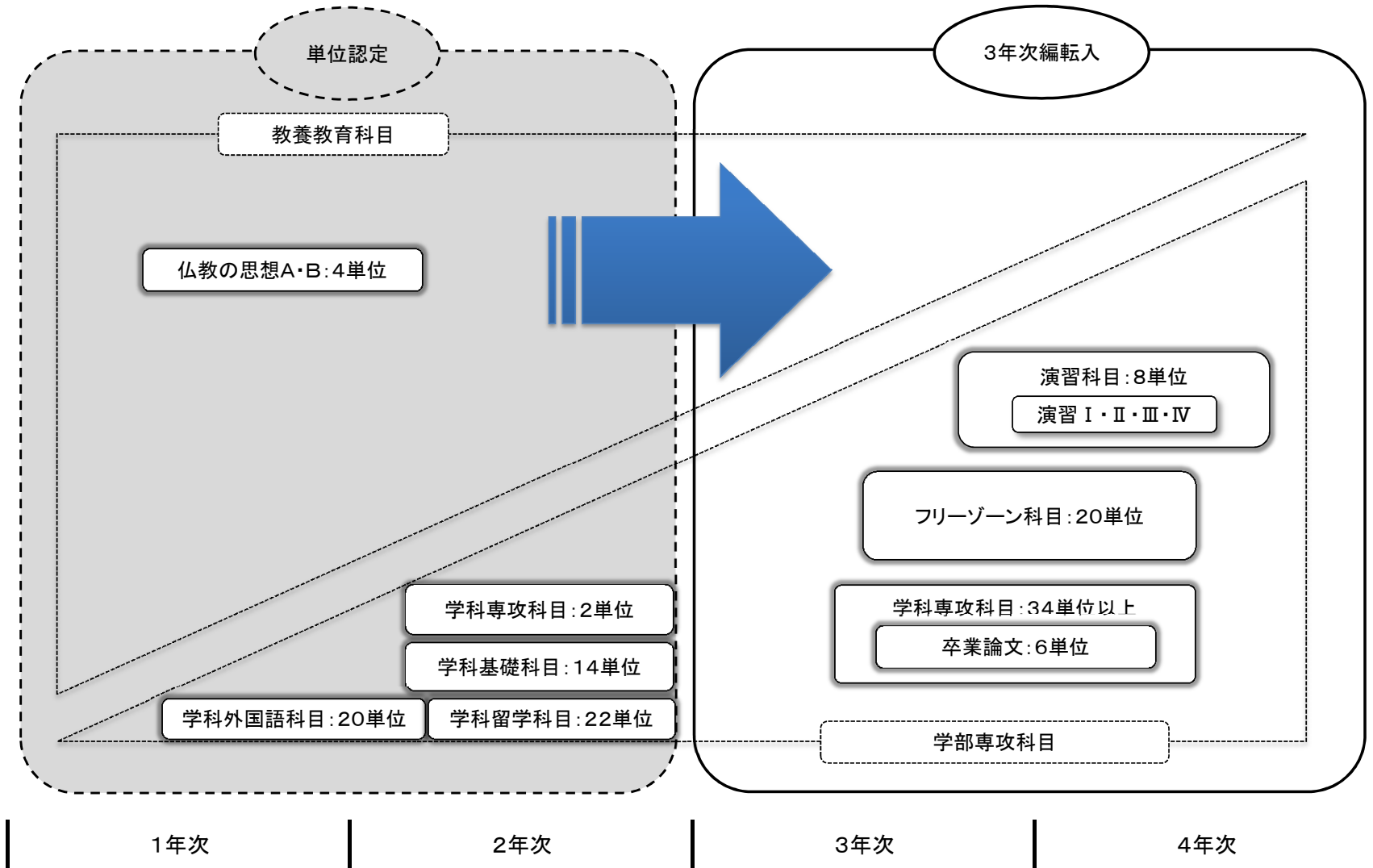
出身大学・短期大学・高等専門学校における単位修得状況を精査の上、62単位(教養教育科目4単位、学科外国語科目20単位、学科基礎科目14単位、演習科目2単位、学科留学科目22単位)を超えない範囲で認定する。

■編転入学生の既修得単位読替表 (グローバルスタディーズ学科)

科目区分			卒業要件 単位数	認定単位数 (上限)	【編転入学生】 必要単位数
教養教育科目		必修 仏教の思想A・B	4	4	0
専攻 科目	学科外国語科目	必修 英語 (Reading) I・II、 英語 (Writing) I・II、 英語 (Oral Communication) I・II、 Study Abroad Preparation I・II	20	20	0
	学科基礎科目	必修 リサーチ方法論A・B、 ITリテラシーA・B、 グローバルスタディーズA・B・C	14	14	0
	学科専攻科目	必修 プロジェクト演習、演習 I・II・III・IV	10	2	8
		選択	34	0	34
	留学認定科目	必修	22	22	0
	フリーゾーン	選択	20	0	20
合 計			124	62	62

※ 出身大学・短期大学・高等専門学校における単位修得状況を精査の上、科目区分毎に上記「認定単位数」を上限(合計62単位上限)として単位認定をおこなう。

グローバルスタディーズ学科における編転入学生の単位認定とカリキュラムの相関図





HOME > 就職支援

> 平成21年度 文部科学省「大学教育・学生支援推進事業【テーマB】学生支援推進プログラム」採択

平成21年度 文部科学省

「大学教育・学生支援推進事業【テーマB】学生支援推進プログラム」 採択

平成21年度 事業実施内容

平成21年8月 文部科学省に学生支援推進プログラムとして
採択されました。

▶ 概要はこちら

face to faceの面談体制を強化するため、新たにキャリアカウンセ ラー資格所有者を計3名配置

既存スタッフに加え、新たに3名のキャリアカウンセラーを
派遣措置し、より多くの学生との面談を実施できる体制を整
備しました。深草キャンパスに1名増員、瀬田キャンパスに2
名増員（日毎交代勤務 実施1名の増員）

このことから個別の面談体制が強化されたことに加え、個
人・集団模擬面接や、就職相談会などの学生ニーズに合わせた
多様な支援施策を実施することができました。

■ 主なセミナー

文学部生対象 就職相談会 2009年11月11日（水）

文系学部対象 就職相談会 2009年11月18日（水）

就活リスタートセミナー 2009年12月8日（火）

就活リスタートセミナー 2009年12月11日（金）

自己分析・面接対策ガイダンス 2010年1月13日（水）

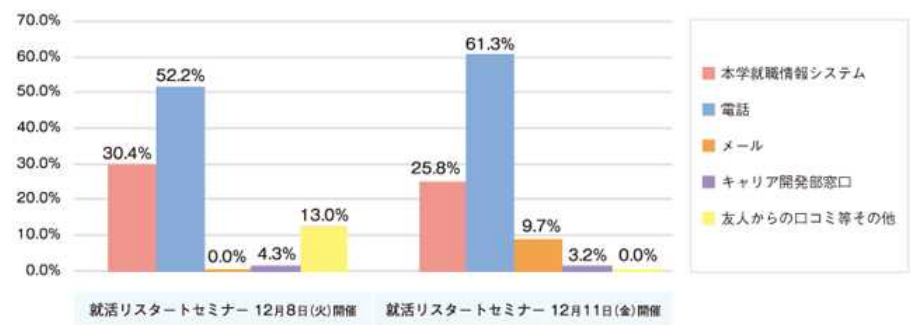
その他、グループでシスカッション対策・個人（集団）模
擬面接・窓口での個別相談を随時実施

卒業年次生に対する就職活動状況調査を実施

■ 9月～3月の間、定期的に調査

学生の就職活動状況調査については、実施回数や調査方法を
充実させ、教員と連携しゼミを通じた調査、ハガキ・メー
ル・電話による調査を9月以降に合計7回実施し、年間を通じ
た学生の進路決定に係わる活動の動向把握を行いました。
調査は、学生の企業選びの志向性や、現状の課題や不安と
いった個々の状況把握に努め 調査結果を活用し、進路未決定
の学生に電話連絡し相談窓口への誘導を行いました。
個々の状況を踏まえた電話による直接的なアプローチがイベ
ント参加への動機付けとしても大きな効果をもたらしまし
た。

■ 「就活リスタートセミナー（12月開催）」参加のきっかけを調査（参加学生に対するアンケート調査）



■ 求人開拓専属のスタッフを配置し、企業訪問や学内企業説明会への企業誘致を実施

9月～3月の間、継続して実施

求人開拓専属のスタッフによる年間を通じた企業訪問・求人開拓を実施し、採用活動を継続している企業の説明会を定期的に学内で開催することができました。

大阪梅田キャンパスを中心に9月～12月の間、28社の企業を学内企業説明会に誘致し、延べ289名の学生が参加しました。

大阪梅田キャンパス開催 学内企業説明会 一覧表

企業社数	開催月日	参加学生数
1	9/24（水）	4
2		3
3	10/14（水）	13
4		16
5		7
6	10/7（水）	5
7		14
8		11
9	10/13(火)	9
10	10/21（水）	27
11		9
12	10/23（金）	12
13		30
14		26
15	10/28(水)	4
16	11/9（木）	4
17		5
18		2
19	11/11(水)	4
20		15
21		9
22	11/18（水）	9
23		9
24	12/2（水）	13
25		11
26	12/3(木)	2
27	12/4（金）	5
28	12/22（火）	11

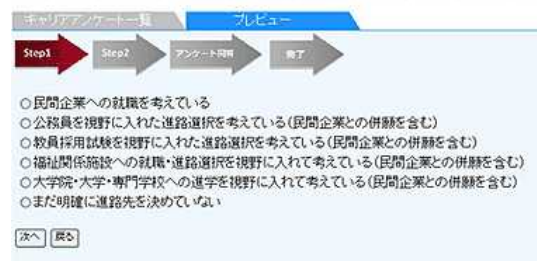
就活状況把握システムの構築

3月システム構築完了

就職活動の結果が開始する4月時の全卒業年次生のデータ（不安要素と選考通過状況（弱点・課題）、応募企業状況（企業選びの志向性））を瞬時に集積するために稼働実績のあるWeb履修登録（全学生対応）と連動した「就活状況把握システム」を構築しました。

現行の就職情報システムに次の2機能を追加構築しました。

Webアンケート機能



キャリアアンケート機能 プレビュー

Step1 Step2 アンケート回答 完了

○ 民間企業への就職を考えている
○ 公務員を視野に入れた進路選択を考えている（民間企業との併願を含む）
○ 教員採用試験を視野に入れた進路選択を考えている（民間企業との併願を含む）
○ 福祉関係施設への就職・進路選択を視野に入れて考えている（民間企業との併願を含む）
○ 大学院・大学・専門学校への進学を視野に入れて考えている（民間企業との併願を含む）
○ まだ明確に進路先を決めていない

次へ 戻る

学生応対履歴管理機能



画面上部のタブ: カウセリング記録 履歴管理 学生エントリー情報 メール送信

検索条件:

応対者名: 氏名 姓 名

応対日時: 2010 年 3 月 15 日 15:00 15:30 16:00 16:30 17:00 17:30 18:00 18:30 19:00 19:30 20:00 20:30 21:00 21:30 22:00 22:30 23:00 23:30 24:00 24:30 25:00 25:30 26:00 26:30 27:00 27:30 28:00 28:30 29:00 29:30 30:00 30:30 31:00 31:30 32:00 32:30 33:00 33:30 34:00 34:30 35:00 35:30 36:00 36:30 37:00 37:30 38:00 38:30 39:00 39:30 40:00 40:30 41:00 41:30 42:00 42:30 43:00 43:30 44:00 44:30 45:00 45:30 46:00 46:30 47:00 47:30 48:00 48:30 49:00 49:30 50:00 50:30 51:00 51:30 52:00 52:30 53:00 53:30 54:00 54:30 55:00 55:30 56:00 56:30 57:00 57:30 58:00 58:30 59:00 59:30 60:00 60:30 61:00 61:30 62:00 62:30 63:00 63:30 64:00 64:30 65:00 65:30 66:00 66:30 67:00 67:30 68:00 68:30 69:00 69:30 70:00 70:30 71:00 71:30 72:00 72:30 73:00 73:30 74:00 74:30 75:00 75:30 76:00 76:30 77:00 77:30 78:00 78:30 79:00 79:30 80:00 80:30 81:00 81:30 82:00 82:30 83:00 83:30 84:00 84:30 85:00 85:30 86:00 86:30 87:00 87:30 88:00 88:30 89:00 89:30 90:00 90:30 91:00 91:30 92:00 92:30 93:00 93:30 94:00 94:30 95:00 95:30 96:00 96:30 97:00 97:30 98:00 98:30 99:00 99:30 100:00 100:30 101:00 101:30 102:00 102:30 103:00 103:30 104:00 104:30 105:00 105:30 106:00 106:30 107:00 107:30 108:00 108:30 109:00 109:30 110:00 110:30 111:00 111:30 112:00 112:30 113:00 113:30 114:00 114:30 115:00 115:30 116:00 116:30 117:00 117:30 118:00 118:30 119:00 119:30 120:00 120:30 121:00 121:30 122:00 122:30 123:00 123:30 124:00 124:30 125:00 125:30 126:00 126:30 127:00 127:30 128:00 128:30 129:00 129:30 130:00 130:30 131:00 131:30 132:00 132:30 133:00 133:30 134:00 134:30 135:00 135:30 136:00 136:30 137:00 137:30 138:00 138:30 139:00 139:30 140:00 140:30 141:00 141:30 142:00 142:30 143:00 143:30 144:00 144:30 145:00 145:30 146:00 146:30 147:00 147:30 148:00 148:30 149:00 149:30 150:00 150:30 151:00 151:30 152:00 152:30 153:00 153:30 154:00 154:30 155:00 155:30 156:00 156:30 157:00 157:30 158:00 158:30 159:00 159:30 160:00 160:30 161:00 161:30 162:00 162:30 163:00 163:30 164:00 164:30 165:00 165:30 166:00 166:30 167:00 167:30 168:00 168:30 169:00 169:30 170:00 170:30 171:00 171:30 172:00 172:30 173:00 173:30 174:00 174:30 175:00 175:30 176:00 176:30 177:00 177:30 178:00 178:30 179:00 179:30 180:00 180:30 181:00 181:30 182:00 182:30 183:00 183:30 184:00 184:30 185:00 185:30 186:00 186:30 187:00 187:30 188:00 188:30 189:00 189:30 190:00 190:30 191:00 191:30 192:00 192:30 193:00 193:30 194:00 194:30 195:00 195:30 196:00 196:30 197:00 197:30 198:00 198:30 199:00 199:30 200:00 200:30 201:00 201:30 202:00 202:30 203:00 203:30 204:00 204:30 205:00 205:30 206:00 206:30 207:00 207:30 208:00 208:30 209:00 209:30 210:00 210:30 211:00 211:30 212:00 212:30 213:00 213:30 214:00 214:30 215:00 215:30 216:00 216:30 217:00 217:30 218:00 218:30 219:00 219:30 220:00 220:30 221:00 221:30 222:00 222:30 223:00 223:30 224:00 224:30 225:00 225:30 226:00 226:30 227:00 227:30 228:00 228:30 229:00 229:30 230:00 230:30 231:00 231:30 232:00 232:30 233:00 233:30 234:00 234:30 235:00 235:30 236:00 236:30 237:00 237:30 238:00 238:30 239:00 239:30 240:00 240:30 241:00 241:30 242:00 242:30 243:00 243:30 244:00 244:30 245:00 245:30 246:00 246:30 247:00 247:30 248:00 248:30 249:00 249:30 250:00 250:30 251:00 251:30 252:00 252:30 253:00 253:30 254:00 254:30 255:00 255:30 256:00 256:30 257:00 257:30 258:00 258:30 259:00 259:30 260:00 260:30 261:00 261:30 262:00 262:30 263:00 263:30 264:00 264:30 265:00 265:30 266:00 266:30 267:00 267:30 268:00 268:30 269:00 269:30 270:00 270:30 271:00 271:30 272:00 272:30 273:00 273:30 274:00 274:30 275:00 275:30 276:00 276:30 277:00 277:30 278:00 278:30 279:00 279:30 280:00 280:30 281:00 281:30 282:00 282:30 283:00 283:30 284:00 284:30 285:00 285:30 286:00 286:30 287:00 287:30 288:00 288:30 289:00 289:30 290:00 290:30 291:00 291:30 292:00 292:30 293:00 293:30 294:00 294:30 295:00 295:30 296:00 296:30 297:00 297:30 298:00 298:30 299:00 299:30 300:00 300:30 301:00 301:30 302:00 302:30 303:00 303:30 304:00 304:30 305:00 305:30 306:00 306:30 307:00 307:30 308:00 308:30 309:00 309:30 310:00 310:30 311:00 311:30 312:00 312:30 313:00 313:30 314:00 314:30 315:00 315:30 316:00 316:30 317:00 317:30 318:00 318:30 319:00 319:30 320:00 320:30 321:00 321:30 322:00 322:30 323:00 323:30 324:00 324:30 325:00 325:30 326:00 326:30 327:00 327:30 328:00 328:30 329:00 329:30 330:00 330:30 331:00 331:30 332:00 332:30 333:00 333:30 334:00 334:30 335:00 335:30 336:00 336:30 337:00 337:30 338:00 338:30 339:00 339:30 340:00 340:30 341:00 341:30 342:00 342:30 343:00 343:30 344:00 344:30 345:00 345:30 346:00 346:30 347:00 347:30 348:00 348:30 349:00 349:30 350:00 350:30 351:00 351:30 352:00 352:30 353:00 353:30 354:00 354:30 355:00 355:30 356:00 356:30 357:00 357:30 358:00 358:30 359:00 359:30 360:00 360:30 361:00 361:30 362:00 362:30 363:00 363:30 364:00 364:30 365:00 365:30 366:00 366:30 367:00 367:30 368:00 368:30 369:00 369:30 370:00 370:30 371:00 371:30 372:00 372:30 373:00 373:30 374:00 374:30 375:00 375:30 376:00 376:30 377:00 377:30 378:00 378:30 379:00 379:30 380:00 380:30 381:00 381:30 382:00 382:30 383:00 383:30 384:00 384:30 385:00 385:30 386:00 386:30 387:00 387:30 388:00 388:30 389:00 389:30 390:00 390:30 391:00 391:30 392:00 392:30 393:00 393:30 394:00 394:30 395:00 395:30 396:00 396:30 397:00 397:30 398:00 398:30 399:00 399:30 400:00 400:30 401:00 401:30 402:00 402:30 403:00 403:30 404:00 404:30 405:00 405:30 406:00 406:30 407:00 407:30 408:00 408:30 409:00 409:30 410:00 410:30 411:00 411:30 412:00 412:30 413:00 413:30 414:00 414:30 415:00 415:30 416:00 416:30 417:00 417:30 418:00 418:30 419:00 419:30 420:00 420:30 421:00 421:30 422:00 422:30 423:00 423:30 424:00 424:30 425:00 425:30 426:00 426:30 427:00 427:30 428:00 428:30 429:00 429:30 430:00 430:30 431:00 431:30 432:00 432:30 433:00 433:30 434:00 434:30 435:00 435:30 436:00 436:30 437:00 437:30 438:00 438:30 439:00 439:30 440:00 440:30 441:00 441:30 442:00 442:30 443:00 443:30 444:00 444:30 445:00 445:30 446:00 446:30 447:00 447:30 448:00 448:30 449:00 449:30 450:00 450:30 451:00 451:30 452:00 452:30 453:00 453:30 454:00 454:30 455:00 455:30 456:00 456:30 457:00 457:30 458:00 458:30 459:00 459:30 460:00 460:30 461:00 461:30 462:00 462:30 463:00 463:30 464:00 464:30 465:00 465:30 466:00 466:30 467:00 467:30 468:00 468:30 469:00 469:30 470:00 470:30 471:00 471:30 472:00 472:30 473:00 473:30 474:00 474:30 475:00 475:30 476:00 476:30 477:00 477:30 478:00 478:30 479:00 479:30 480:00 480:30 481:00 481:30 482:00 482:30 483:00 483:30 484:00 484:30 485:00 485:30 486:00 486:30 487:00 487:30 488:00 488:30 489:00 489:30 490:00 490:30 491:00 491:30 492:00 492:30 493:00 493:30 494:00 494:30 495:00 495:30 496:00 496:30 497:00 497:30 498:00 498:30 499:00 499:30 500:00 500:30 501:00 501:30 502:00 502:30 503:00 503:30 504:00 504:30 505:00 505:30 506:00 506:30 507:00 507:30 508:00 508:30 509:00 509:30 510:00 510:30 511:00 511:30 512:00 512:30 513:00 513:30 514:00 514:30 515:00 515:30 516:00 516:30 517:00 517:30 518:00 518:30 519:00 519:30 520:00 520:30 521:00 521:30 522:00 522:30 523:00 523:30 524:00 524:30 525:00 525:30 526:00 526:30 527:00 527:30 528:00 528:30 529:00 529:30 530:00 530:30 531:00 531:30 532:00 532:30 533:00 533:30 534:00 534:30 535:00 535:30 536:00 536:30 537:00 537:30 538:00 538:30 539:00 539:30 540:00 540:30 541:00 541:30 542:00 542:30 543:00 543:30 544:00 544:30 545:00 545:30 546:00 546:30 547:00 547:30 548:00 548:30 549:00 549:30 550:00 550:30 551:00 551:30 552:00 552:30 553:00 553:30 554:00 554:30 555:00 555:30 556:00 556:30 557:00 557:30 558:00 558:30 559:00 559:30 560:00 560:30 561:00 561:30 562:00 562:30 563:00 563:30 564:00 564:30 565:00 565:30 566:00 566:30 567:00 567:30 568:00 568:30 569:00 569:30 570:00 570:30 571:00 571:30 572:00 572:30 573:00 573:30 574:00 574:30 575:00 575:30 576:00 576:30 577:00 577:30 578:00 578:30 579:00 579:30 580:00 580:30 581:00 581:30 582:00 582:30 583:00 583:30 584:00 584:30 585:00 585:30 586:00 586:30 587:00 587:30 588:00 588:30 589:00 589:30 590:00 590:30 591:00 591:30 592:00 592:30 593:00 593:30 594:00 594:30 595:00 595:30 596:00 596:30 597:00 597:30 598:00 598:30 599:00 599:30 600:00 600:30 601:00 601:30 602:00 602:30 603:00 603:30 604:00 604:30 605:00 605:30 606:00 606:30 607:00 607:30 608:00 608:30 609:00 609:30 610:00 610:30 611:00 611:30 612:00 612:30 613:00 613:30 614:00 614:30 615:00 615:30 616:00 616:30 617:00 617:30 618:00 618:30 619:00 619:30 620:00 620:30 621:00 621:30 622:00 622:30 623:00 623:30 624:00 624:30 625:00 625:30 626:00 626:30 627:00 627:30 628:00 628:30 629:00 629:30 630:00 630:30 631:00 631:30 632:00 632:30 633:00 633:30 634:00 634:30 635:00 635:30 636:00 636:30 637:00 637:30 638:00 638:30 639:00 639:30 640:00 640:30 641:00 641:30 642:00 642:30 643:00 643:30 644:00 644:30 645:00 645:30 646:00 646:30 647:00 647:30 648:00 648:30 649:00 649:30 650:00 650:30 651:00 651:30 652:00 652:30 653:00 653:30 654:00 654:30 655:00 655:30 656:00 656:30 657:00 657:30 658:00 658:30 659:00 659:30 660:00 660:30 661:00 661:30 662:00 662:30 663:00 663:30 664:00 664:30 665:00 665:30 666:00 666:30 667:00 667:30 668:00 668:30 669:00 669:30 670:00 670:30 671:00 671:30 672:00 672:30 673:00 673:30 674:00 674:30 675:00 675:30 676:00 676:30 677:00 677:30 678:00 678:30 679:00 679:30 680:00 680:30 681:00 681:30 682:00 682:30 683:00 683:30 684:00 684:30 685:00 685:30 686:00 686:30 687:00 687:30 688:00 688:30 689:00 689:30 690:00 690:30 691:00 691:30 692:00 692:30 693:00 693:30 694:00 694:30 695:00 695:30 696:00 696:30 697:00 697:30 698:00 698:30 699:00 699:30 700:00 700:30 701:00 701:30 702:00 702:30 703:00 703:30 704:00 704:30 705:00 705:30 706:00 706:30 707:00 707:30 708:00 708:30 709:00 709:30 710:00 710:30 711:00 711:30 712:00 712:30 713:00 713:30 714:00 714:30 715:00 715:30 716:00 716:30 717:00 717:30 718:00 718:30 719:00 719:30 720:00 720:30 721:00 721:30 722:00 722:30 723:00 723:30 724:00 724:30 725:00 725:30 726:00 726:30 727:00 727:30 728:00 728:30 729:00 729:30 730:00 730:30 731:00 731:30 732:00 732:30 733:00 733:30 734:00 734:30 735:00 735:30 736:00 736:30 737:00 737:30 738:00 738:30 739:00 739:30 740:00 740:30 741:00 741:30 742:00 742:30 743:00 743:30 744:00 744:30 745:00 745:30 746:00 746:30 747:00 747:30 748:00 748:30 749:00 749:30 750:00 750:30 751:00 751:30 752:00 752:30 753:00 753:30 754:00 754:30 755:00 755:30 756:00 756:30 757:00 757:30 758:00 758:30 759:00 759:30 760:00 760:30 761:00 761:30 762:00 762:30 763:00 763:30 764:00 764:30 765:00 765:30 766:00 766:30 767:00 767:30 768:00 768:30 769:00 769:30 770:00 770:30 771:00 771:30 772:00 772:30 773:00 773:30 774:00 774:30 775:00 775:30 776:00 776:30 777:00 777:30 778:00 778:30 779:00 779:30 780:00 780:30 781:00 781:30 782:00 782:30 783:00 783:30 784:00 784:30 785:00 785:30 786:00 786:30 787:00 787:30 788:00 788:30 789:00 789:30 790:00 790:30 791:00 791:30 792:00 792:30 793:00 793:30 794:00 794:30 795:00 795:30 796:00 796:30 797:00 797:30 798:00 798:30 799:00 799:30 800:00 800:30 801:00 801:30 802:00 802:30 803:00 803:30 804:00 804:30 805:00 805:30 806:00 806:30 807:00 807:30 808:00 808:30 809:00 809:30 810:00 810:30 811:00 811:30 812:00 812:30 813:00 813:30 814:00 814:30 815:00 815:30 816:00 816:30 817:00 817:30 818:00 818:30 819:00 819:30 820:00 820:30 821:00 821:30 822:00 822:30 823:00 823:30 824:00 824:30 825:00 825:30 826:00 826:30 827:00 827:30 828:00 828:30 829:00 829:30 830:00 830:30 831:00 831:30 832:00 832:30 833:00 833:30 834:00 834:30 835:00 835:30 836:00 836:30 837:00 837:30 838:00 838:30 839:00 839:30 840:00 840:30 841:00 841:30 842:00 842:30 843:00 843:30 844:00 844:30 845:00 845:30 846:00 846:30 847:00 847:30 848:00 848:30 849:00 849:30 850:00 850:30 851:00 851:30 852:00 852:30 853:00 853:30 854:00 854:30 855:00 8

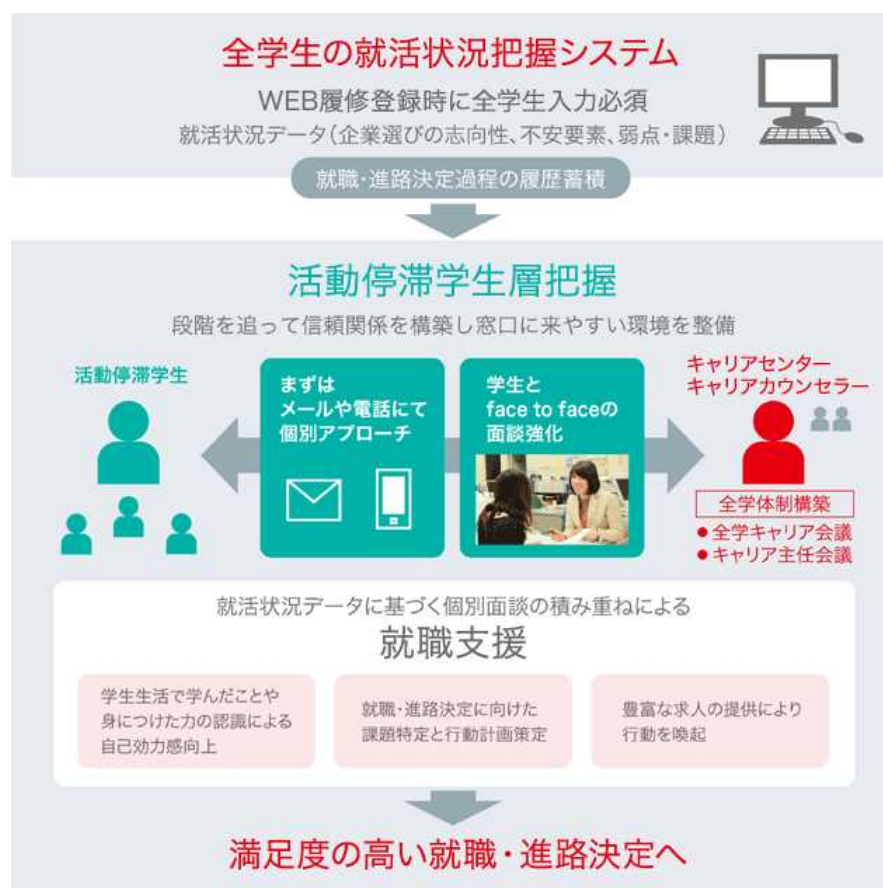


HOME > 就職支援 > キャリア支援・インターンシッププログラム > きめ細やかなフォロー体制

きめ細やかなフォロー体制

取り組みの概要

「就活状況把握システム」では、4,000人を超える4年生の就職活動状況（4月時点）を100%把握しています。ここで抽出した課題（応募企業状況〔企業選びの志向性〕、不安要素、選考通過状況〔弱点・課題〕）をもとに学生の状況等を把握し、窓口に来ることに抵抗を感じる学生には、メール・電話によるアプローチを継続的に行い、信頼関係を築き、最終的には学生とface to faceの面談を実施します。4月時の弱点・課題データと面談の積み重ねで課題克服に向けた主体的な行動を促すとともに、求人情報の提供を行い、学生満足度の高いマッチングを実現します。



国際学部「履修要項」(案) ー抜粋ー

「BIE Program 留学」について

BIE Program (Berkeley Intercultural English Program) は、龍谷大学の Ryukoku University Berkeley Center (アメリカ・バークレー) を利用した本学独自の留学プログラムです。英語学習、異文化交流 (ボランティア活動)、講義を組み合わせたプログラムで 5-week (5 週間) と Semester (半年間) の 2 つのプログラムが年間 2 本 (合計 4 本) あります。

留学期間は在学期間に算入され、5-week プログラムは最大 6 単位、Semester プログラムは最大 18 単位まで認定可能です。

	留学期間	募集期間
5-week summer program	8 月上旬 ～ 9 月下旬	4 月下旬 ～ 5 月中旬
5-week spring program	2 月中旬 ～ 3 月下旬	10 月中旬 ～ 10 月下旬
Fall semester program	10 月上旬 ～ 2 月中旬	5 月中旬 ～ 5 月下旬
Spring semester program	3 月下旬 ～ 7 月下旬	11 月中旬 ～ 11 月下旬

■BIE Program 留学の単位認定について

国際学部 (国際文化学科に限る) が定める、5-week、semester それぞれの認定方法は次のとおりです。

なお、プログラムにおいて全ての講義やプログラムを合格することが単位認定の条件となり、認定の結果は帰国後に判定されるため、認定を確約するものではありません。

留学種別		5-week program		単位	Semester program	単位
単位認定分野	学科外国語科目	科目名	語学研修 A（英語）	2	語学研修 A（英語）	2
					English Communication Speaking, Writing, Reading	3
					バークレー語学	5
	学部専攻科目		バークレー講義	2	バークレー講義	4
			バークレーボランティア	2	バークレーボランティア	4
		合 計		6	合 計	18

「国際文化実践プログラム」について

国際文化学科の教育理念である「世界を学び、日本を知る」を具現化し、また、「世界と日本をつなぐ」ことのできる人材となるためには、言語や風習などに起因する文化間の差異を認識し、異文化間の壁を乗り越えるための実践的な経験が必要かつ重要です。一般的な講義形式の授業だけではこうした経験の獲得が難しいため、国際文化学科では、学生が主体的に学ぶアクティブラーニング形式の「国際文化実践プログラム」を必修科目として導入します。

本科目は、事前学習に充てられる「国際文化実践プログラムⅠ」と、学生が自身の興味・関心にもとづき選択する「国際文化実践プログラムⅡ」で構成されます。これらの科目を通じて、学生が「世界を学び、日本を知る」ことを促し、また、「世界と日本をつなぐ」人材になることができるよう、学科専任教員が責任を持って教育に当たります。

■概要

2 年次前期に履修すべき必修科目として「国際文化実践プログラムⅠ」（2 単位）を、また、2 年次後期以降に履修すべき必修科目として「国際文化実践プログラムⅡ」（A～G の 7 類型からいずれか 1 つを選択、2 単位）を配置します。

「国際文化実践プログラムⅠ」は、「国際文化実践プログラムⅡ」（A～G）の選択および履修に資する事前学習に充てられ、学生が自身の興味・関心や将来の希望にもとづき、どのような実践的経験を積むことが適切であるかを、教員の助言・指導等を受けながら検討し、決定することを授業のねらいとします。「国際文化実践プログラムⅡ」は、学生が自ら選択したプログラムを受講し、異文化間の壁を乗り越え、世界と日本をつなぐための実践的な経験を積むこと（国際文化学科では、これを「実践学習」と呼びます）を授業のねらいとします。

これらの科目は、国際文化学科の各コース（「多文化共生」、「世界と日本」、「芸術・メディア」）に所属する専任教員（各コース 3～5 名程度を想定）によって運営されます。併せて TA（ティーチング・アシスタント）を配置することで、円滑な授業展開と教育効果の浸透を図ります。各科目の詳細は以下のとおりです。

■国際文化実践プログラムⅠ（事前学習）

国際文化学科所属の学生全員が、原則として 2 年次前期に履修します。国際文化学科では、2 年次からいずれかのコース（「多文化共生」、「世界と日本」、「芸術・メディア」）に所属するため、学生は、自身の所属コース教員が担当する「国際文化実践プログラムⅠ」の授業を受けることになります。授業では、「世界と日本をつなぐ」上で求められるさまざまな知識のほか、フィールドワークやインタビューなどの実践的な技法も学びます。

同時に、学生は「国際文化実践プログラムⅡ」を通じて、どのような実践的な経験を積むべきか／積みたいかを検討し、担当教員の助言や指導を受けながら、第 3 セメスター終了時まで、「国際文化実践プログラムⅡ」で自身が主体的に取り組む学習内容の計画書を作成し、担当教員から了承を得ることが求められます。なお、2 年次前期の段階で既に留学している学生については、メール等を通じて担当教員から遠隔地指導を受け、同様の課題に取り組めます。

■国際文化実践プログラムⅡ（実践学習）

国際文化学科に所属する学生は、2 年次後期以降（夏期集中講義期間を含む）、文化間の差異を認識し、また、異文化間の壁を乗り越える上で求められる知識や技法を獲得すべく、2 年次前期の「国際文化実践プログラムⅠ」で構想し、担当教員の承認を得た計画書にもとづき本科目を履修し、実践的な経験を積みます。

本科目では、教員が適宜必要な助言・指導等をしながら、学生は計画書にもとづき自発的に実

実践学習に取り組み、所定の期日までに報告書または成果物を提出することが求められます。また、学生による報告会を企画し、実践学習から得られた知見等を学科全体で共有できるようにします。なお、「国際文化実践プログラムⅡ」は以下 A～G のパターンに類型化されており、学生はいずれかを選択し、履修します（いずれも 2 単位）。

○プログラム A（長期留学型）

海外への長期留学を以て実践学習の機会とします。留学する時期は原則として 2 年後期以降とし、期間は半期（6 か月）以上とします。留学期間中は、国際文化学科が運用するソーシャル・ネットワークワーキング・サービス（TNG Net）を通じて、所属コースが指定する課題に取り組みます。

○プログラム B（短期語学研修型）

国際学部または各言語の担当教員が企画し、海外の教育機関で行われる語学研修への参加を以て実践学習の機会とします。各研修当たり 30～40 名を定員とし、期間は 3 週間程度とします。

＜例＞ 短期英語研修、短期フランス語研修、短期韓国語研修、短期中国語研修など

○プログラム C（短期国外文化研修型）

国際文化学科の各コースが企画する国外文化研修への参加を以て実践学習の機会とします。各研修当たり 20 名程度を定員とし、期間は内容に応じて 1～3 週間程度とします。

＜例＞ アジア宗教文化研修（インドでのフィールドワーク）、イスラーム文化研修（イラン訪問）など

○プログラム D（短期国内文化研修型）

国際文化学科の各コースが企画する国内文化研修への参加を以て実践学習の機会とします。各研修当たり 20 名程度を定員と、期間は内容に応じて 1～3 週間程度とします。

＜例＞ 日本文化・京都学研修、在日外国人の生活実態調査など

○プログラム E（集中講義型）

実践的な内容を含む夏期集中講義（コースが指定したものに限る）を受講することで実践学習の機会とします。教育効果を担保する観点から、必要に応じて人数制限を実施します。

＜例＞ 専門家との協働による映像・演劇作品制作、環境学フィールド（屋久島）実習など

○プログラム F（インターンシップ型）

実践的な内容を含む企業や団体等のインターンシップへの参加を以て実践学習の機会とします。公益財団法人「大学コンソーシアム京都」協定型インターンシップのほか、各コースが今後企画を検討しているインターンシップも対象とします。

＜例＞ 地方自治体の多文化共生施策担当部署でのインターン、外国人労働者を雇用する日本企業でのインターンなど

○プログラム G（自己応募型）

上記 A～F のいずれにも該当しないパターンで、計画書にもとづき、教員の助言・指導を受けながら学生が進める自発的取り組みを以て実践学習の機会とします。夏期休暇や春期休暇のほか、必要に応じて授業実施期間にも取り組みを進めます。